



神奈川県

政策局政策部
情報公開広聴課

令和6年度

県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和6年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和7年2月公表

テーマ「食の安全・安心」「食・食育」「かながわの農林水産業」

「2027年国際園芸博覧会」「スポーツ」

「地震対策の取組み」「治安対策」

「地域社会との関わり」「地域コミュニティ」

「子どもの貧困対策」「里親制度」

「ともに生きる社会かながわ」「かながわの広報」

第2回課題調査…………… 令和7年3月公表

テーマ「かながわの文化芸術」「かながわの道路」

「かながわの人権」「配偶者等からの暴力」

「生活に不安や課題がある人への支援」

「インクルーシブ教育」「『未病改善』の取組み」

「依存症に対する意識」「肝炎対策」「循環器病対策」

「脱炭素・環境」「かながわの水源地域」

「水源環境保全・再生の取組み」「生物多様性」「消防団」

はじめに

神奈川県では、県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映することにより、県民参加の行政を一層推進するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

県民ニーズ調査は、県民の生活や県政についての意識を継続的に調査している「基本調査」と、時勢に応じたテーマについて調査する「課題調査」があります。本報告書は、令和6年7月から8月にかけて実施した「基本調査」、9月から10月にかけて13テーマについて実施した「第1回課題調査」、及び10月から11月にかけて15テーマについて実施した「第2回課題調査」の結果をまとめたものです。

この報告書が、行政担当者のみならず、県民生活の現状と将来に関心を寄せる方々に広くご活用いただければ幸いです。

おわりに、このたびの調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和7年3月

神奈川県政策局長

目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
 - 1 生活総合満足度
 - 2 暮らし向きの変化
 - 3 今後の暮らし向きの見通し
 - 4 地域の住みよさ
 - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
 - 1 重要度
 - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	119
----------------	-----

第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	133
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	141
第Ⅲ部 調査結果の詳細	153
第1章 食の安全・安心	155
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第2章 食・食育	161
1 「食育」への関心	
2 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
3 ゆっくりよく噛んで食べているか	
4 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
5 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか	
6 朝食を同居の方と食べる頻度	
7 夕食を同居の方と食べる頻度	
8 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
9 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
第3章 かながわの農林水産業	179
1 県の農業に期待する役割	
2 「地産地消」の取組みの重要度	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け	
第4章 2027年国際園芸博覧会	187
1 GREEN×EXPO 2027の認知度	
2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ	
3 GREEN×EXPO 2027に期待すること	
4 GREEN×EXPO 2027と一緒に楽しみたい観光のテーマ	

第5章	スポーツ	195
1	体力への自信の有無	
2	1年間のスポーツ実施日数	
3	スポーツ推進に係る取組みの認知度	
4	「かながわパラスポーツ」の認知度	
第6章	地震対策の取組み	203
1	大きな地震に備えた対策	
2	海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動	
3	津波に対する知識や理解	
4	津波に対して実施が望まれる制度	
第7章	治安対策	211
1	不安に感じる犯罪	
2	地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3	犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの	
第8章	地域社会との関わり	217
1	地域社会との関わりを大切にする意識	
第9章	地域コミュニティ	219
1	地域コミュニティにおけるコミュニケーション	
2	地域コミュニティにおけるコミュニケーションの取りやすさ	
3	地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りやすい理由	
4	地域コミュニティにおけるコミュニケーションが取りにくい理由	
第10章	子どもの貧困対策	227
1	「子どもの貧困」の認知度	
2	身近に支援が必要な子どもはいると思うか	
3	困難な環境にある子どもへの地域の支援活動に対する考え方	
第11章	里親制度	233
1	里親制度に対する知識や理解	
2	里親になってみたいと思うか	
第12章	ともに生きる社会かながわ	237
1	共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度	
2	「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
3	障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方	
4	障がい者に配慮した行動をとる人	
5	障がい者への差別・偏見の有無	
6	「ヘルプマーク」の認知度	
7	希望する手話の学習方法	
第13章	かながわの広報	251

- 1 県の広報の達成度
- 2 県の広報媒体の認知度
- 3 県政情報の入手先

第Ⅳ部 調査票と単純集計結果	257
----------------	-----

第2回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	275
-----------	-----

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	283
-------------	-----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	299
-------------	-----

第1章 かながわの文化芸術	301
---------------	-----

- 1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数
- 2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル
- 3 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル

第2章 かながわの道路	307
-------------	-----

- 1 快適に移動するための道路づくりに重要なこと
- 2 安心してくらすための道路づくりに重要なこと
- 3 生活や経済活動を活性化するための道路づくりに重要なこと
- 4 気持ちのよい環境でくらすための道路づくりに重要なこと

第3章 かながわの人権	315
-------------	-----

- 1 基本的人権が尊重されている社会か
- 2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題
- 3 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み

第4章 配偶者等からの暴力	321
---------------	-----

- 1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと

第5章 生活に不安や課題がある人への支援	323
----------------------	-----

- 1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度
- 2 ひとり親家庭への支援状況
- 3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況

第6章	インクルーシブ教育	329
1	県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度	
2	現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか	
3	すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向	
第7章	「未病改善」の取組み	335
1	「未病（ME－BYO）」の認知度	
2	過去1年間の「未病改善」の取組状況	
3	「未病改善」の取組みに必要だと思うもの	
4	「フレイル」の認知度	
第8章	依存症に対する意識	343
1	依存症に対する意識に関する認知状況	
2	依存症に関する相談場所として知っているもの	
3	相談できる場所を知ったきっかけ	
第9章	肝炎対策	349
1	ウイルス性肝炎の認知度	
2	「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3	検査結果の把握状況	
第10章	循環器病対策	355
1	脳卒中の主な初期症状の認知度	
2	脳卒中への適切な対応の認知度	
3	心臓病の再発防止対策の認知度	
第11章	脱炭素・環境	361
1	特に力を入れてほしい環境に関する取組み	
2	脱炭素を意識した取組み	
3	再生可能エネルギー由来の電力の使用意向	
4	「気候変動への適応」への関心	
第12章	かながわの水源地域	369
1	水源地域の観光地でお土産などを購入する際に重視すること	
2	水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと	
3	「神奈川やまなみ五湖 navi」などの観光情報サイトで知りたいこと	
第13章	水源環境保全・再生の取組み	375
1	水源地域の環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組み	
2	水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか	
第14章	生物多様性	379
1	「生物多様性」の言葉の意味の認知度	
2	生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること	
3	周辺地域の自然環境の変化	
第15章	消防団	385

- 1 消防団の認知度
- 2 消防団への入団意向
- 3 消防団に入団する人が少ない理由

第2回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) かながわの文化芸術
- (2) かながわの道路
- (3) かながわの人権
- (4) 配偶者等からの暴力
- (5) 生活に不安や課題がある人への支援
- (6) インクルーシブ教育
- (7) 「未病改善」の取組み
- (8) 依存症に対する意識
- (9) 肝炎対策
- (10) 循環器病対策
- (11) 脱炭素・環境
- (12) かながわの水源地域
- (13) 水源環境保全・再生の取組み
- (14) 生物多様性
- (15) 消防団

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和 6 年 10 月 25 日（金）～11 月 19 日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 C C Nグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	3,000 標本
有効回収数	1,185 標本 〔 郵送回答 : 744 件 〕 〔 インターネット回答 : 441 件 〕
有効回収率	39.5%

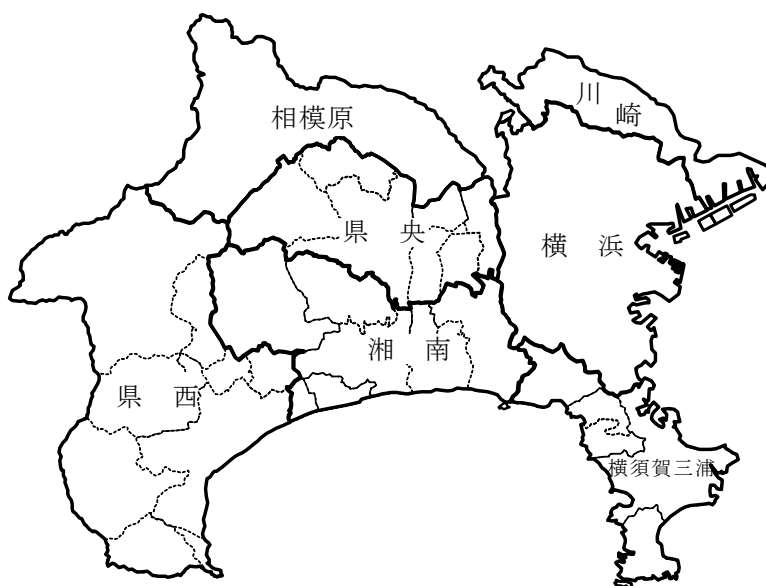
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	477	39.8%
川崎	川崎市	460	160	34.8%
相模原	相模原市	220	77	35.0%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	104	40.0%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	115	38.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	187	42.5%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	55	45.8%
無 回 答			10	
全 体		3,000	1,185	39.5%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和5年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,150,054人 60地点 1,200標本	-	-	3,150,054人 60地点 1,200標本
川 崎	1,275,106人 23地点 460標本	-	-	1,275,106人 23地点 460標本
相模原	606,915人 11地点 220標本	-	-	606,915人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	561,677人 12地点 240標本	26,203人 1地点 20標本	587,880人 13地点 260標本
県 央	-	687,693人 14地点 280標本	36,584人 1地点 20標本	724,277人 15地点 300標本
湘 南	-	1,013,387人 20地点 400標本	91,235人 2地点 40標本	1,104,622人 22地点 440標本
県 西	-	194,026人 4地点 80標本	91,376人 2地点 40標本	285,402人 6地点 120標本
人口計	5,032,075人	2,456,783人	245,398人	7,734,256人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和5年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,185	± 2.46	± 3.29	± 3.77	± 4.03	± 4.11
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,185 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±4.03 以内（真の値は、55.97%～64.03%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 185) (%)

横浜	40.3
川崎	13.5
相模原	6.5
横須賀三浦	8.8
県央	9.7
湘南	15.8
県西	4.6

(無回答 0.8)

(2) 性別 (n=1, 185) (%)

男性	45.2
女性	50.9

(無回答 3.9)

(3) 年齢 (n=1, 185) (%)

18～29 歳	4.5
30～39 歳	9.1
40～49 歳	20.3
50～59 歳	23.4
60～69 歳	19.1
70～74 歳	9.2
75 歳以上	13.3

(無回答 1.1)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 185) (%)

小学校入学前	7.3
小学校在学中	11.4
中学校在学中	8.4
高校在学中	7.9
短大、専門学校等在学中	1.3
大学、大学院等在学中	8.3
学校教育終了[未婚]	24.0
学校教育終了[既婚]	27.6
その他	2.6
子どもはいない	28.2

(無回答 1.6)

(5) 家族形態 (n=1, 185) (%)

一人暮らし (単身世帯)	12.1
夫婦のみ (1 世代世帯)	31.1
親と子の世帯 (2 世代世帯)	47.8
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	3.5
その他の世帯	4.1

(無回答 1.4)

(6) 職業区分 (n=1, 185) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.4
	家族従業者	0.9
勤め・内職	勤め (フルタイム)	40.3
	勤め (パートタイム)	16.0
	内職	-
主婦・主夫 (勤めていない)		15.0
学生		0.8
無職		15.6
その他		0.5

(無回答 4.3)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=755) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.5
	商工サービス業	4.4
	自由業	5.4
勤め・内職	経営・管理職	8.3
	専門・技術職	18.5
	事務職	24.4
	教育職	7.5
	技能・労務職	7.8
	販売・サービス職	18.3

(無回答 4.8)

第 2 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならないことがある。
- 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100％を上回ることがある。
- 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
 （例：問12で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものを《そう思う》と表現している。
 また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

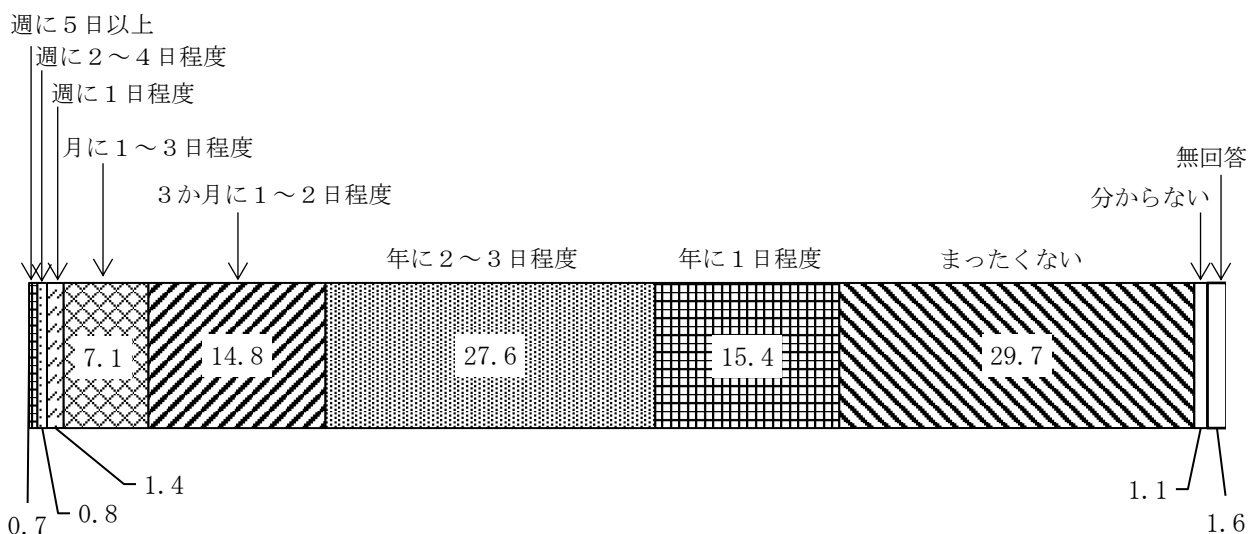
1 かながわの文化芸術（問1～問3）

県では、真にゆとりとゆるいおいを実感できる心豊かな県民生活と、個性豊かで活力に満ちた地域づくりを実現するため、県民の方に文化芸術に触れる様々な機会を提供し、あらゆる人の文化芸術活動が充実するよう取り組んでいます。今回、1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数などについて調査しました。

▼ 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（問1）

この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数を尋ねたところ、「まったくない」が29.7％で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が27.6％であった。[図表1]

図表1 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（n=1,185）（％）



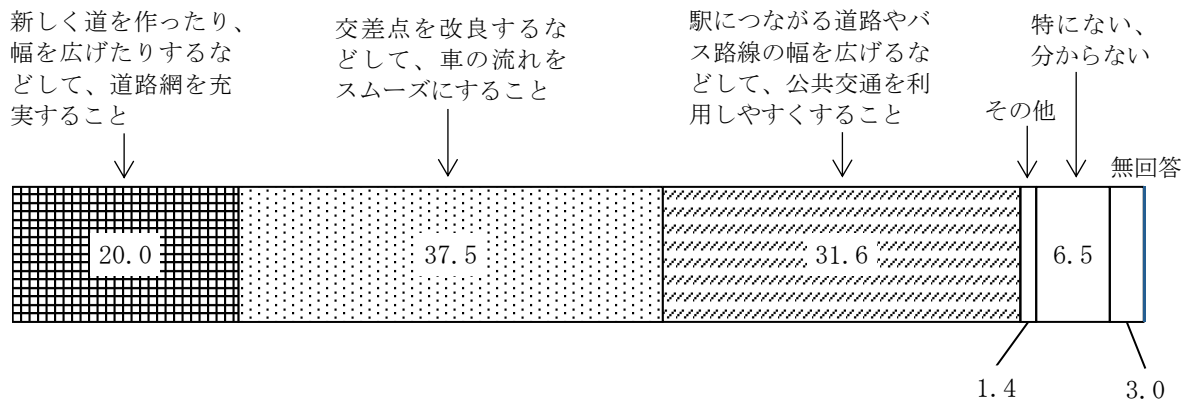
2 かながわの道路（問4～問7）

県では、「かながわのみちづくり計画」に基づき、選択と集中を図りながら、道路事業を推進しています。今回、渋滞なく快適に移動するために、道路事業で特に重要だと思うことなどについて調査しました。

▼渋滞なく快適に移動するために、道路事業で特に重要だと思うこと（問4）

いつでも、どこへも、渋滞なく快適に移動するためには、道路事業において、どのようなことが特に重要だと思うか尋ねたところ、「交差点を改良するなどして、車の流れをスムーズにすること」が37.5%で最も多く、次いで「駅につながる道路やバス路線の幅を広げるなどして、公共交通を利用しやすくすること」が31.6%であった。〔図表2〕

図表2 渋滞なく快適に移動するために、道路事業で特に重要だと思うこと（n=1,185）（%）



3 かながわの人権（問8～問10）

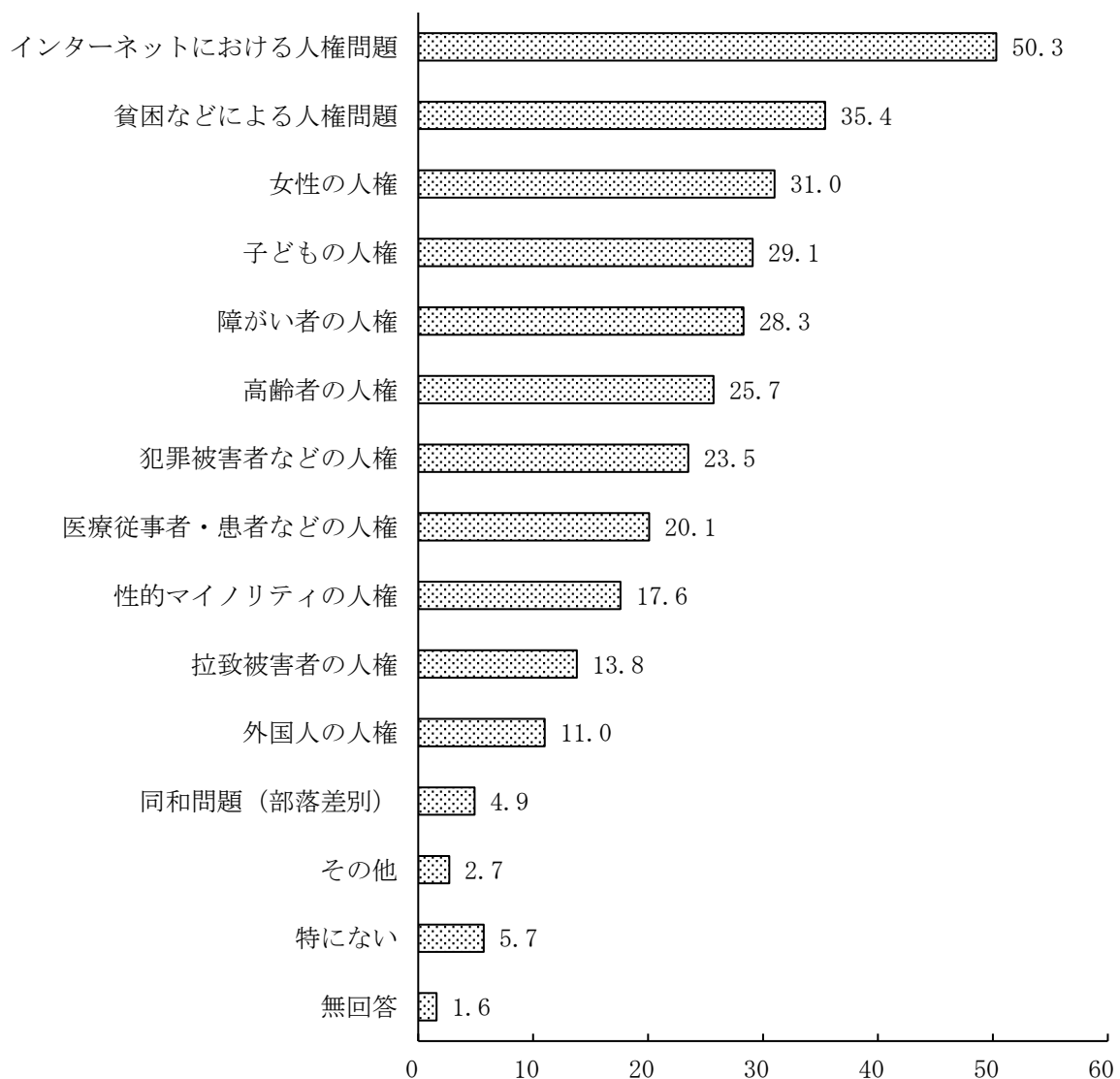
県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問9）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が50.3%で最も多く、次いで「貧困などによる人権問題」が35.4%であった。

[図表3]

図表3 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,185）（%）



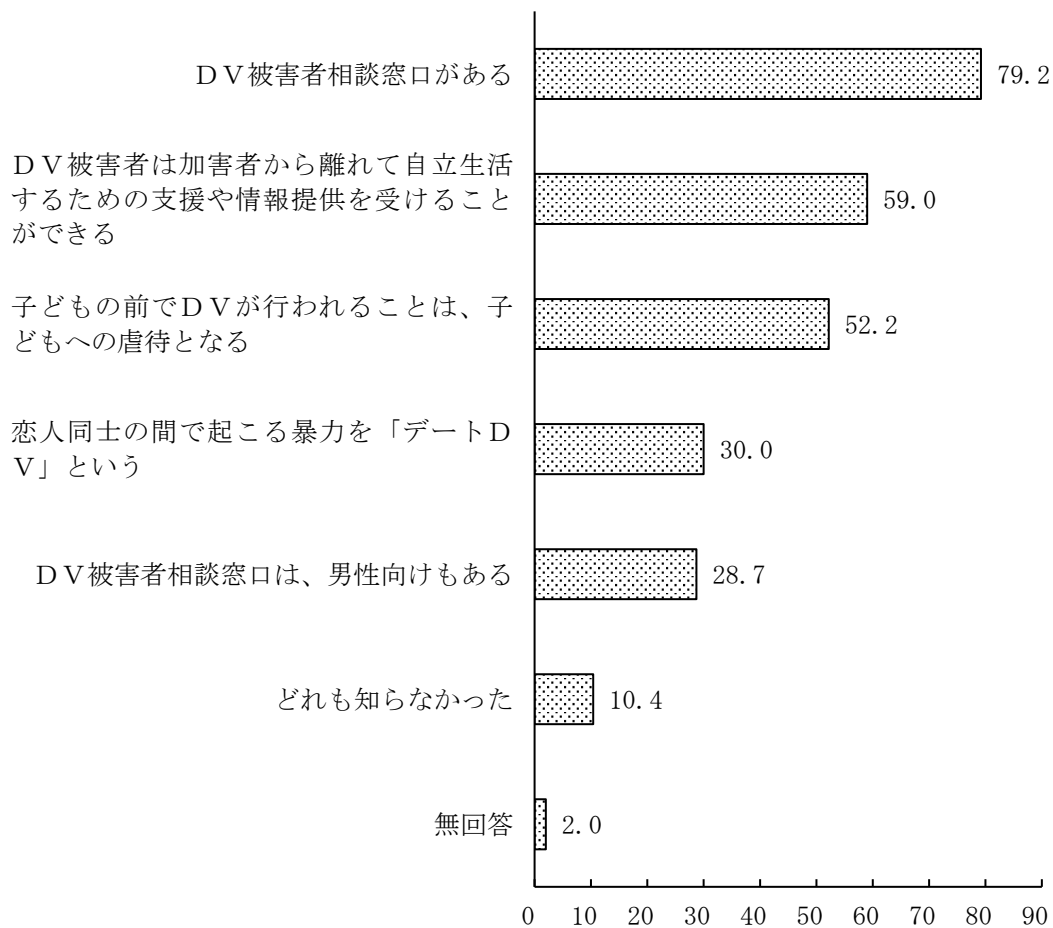
4 配偶者等からの暴力（問 11）

県では、「かながわ困難な問題を抱える女性等支援計画」に基づき、DV被害者への支援の充実や、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解について調査しました。

▼配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（問 11）

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が 79.2%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が 59.0%であった。[図表 4]

図表 4 配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（複数回答）（n=1,185）（%）



5 生活に不安や課題がある人への支援（問12～問14）

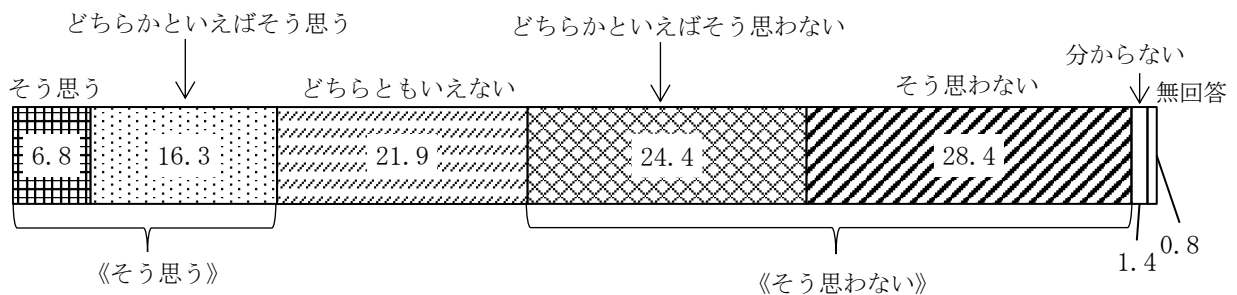
県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問12）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（6.8%）と「どちらかといえばそう思う」（16.3%）を合わせた《そう思う》は23.0%であった。

一方、「そう思わない」（28.4%）と「どちらかといえばそう思わない」（24.4%）を合わせた《そう思わない》は52.8%であった。[図表5]

図表5 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（n=1,185）（%）



6 インクルーシブ教育（問15～問17）

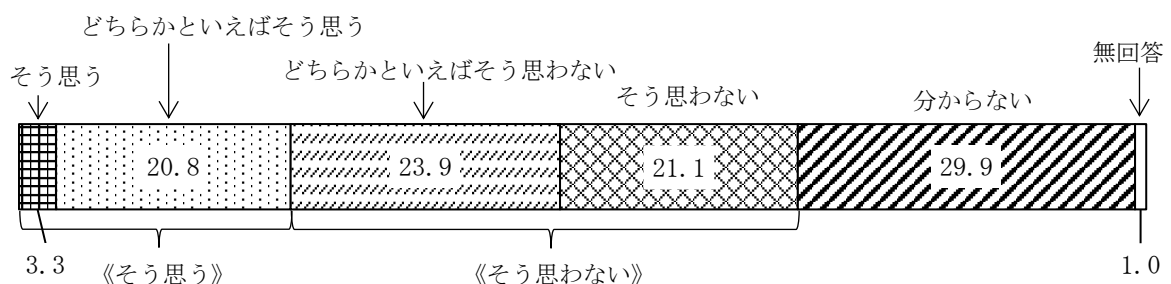
県では、共生社会の実現に向け、すべての子どもが同じ場でともに学びともに育つことを目指して、インクルーシブ教育を推進し、すべての子どもにとって学びやすい学校づくりに取り組んでいます。今回、現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかなどについて調査しました。

▼現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（問16）

現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（3.3%）と「どちらかといえばそう思う」（20.8%）を合わせた《そう思う》は24.1%であった。

一方、「そう思わない」（21.1%）と「どちらかといえばそう思わない」（23.9%）を合わせた《そう思わない》は45.0%であった。[図表6]

図表6 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（n=1,185）（%）



7 「未病改善」の取組み（問 18～問 21）

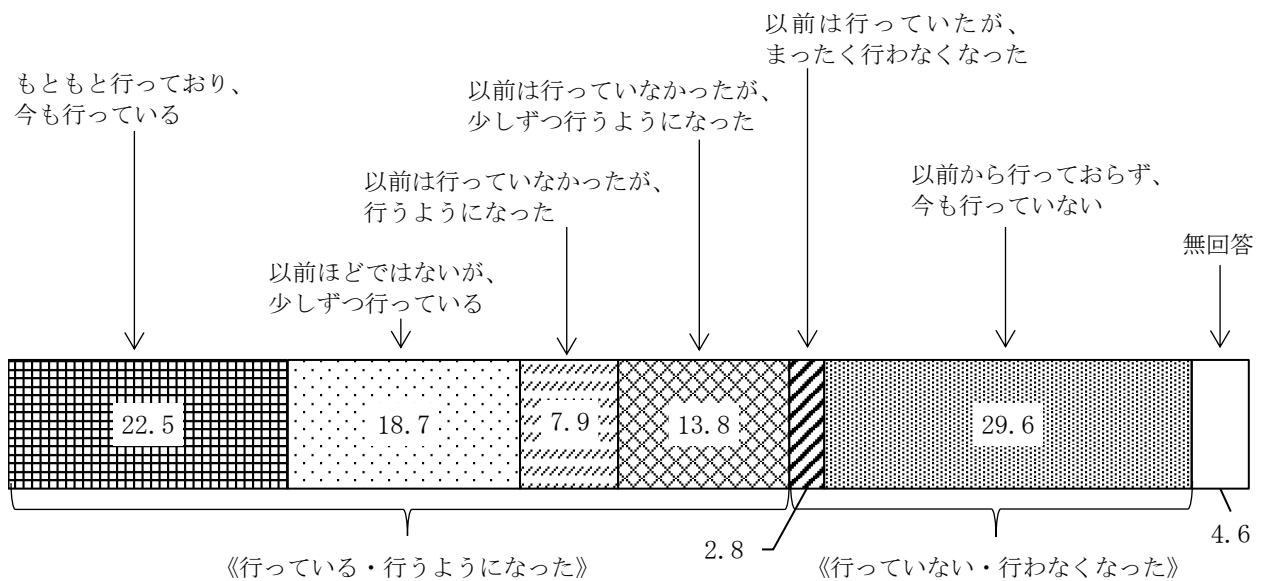
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去1年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

▼過去1年間の「未病改善」の取組状況（問 19）

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」（22.5%）、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」（18.7%）、「以前は行っていなかったが、行うようになった」（7.9%）、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」（13.8%）、を合わせた《行っている・行うようになった》は63.0%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」（29.6%）と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」（2.8%）を合わせた《行っていない・行わなくなった》は32.4%であった。[図表7]

図表7 過去1年間の「未病改善」の取組状況（n=1,185）（%）



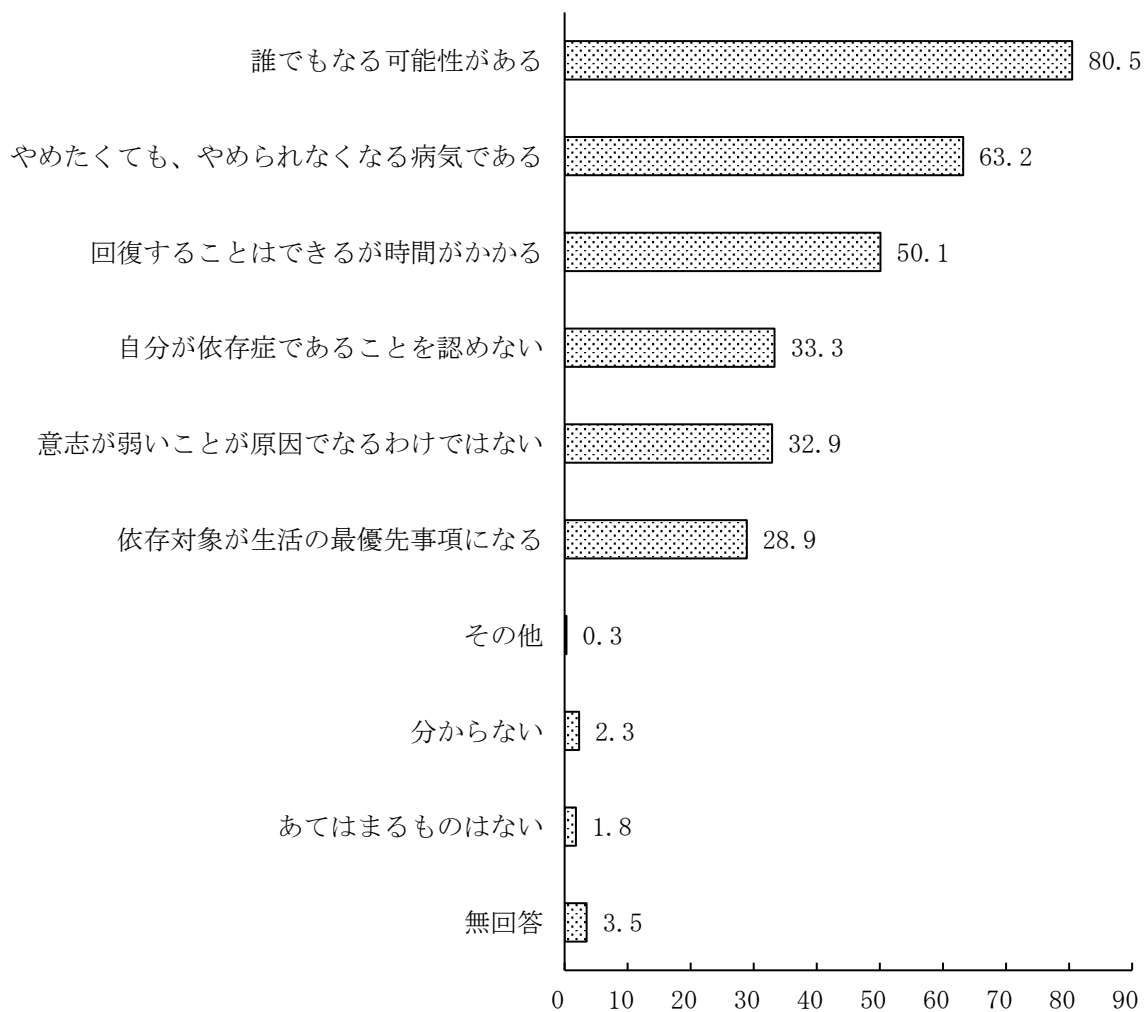
8 依存症に対する意識（問 22～問 23）

県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 22）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 80.5%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 63.2%であった。[図表 8]

図表 8 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,185）（%）



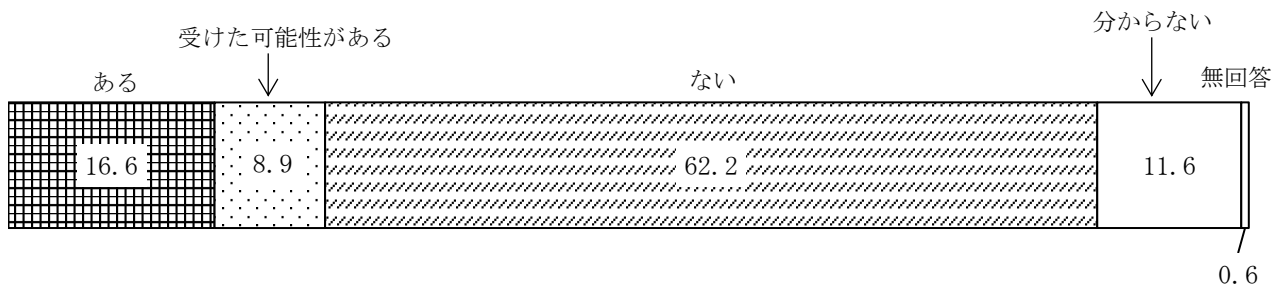
9 肝炎対策（問 24～問 25）

県では、「神奈川県肝炎対策推進計画」を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 25）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 16.6%であった。一方、「ない」が 62.2%であった。〔図表 9〕

図表 9 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,185）（%）



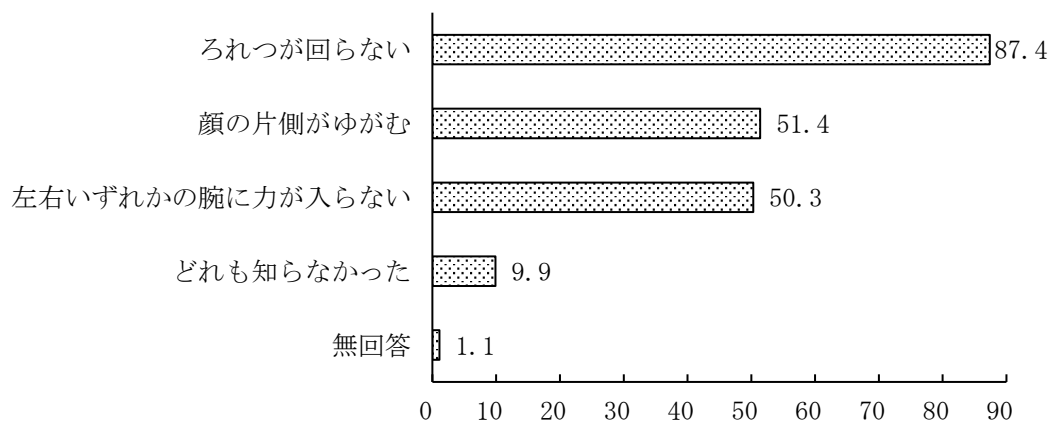
10 循環器病対策（問 26～問 28）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 26）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が 87.4%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が 51.4%であった。〔図表 10〕

図表 10 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,185）（%）



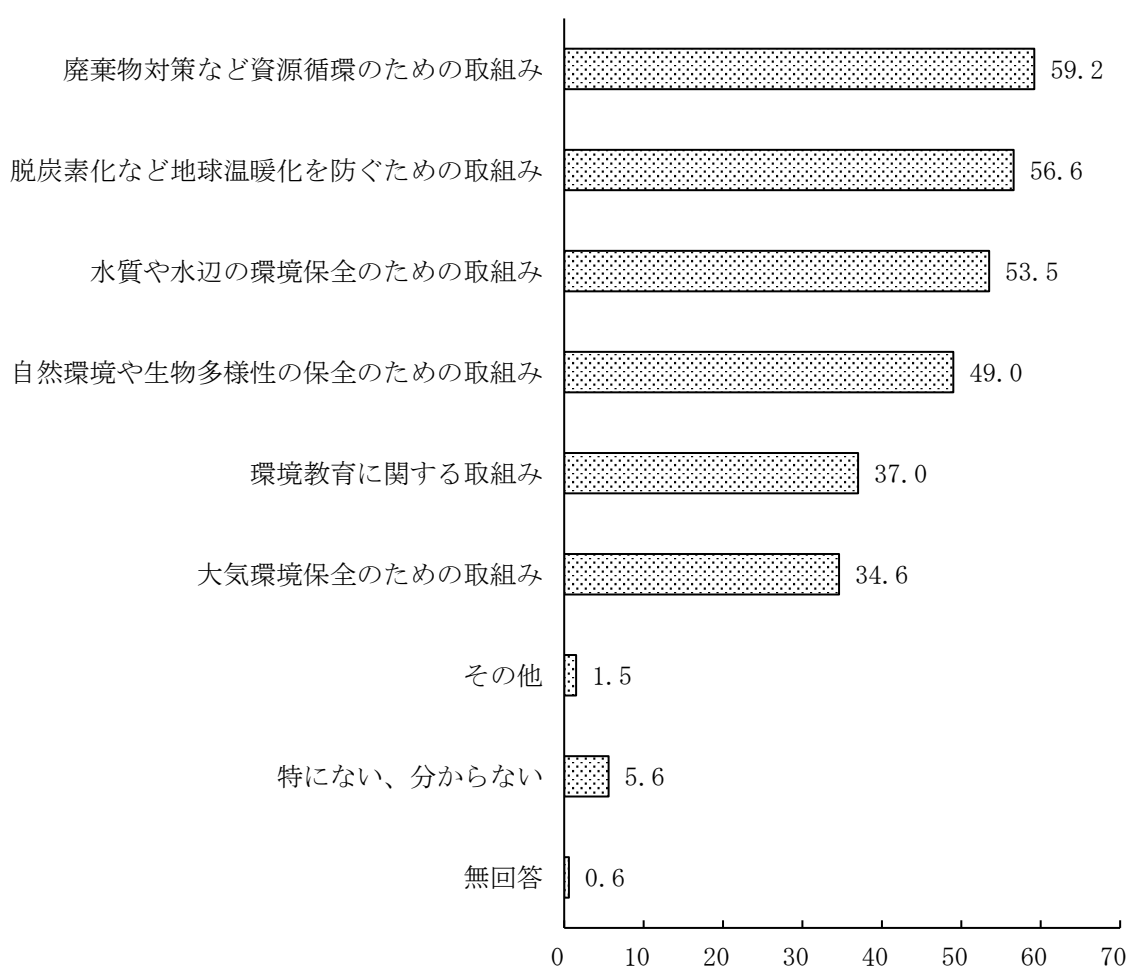
11 脱炭素・環境（問 29～問 32）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問 29）

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいかを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が 59.2%で最も多く、次いで「脱炭素化など地球温暖化を防ぐための取組み」が 56.6%であった。〔図表 11〕

図表 11 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,185）（%）



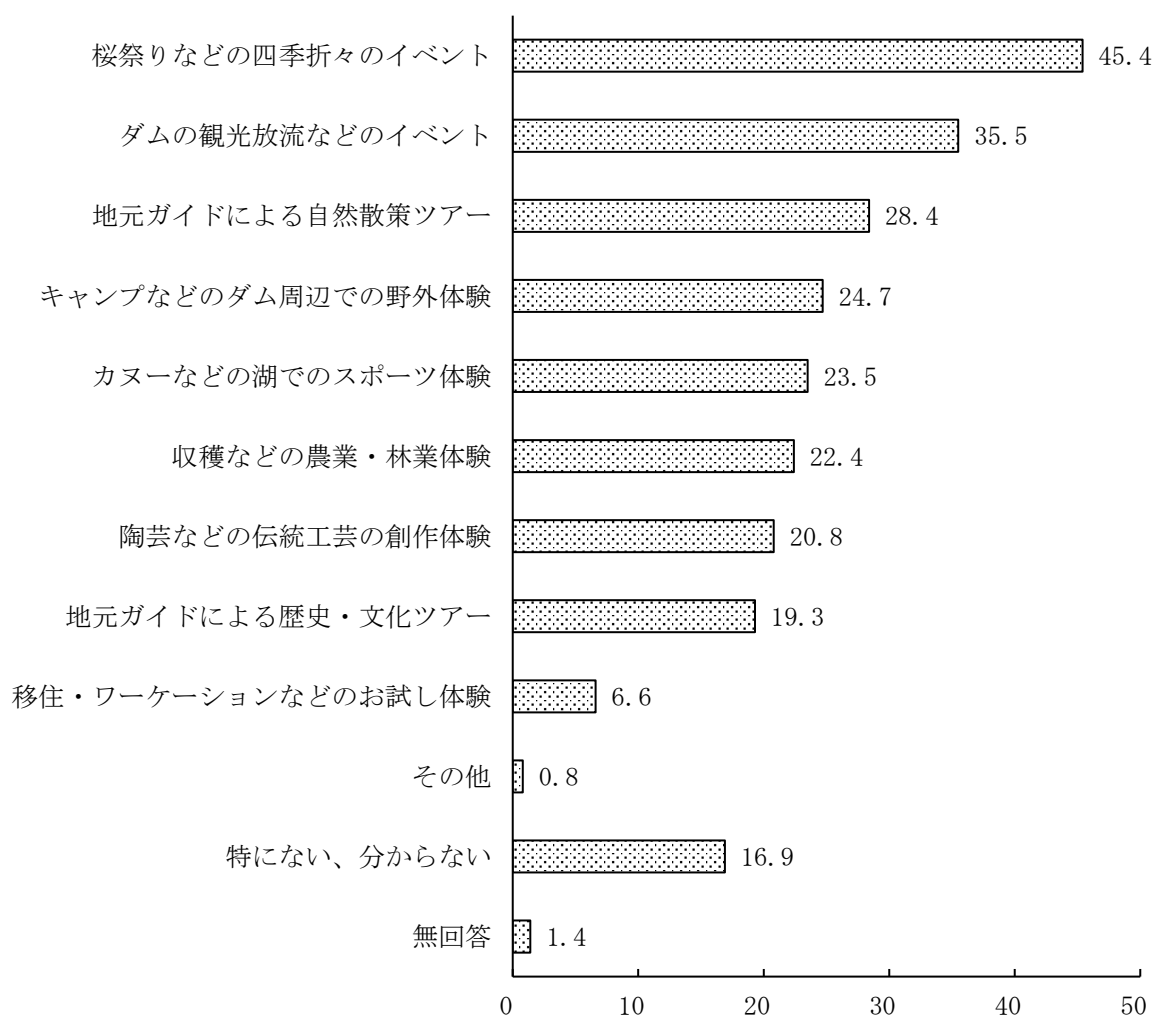
12 かながわの水源地域（問 33～問 35）

県では、水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、水源地域における交流を通じて、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでいます。今回、水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいことについて調査しました。

▼水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと（問 34）

水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいことについて複数回答で尋ねたところ、「桜祭りなどの四季折々のイベント」が45.4%で最も多く、次いで「ダムの観光放流などのイベント」が35.5%であった。[図表 12]

図表 12 水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと（複数回答）（n=1,185）（%）



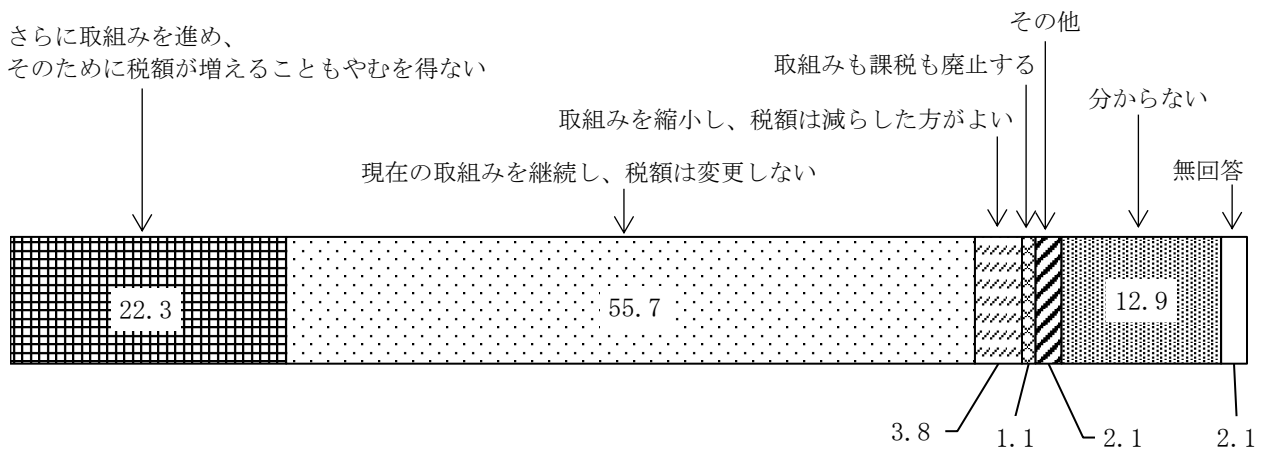
13 水源環境保全・再生の取組み（問 36～問 37）

県では、県民の皆さんに個人県民税の超過課税（水源環境保全税）という特別なお負担（納税者一人当たりの平均負担額は年額約 880 円）をお願いし、水源環境の保全・再生を進めています。今回、水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うかなどについて調査しました。

▼水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか（問 37）

水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「現在の取組みを継続し、税額は変更しない」が 55.7%で最も多く、次いで「さらに取組みを進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」が 22.3%であった。[図表 13]

図表 13 水源環境保全・再生の取組みについて、
今後どのようにしたらよいと思うか (n=1,185) (%)



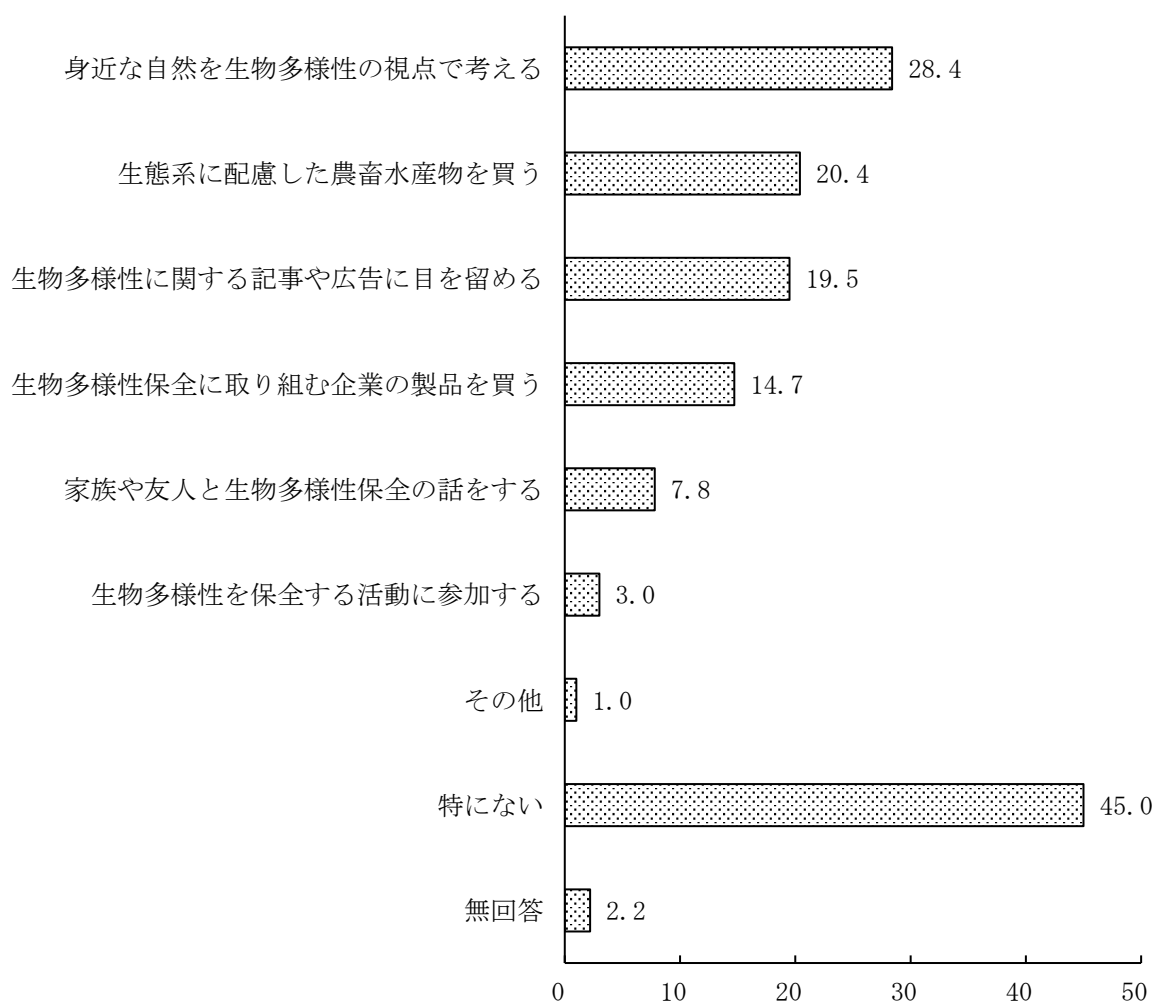
14 生物多様性（問 38～問 40）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 39）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 28.4%で最も多く、次いで「生態系に配慮した農畜水産物を買う」が 20.4%であった。[図表 14]

図表 14 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) (n=1,185) (%)



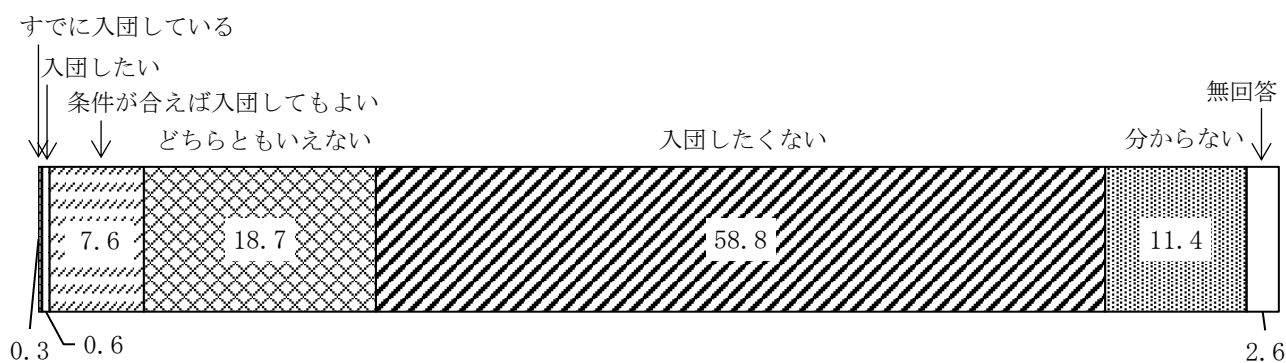
15 消防団（問 41～問 43）

県では、地域の安全・安心を支える地域防災の要である消防団の充実強化のための取組みを進めています。今回、消防団への入団意向などについて調査しました。

▼消防団への入団意向（問 42）

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない」が 58.8%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が 18.7%であった。〔図表 15〕

図表 15 消防団への入団意向（n=1,185）（%）



第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 かながわの文化芸術【問1～問3】

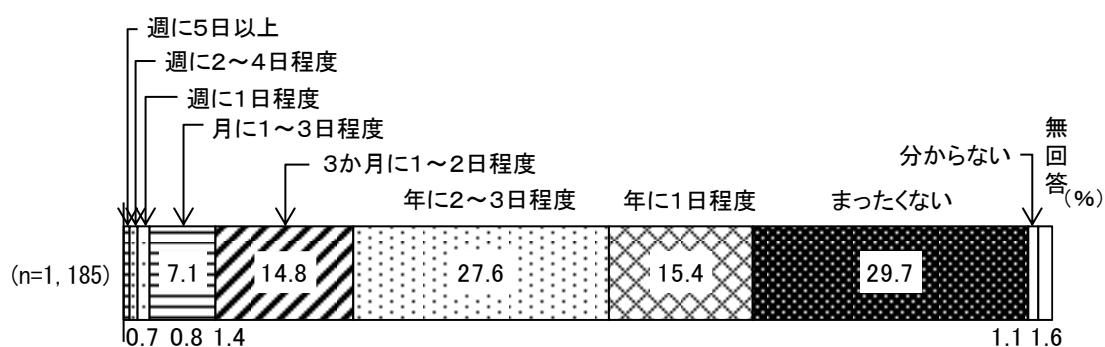
1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数【問1】

【全体の状況】

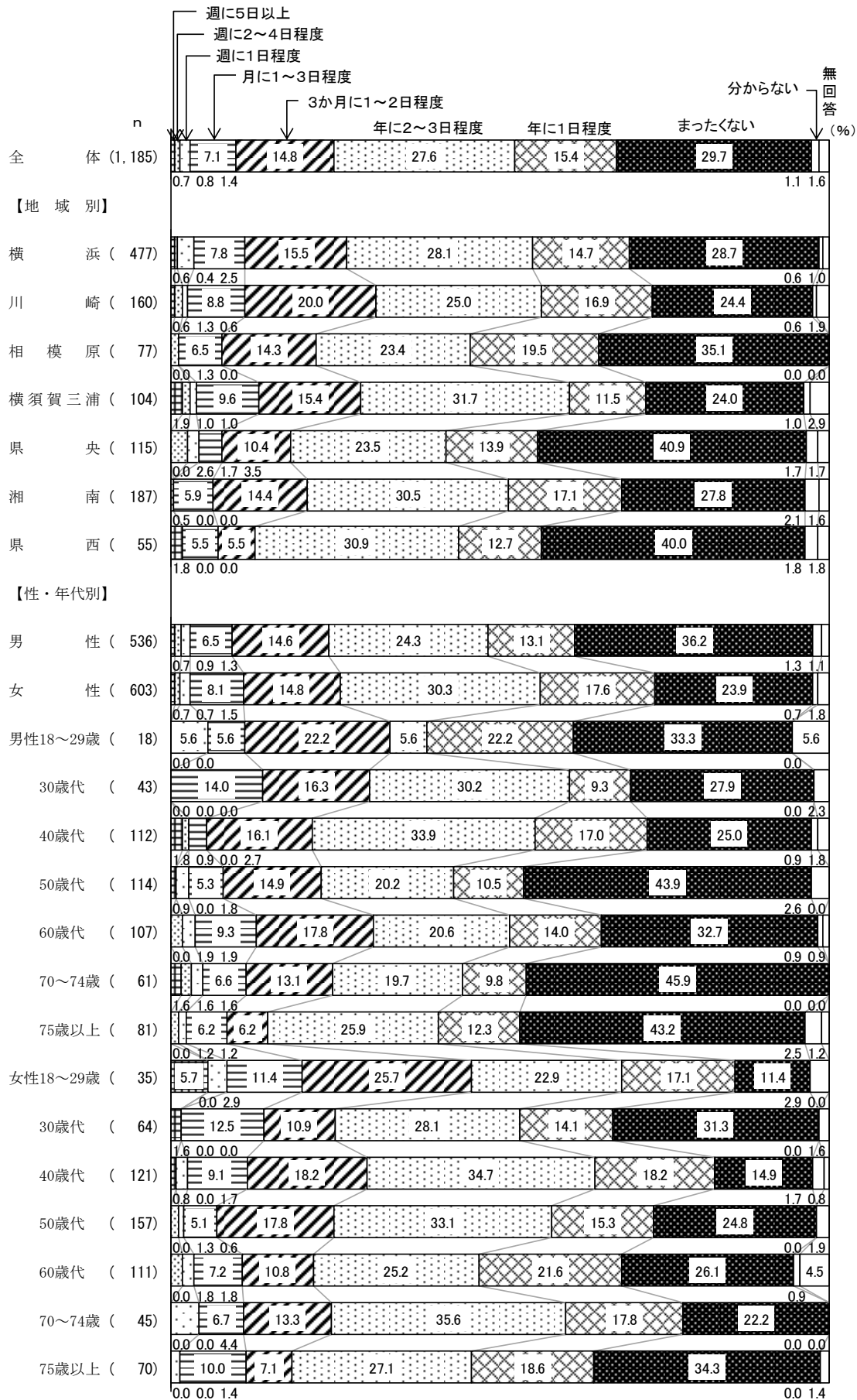
この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数はどのくらいになるか尋ねたところ、「まったくない」が29.7%で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が27.6%であった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数



図表1-1-2 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数—地域別、性・年代別

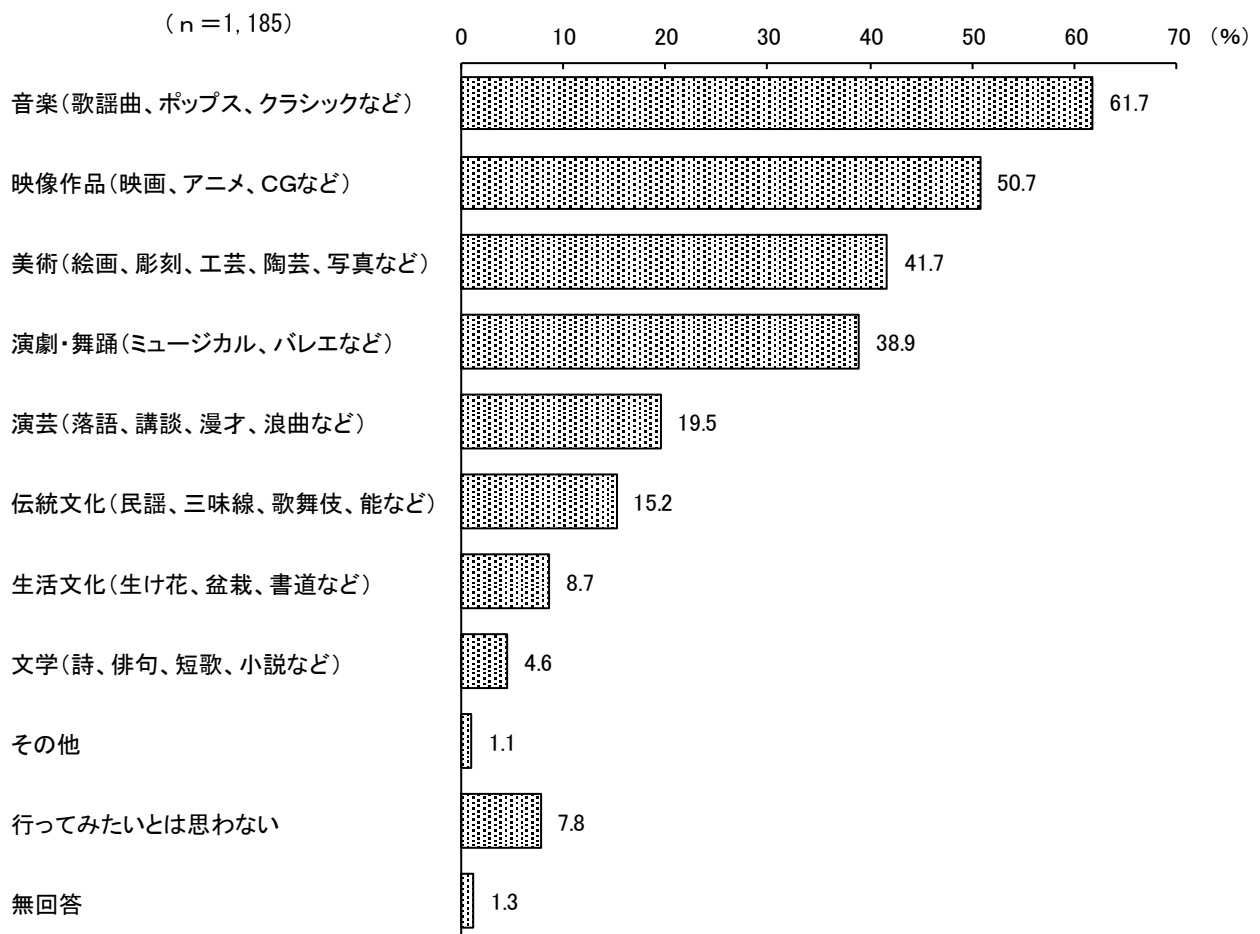


2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル【問2】

【全体の状況】

ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンルについて複数回答で尋ねたところ、「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が61.7%で最も多く、次いで「映像作品（映画、アニメ、CGなど）」が50.7%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル（複数回答）



図表1-2-2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

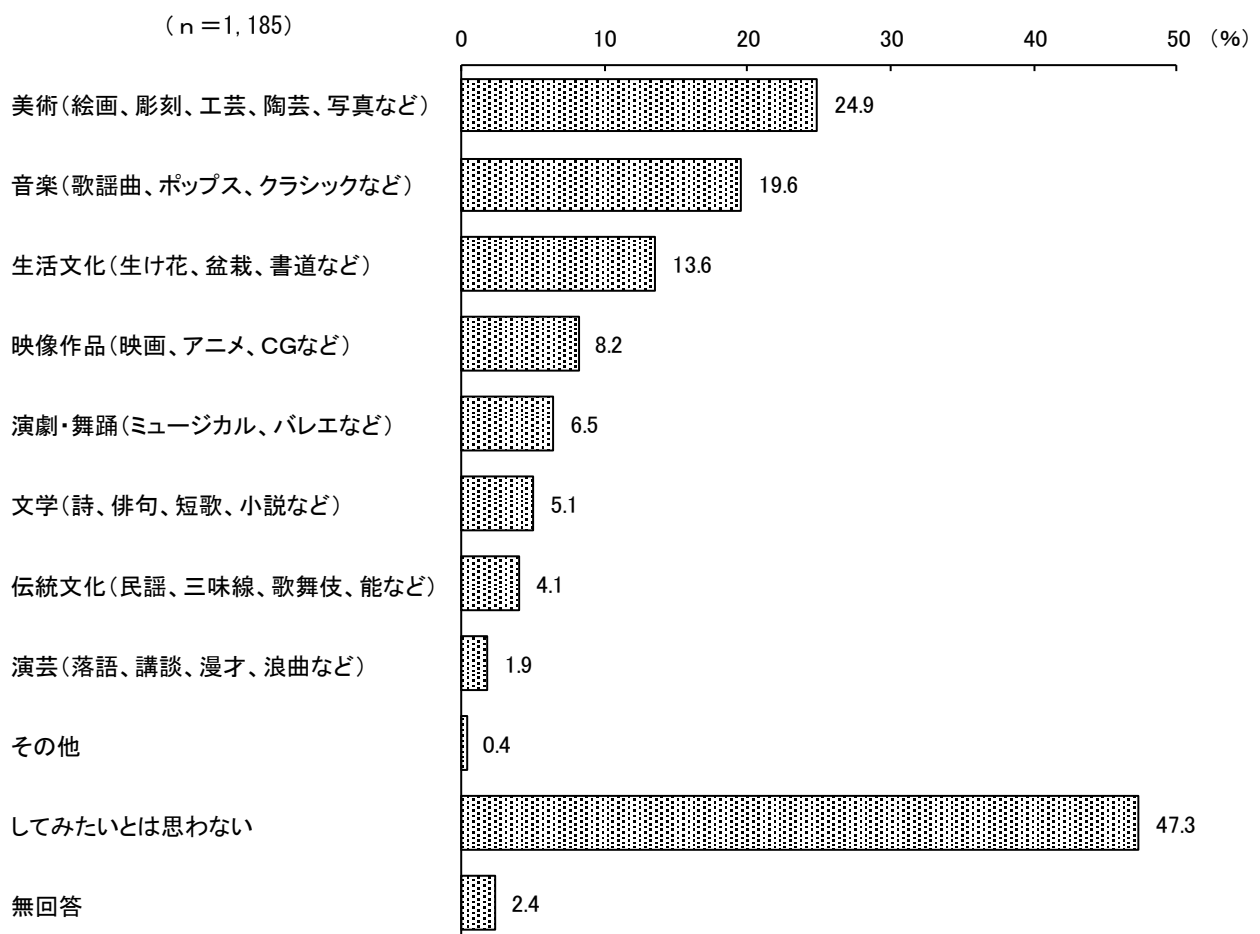
	n	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	その他	行ってみたいとは思わない	無回答
全体	1,185	61.7	50.7	41.7	38.9	19.5	15.2	8.7	4.6	1.1	7.8	1.3
【地域別】												
横浜	477	64.2	55.3	41.9	41.9	18.4	17.2	8.0	5.0	0.6	5.9	0.6
川崎	160	65.0	56.9	43.8	43.1	16.9	13.8	9.4	3.1	-	7.5	1.9
相模原	77	54.5	54.5	36.4	41.6	18.2	10.4	10.4	3.9	2.6	7.8	-
横須賀三浦	104	64.4	50.0	47.1	35.6	22.1	21.2	10.6	5.8	2.9	5.8	2.9
県央	115	52.2	45.2	37.4	33.9	20.0	10.4	7.0	3.5	-	16.5	0.9
湘南	187	62.6	43.9	42.8	35.3	25.1	13.9	9.6	4.3	1.6	7.5	1.6
県西	55	52.7	30.9	34.5	25.5	9.1	12.7	5.5	3.6	3.6	12.7	1.8
【性・年代別】												
男性	536	55.6	50.7	39.2	25.4	20.3	10.3	4.3	3.7	1.1	11.0	0.9
女性	603	67.2	51.9	43.8	51.2	18.7	19.4	12.8	5.1	1.2	4.8	1.5
男性18～29歳	18	44.4	38.9	16.7	11.1	-	16.7	5.6	5.6	5.6	22.2	5.6
30歳代	43	58.1	67.4	25.6	37.2	11.6	9.3	-	4.7	2.3	4.7	-
40歳代	112	50.0	58.9	37.5	31.3	22.3	8.0	5.4	4.5	0.9	10.7	1.8
50歳代	114	57.0	61.4	37.7	37.7	19.3	10.5	0.9	2.6	0.9	10.5	-
60歳代	107	68.2	55.1	53.3	21.5	23.4	8.4	8.4	4.7	0.9	2.8	0.9
70～74歳	61	57.4	39.3	34.4	18.0	16.4	6.6	1.6	-	1.6	16.4	-
75歳以上	81	44.4	21.0	40.7	7.4	27.2	17.3	6.2	4.9	-	19.8	1.2
女性18～29歳	35	71.4	77.1	42.9	60.0	8.6	5.7	11.4	2.9	5.7	-	-
30歳代	64	60.9	68.8	31.3	54.7	12.5	12.5	6.3	3.1	-	12.5	1.6
40歳代	121	72.7	57.9	44.6	60.3	14.9	22.3	13.2	5.8	-	3.3	0.8
50歳代	157	69.4	47.8	49.0	52.2	21.0	17.2	10.2	3.8	2.5	3.8	1.9
60歳代	111	67.6	49.5	48.6	49.5	28.8	21.6	12.6	4.5	-	4.5	2.7
70～74歳	45	71.1	53.3	44.4	48.9	20.0	24.4	15.6	4.4	-	2.2	-
75歳以上	70	52.9	25.7	34.3	30.0	14.3	25.7	22.9	11.4	1.4	7.1	1.4

3 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル【問3】

【全体の状況】

文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンルについて複数回答で尋ねたところ、「してみたいとは思わない」が47.3%で最も多く、次いで「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）」が24.9%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル（複数回答）



図表1-3-2 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	その他	してみたいとは思わない	無回答
全体	1,185	24.9	19.6	13.6	8.2	6.5	5.1	4.1	1.9	0.4	47.3	2.4
【地域別】												
横浜	477	25.6	22.6	14.3	9.4	7.5	5.7	5.0	2.5	0.6	43.8	1.0
川崎	160	23.8	20.0	14.4	11.3	5.6	5.6	3.1	2.5	-	51.9	3.8
相模原	77	32.5	20.8	15.6	10.4	3.9	5.2	2.6	-	-	42.9	-
横須賀三浦	104	29.8	18.3	14.4	8.7	7.7	3.8	2.9	1.9	1.0	42.3	3.8
県央	115	20.0	13.9	9.6	5.2	6.1	4.3	2.6	0.9	-	54.8	2.6
湘南	187	23.5	16.6	15.0	3.7	5.9	5.3	5.3	1.6	-	50.3	3.2
県西	55	18.2	16.4	5.5	7.3	3.6	1.8	3.6	-	1.8	52.7	3.6
【性・年代別】												
男性	536	23.9	19.2	6.0	10.8	5.0	4.7	3.4	1.5	0.7	53.9	1.7
女性	603	25.9	20.2	20.2	6.3	8.0	5.3	5.0	2.3	-	41.5	2.8
男性18～29歳	18	5.6	22.2	5.6	5.6	5.6	11.1	5.6	-	5.6	50.0	5.6
30歳代	43	16.3	30.2	-	25.6	14.0	4.7	-	-	-	48.8	-
40歳代	112	25.9	20.5	7.1	16.1	8.0	7.1	4.5	1.8	1.8	45.5	2.7
50歳代	114	23.7	19.3	5.3	11.4	6.1	4.4	1.8	2.6	0.9	57.0	-
60歳代	107	29.0	20.6	8.4	7.5	2.8	3.7	7.5	0.9	-	48.6	1.9
70～74歳	61	27.9	16.4	3.3	11.5	1.6	1.6	1.6	1.6	-	65.6	-
75歳以上	81	19.8	11.1	7.4	-	-	3.7	1.2	1.2	-	63.0	3.7
女性18～29歳	35	40.0	31.4	20.0	20.0	11.4	2.9	5.7	2.9	-	31.4	-
30歳代	64	29.7	21.9	12.5	7.8	9.4	3.1	1.6	1.6	-	48.4	1.6
40歳代	121	26.4	21.5	24.8	11.6	11.6	5.0	6.6	2.5	-	40.5	2.5
50歳代	157	28.7	18.5	17.2	3.2	7.0	1.9	5.1	1.9	-	43.3	2.5
60歳代	111	23.4	14.4	20.7	3.6	3.6	9.0	3.6	2.7	-	40.5	4.5
70～74歳	45	17.8	22.2	15.6	2.2	6.7	8.9	8.9	-	-	42.2	4.4
75歳以上	70	17.1	22.9	28.6	2.9	8.6	8.6	4.3	4.3	-	38.6	2.9

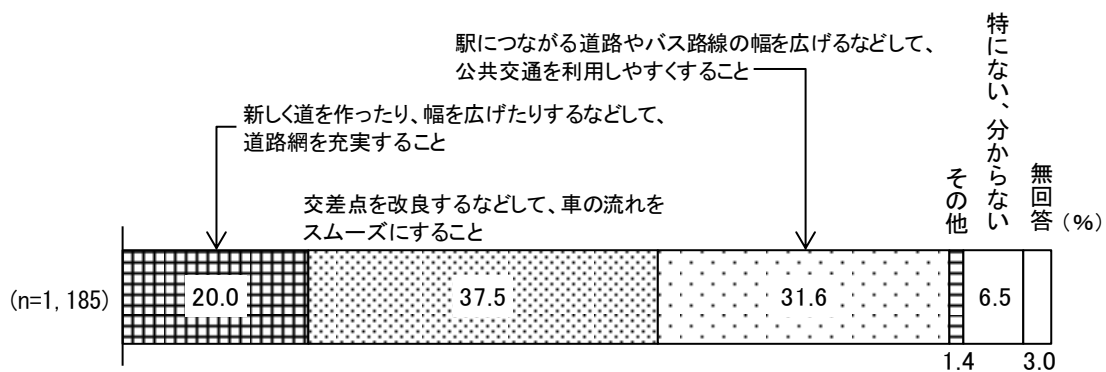
第2章 かながわの道路【問4～問7】

1 快適に移動するための道路づくりに重要なこと【問4】

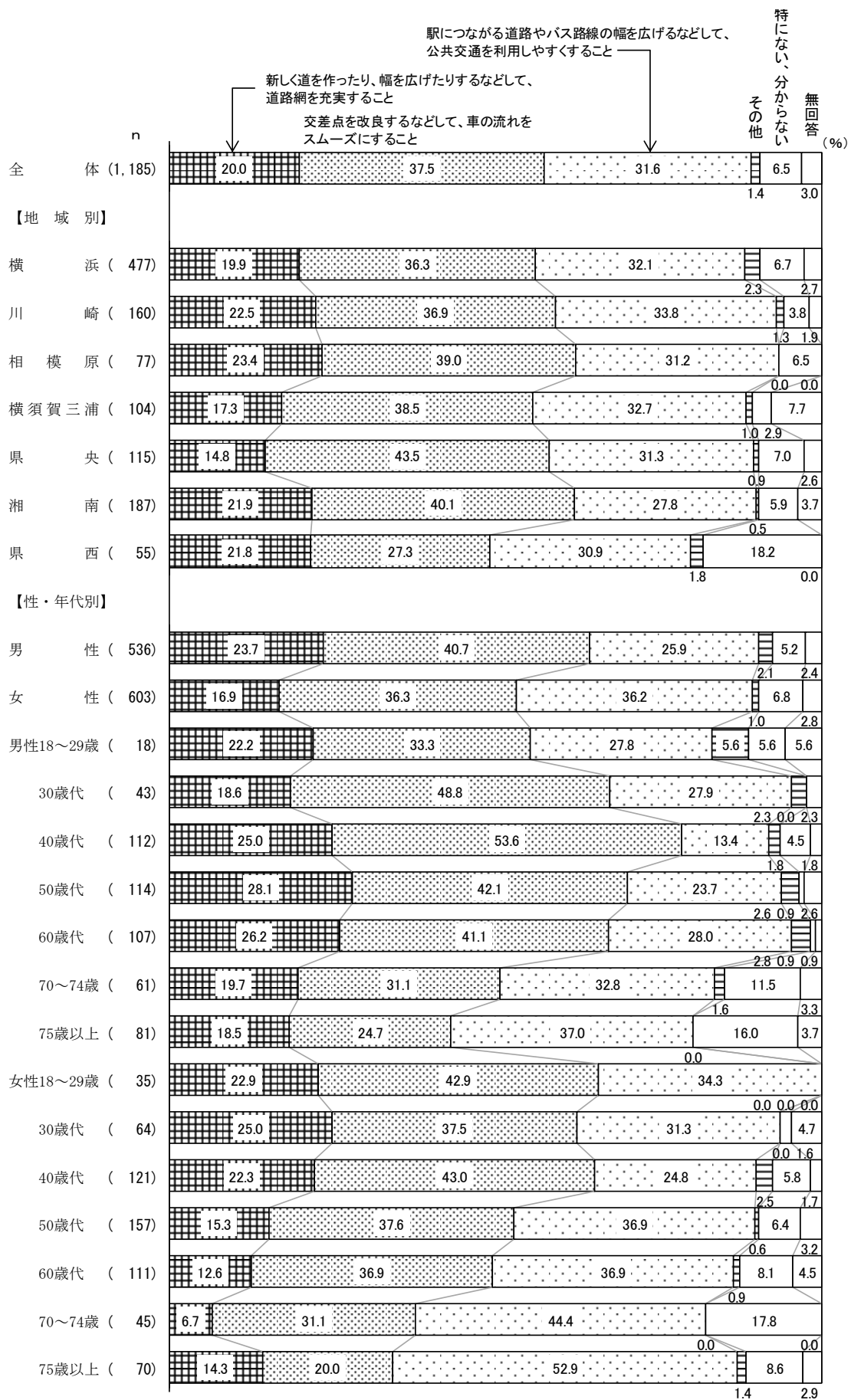
【全体の状況】

いつでも、どこへも、渋滞なく快適に移動するためには、道路事業において、どのようなことが特に重要だと思うか尋ねたところ、「交差点を改良するなどして、車の流れをスムーズにすること」が37.5%で最も多く、次いで「駅につながる道路やバス路線の幅を広げるなどして、公共交通を利用しやすくすること」が31.6%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 快適に移動するための道路づくりに重要なこと



図表2-1-2 快適に移動するための道路づくりに重要なこと—地域別、性・年代別

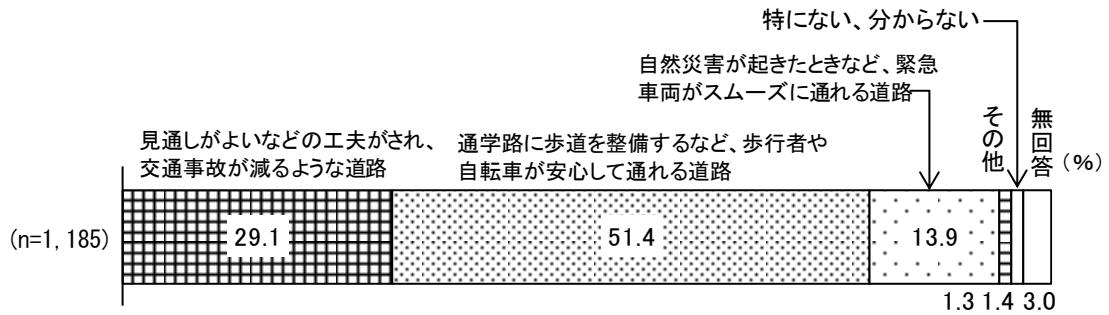


2 安心してくらすための道路づくりに重要なこと【問5】

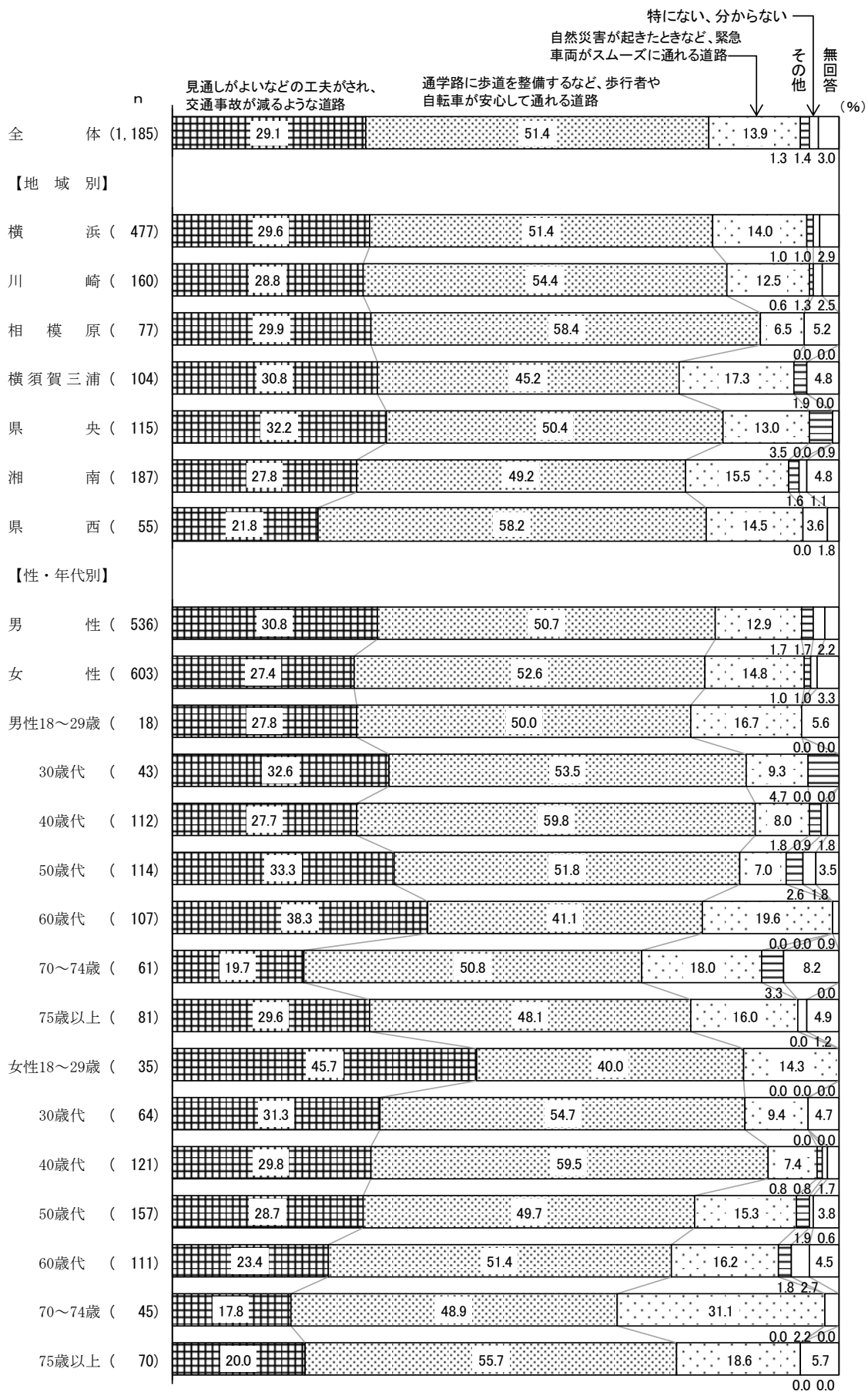
【全体の状況】

安心してくらすためには、どのような道路をつくるのが特に重要だと思うか尋ねたところ、「通学路に歩道を整備するなど、歩行者や自転車が安心して通れる道路」が51.4%で最も多く、次いで「見通しがよいなどの工夫がされ、交通事故が減るような道路」が29.1%であった。（図表2-2-1）

図表2-2-1 安心してくらすための道路づくりに重要なこと



図表2-2-2 安心してくらすための道路づくりに重要なこと―地域別、性・年代別



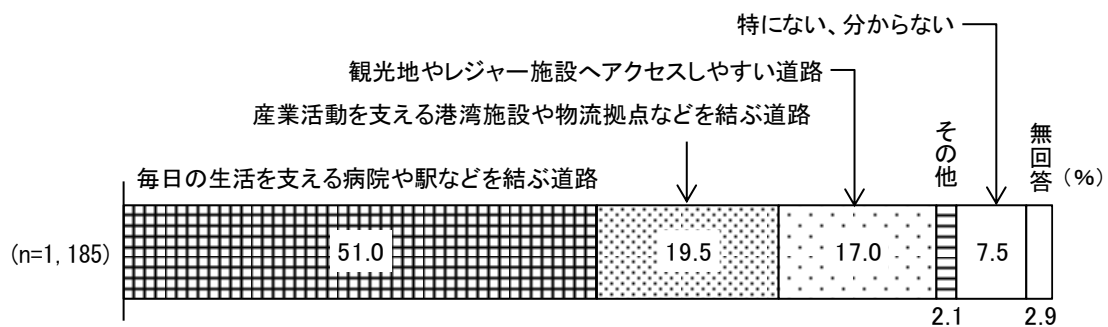
3 生活や経済活動を活性化するための道路づくりに重要なこと【問6】

【全体の状況】

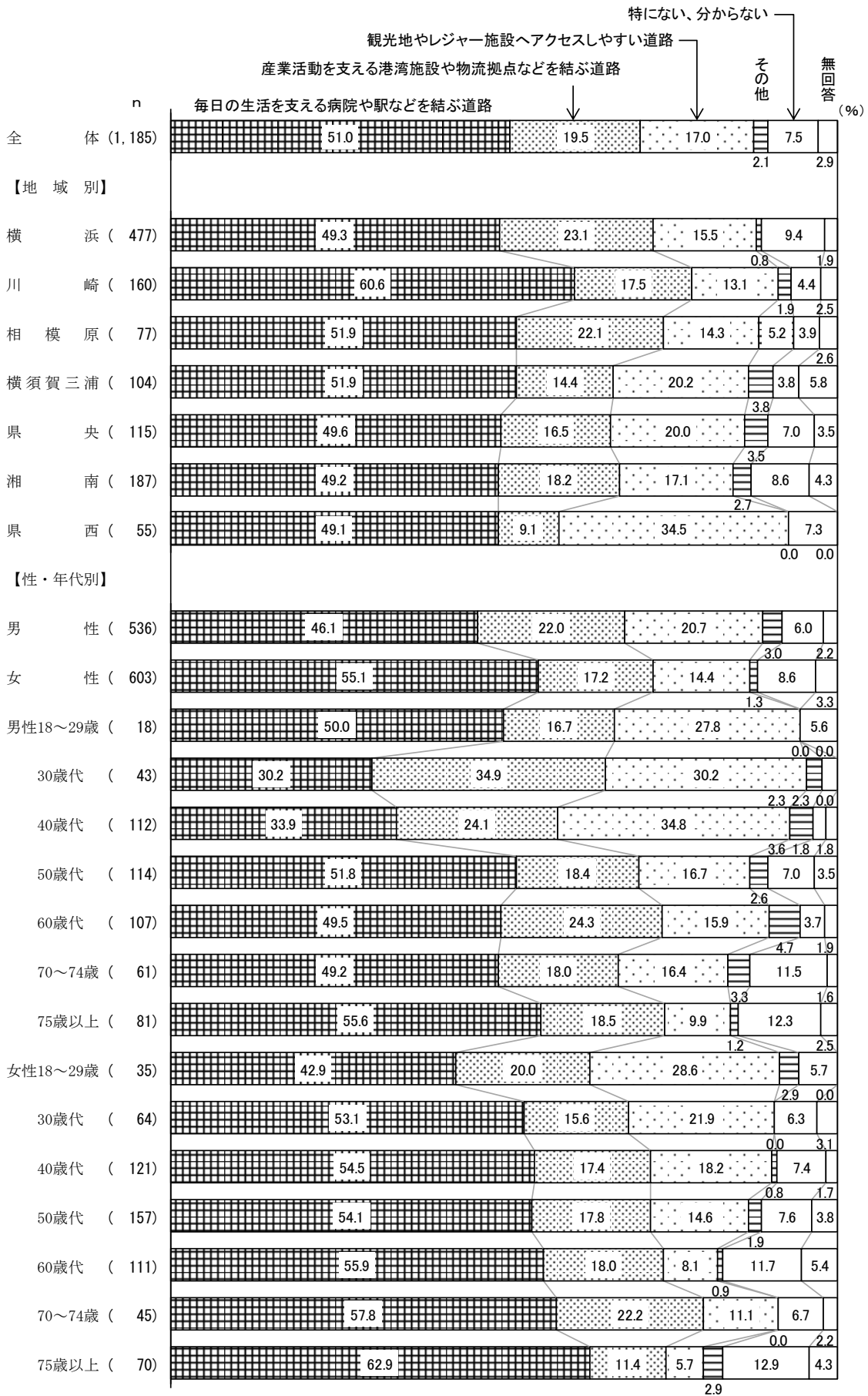
人や物の行き来を増やし、生活や経済活動が活力あふれるためには、どのような道路をつくることが特に重要だと思うか尋ねたところ、「毎日の生活を支える病院や駅などを結ぶ道路」が51.0%で最も多く、次いで「産業活動を支える港湾施設や物流拠点などを結ぶ道路」が19.5%であった。

(図表2-3-1)

図表2-3-1 生活や経済活動を活性化するための道路づくりに重要なこと



図表2-3-2 生活や経済活動を活性化するための道路づくりに重要なこと一地域別、性・年代別



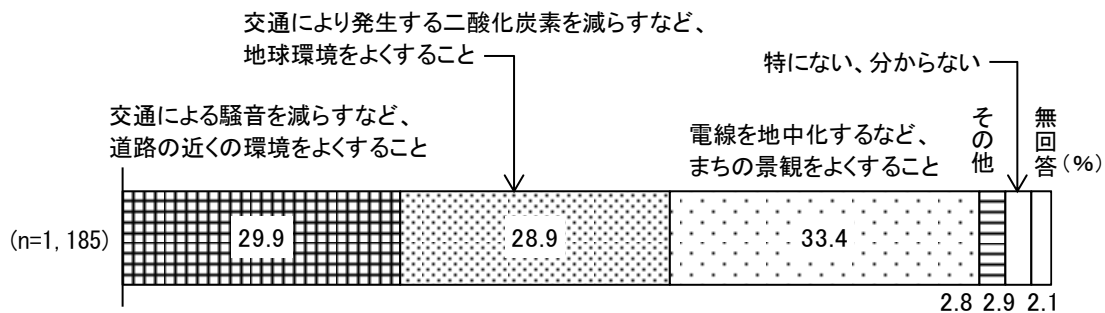
4 気持ちのよい環境でくらすための道路づくりに重要なこと【問7】

【全体の状況】

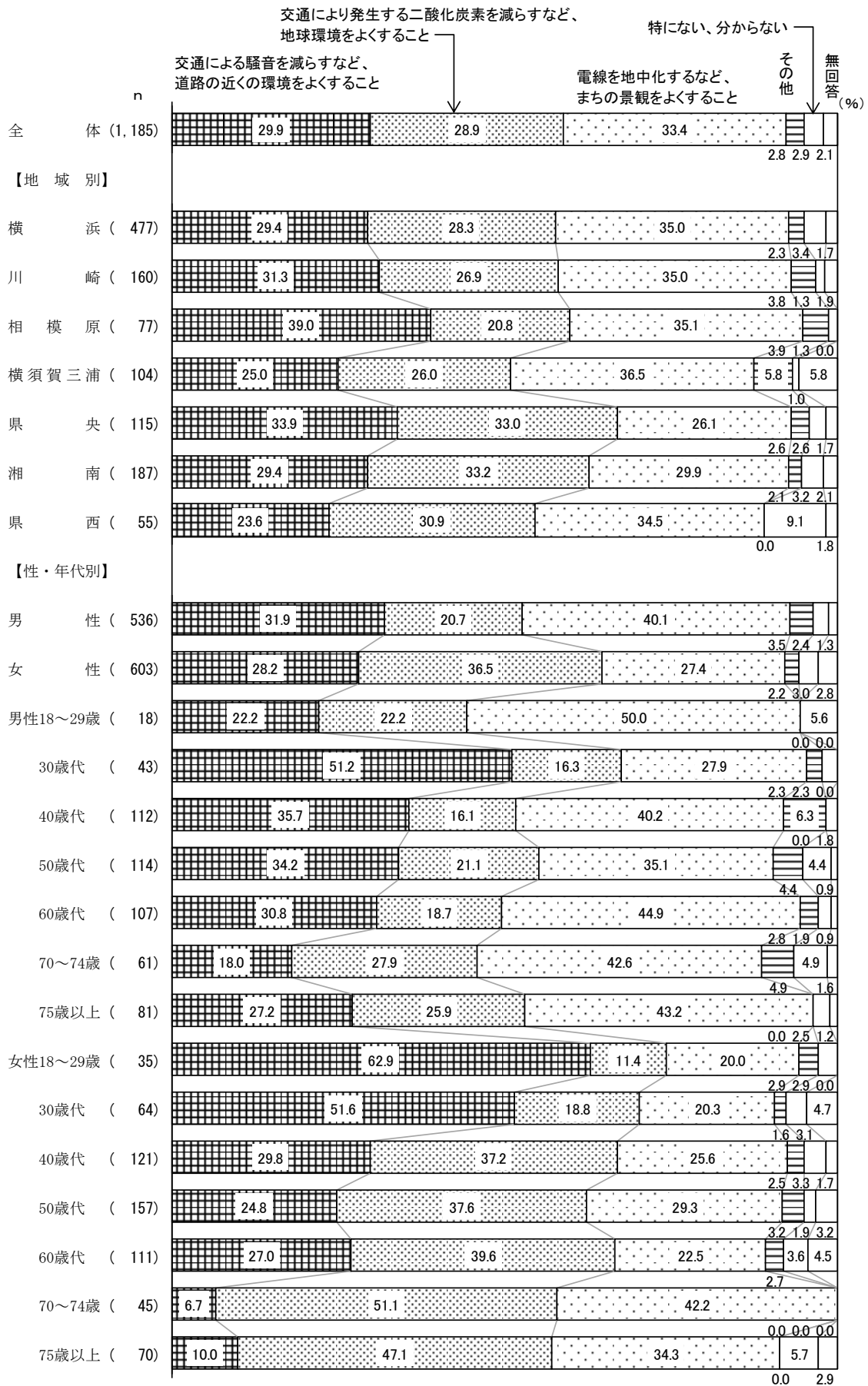
気持ちのよい環境のなかでくらすためには、何を大切にして道路をつくるのが特に重要だと思うか尋ねたところ、「電線を地中化するなど、まちの景観をよくすること」が33.4%で最も多く、次いで「交通による騒音を減らすなど、道路の近くの環境をよくすること」が29.9%であった。

(図表2-4-1)

図表2-4-1 気持ちのよい環境でくらすための道路づくりに重要なこと



図表2-4-2 気持ちのよい環境でくらすための道路づくりに重要なこと—地域別、性・年代別



第3章 かながわの人権【問8～問10】

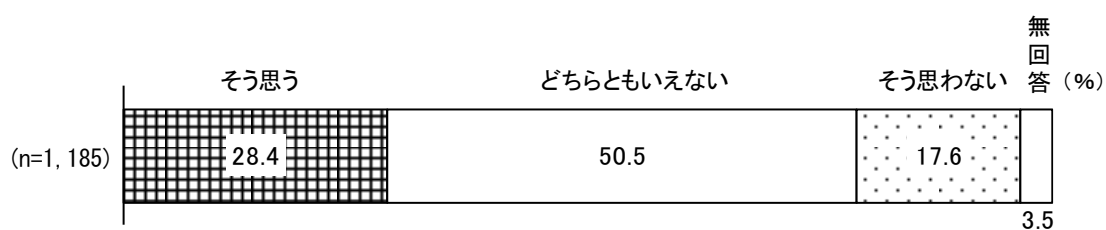
1 基本的人権が尊重されている社会か【問8】

【全体の状況】

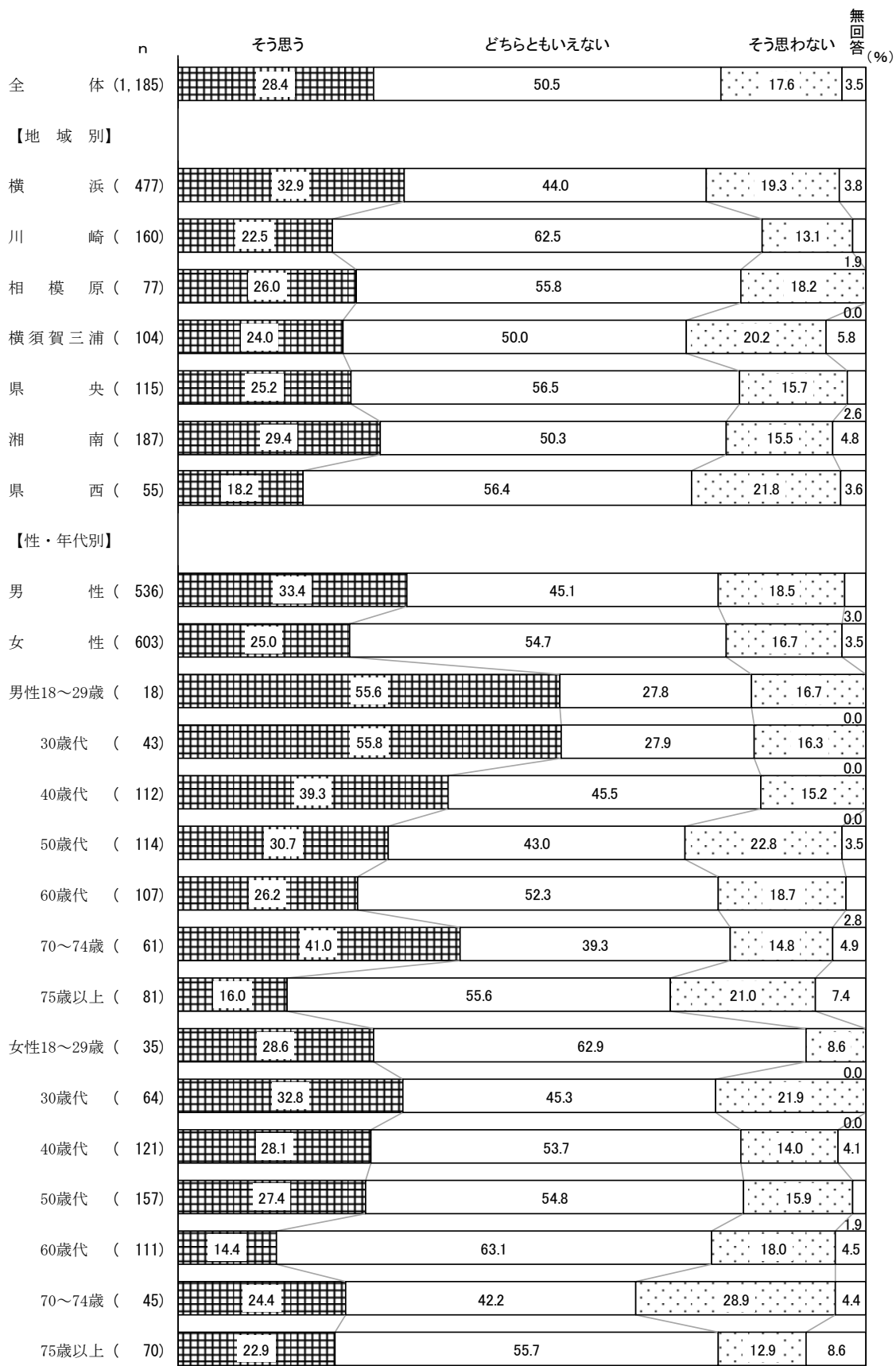
今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が28.4%であった。

一方、「そう思わない」が17.6%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 基本的人権が尊重されている社会か



図表3-1-2 基本的人権が尊重されている社会か—地域別、性・年代別

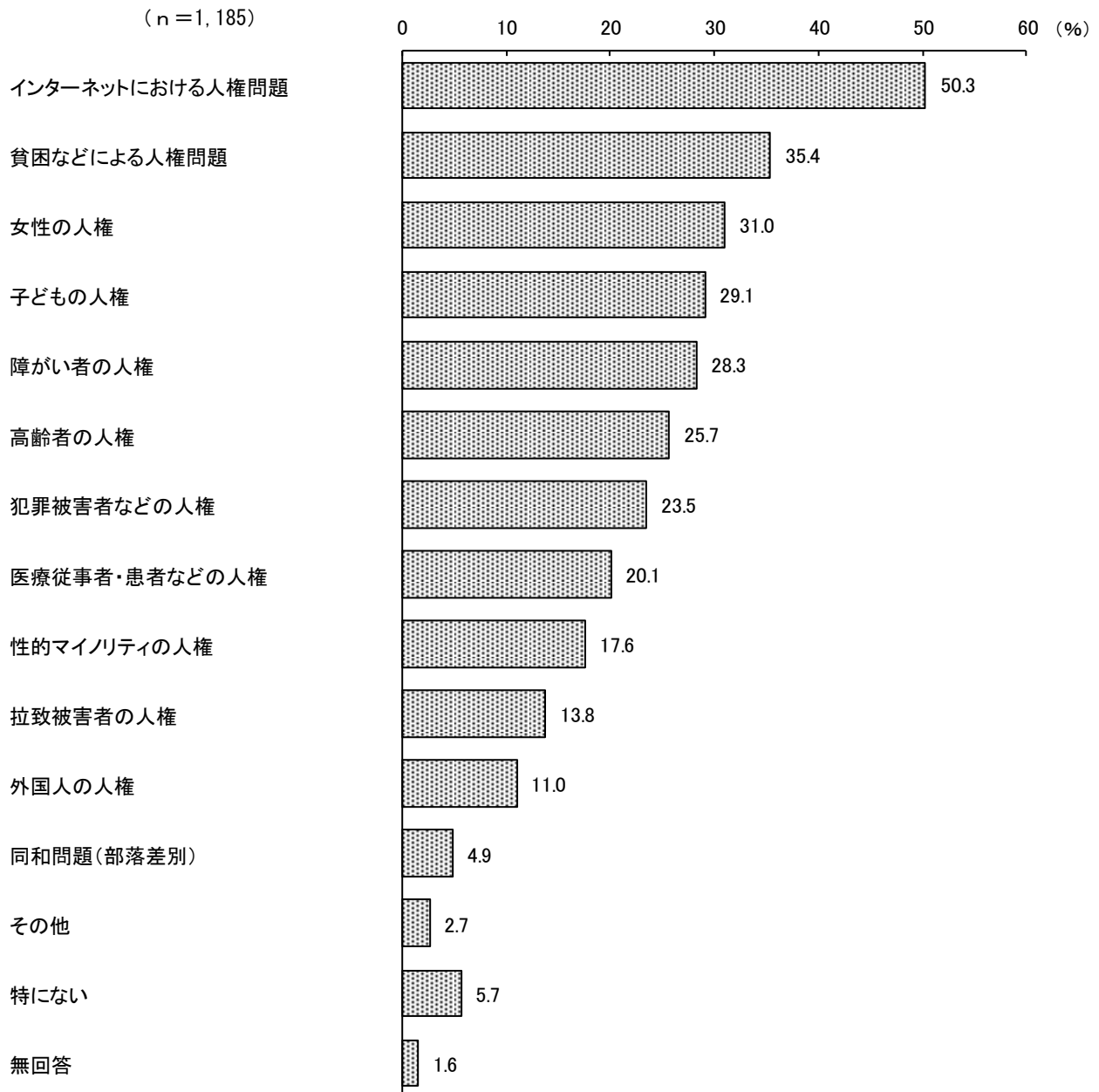


2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題【問9】

【全体の状況】

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が50.3%で最も多く、次いで「貧困などによる人権問題」が35.4%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）



図表3-2-2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

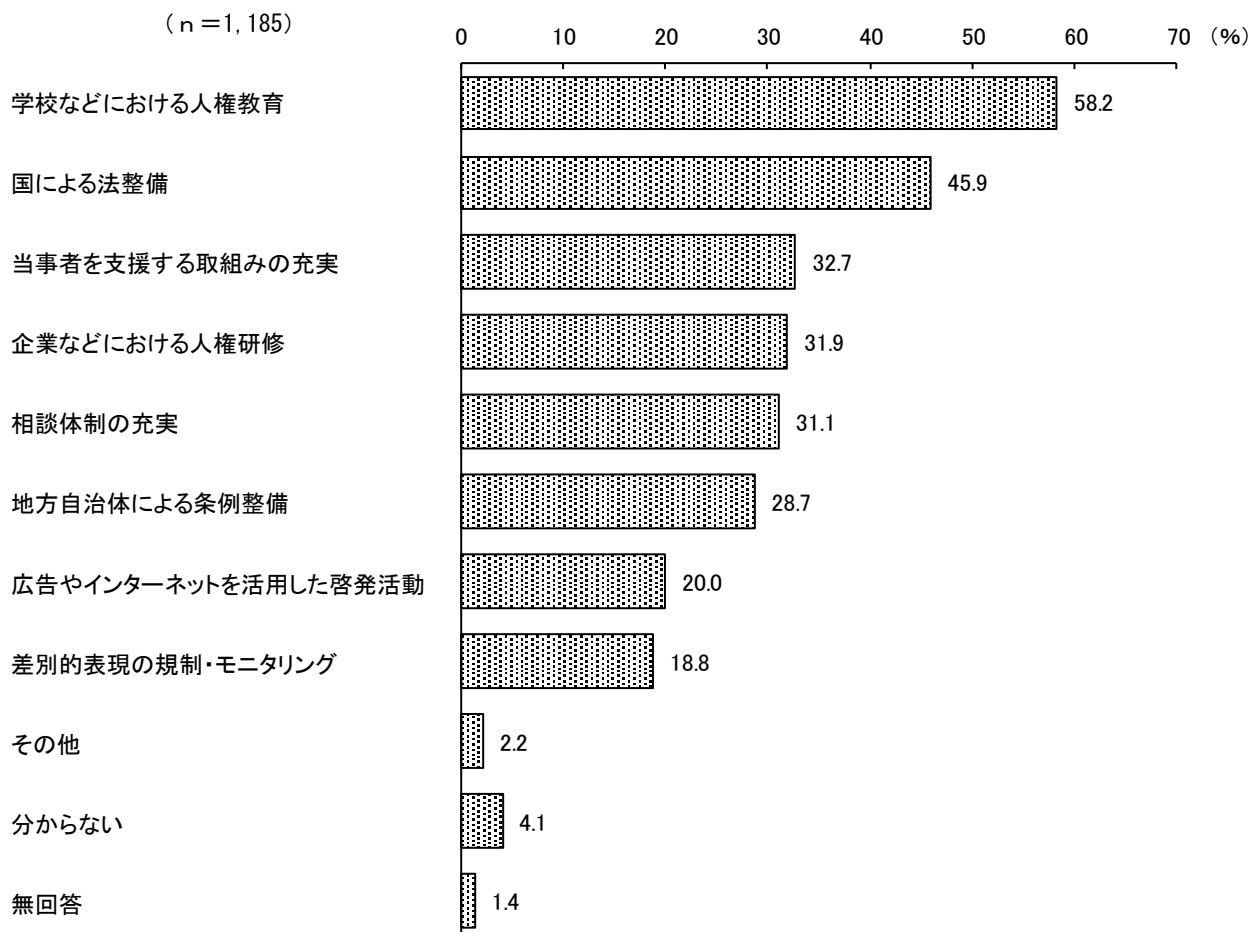
	n	インターネットにおける人権問題	貧困などによる人権問題	女性の人権	子どもの人権	障がい者の人権	高齢者の人権	犯罪被害者などの人権	医療従事者・患者などの人権	性的マイノリティの人権	拉致被害者の人権	外国人の人権	同和問題（部落差別）	その他	特にない	無回答
全 体	1,185	50.3	35.4	31.0	29.1	28.3	25.7	23.5	20.1	17.6	13.8	11.0	4.9	2.7	5.7	1.6
【地 域 別】																
横 浜	477	51.4	35.4	31.9	29.8	28.3	27.3	23.3	18.2	17.8	13.4	12.2	4.8	2.7	4.8	1.3
川 崎	160	48.8	29.4	31.9	31.3	28.8	25.0	22.5	23.8	21.3	10.6	8.1	2.5	3.1	5.0	2.5
相 模 原	77	53.2	36.4	31.2	27.3	20.8	18.2	23.4	23.4	11.7	22.1	7.8	7.8	5.2	3.9	1.3
横 須 賀 三 浦	104	47.1	32.7	26.9	28.8	18.3	20.2	26.0	20.2	22.1	13.5	11.5	4.8	5.8	7.7	1.0
県 央	115	55.7	40.9	31.3	29.6	23.5	21.7	22.6	20.9	12.2	10.4	10.4	4.3	1.7	5.2	2.6
湘 南	187	49.2	35.8	31.0	27.8	36.4	27.8	24.6	20.3	17.6	14.4	12.8	4.8	1.1	8.6	1.1
県 西	55	41.8	41.8	25.5	27.3	34.5	30.9	23.6	20.0	16.4	21.8	9.1	9.1	-	5.5	3.6
【性・年代別】																
男 性	536	50.6	35.4	21.6	26.3	28.4	22.6	22.9	17.7	16.0	12.3	14.4	5.0	3.2	7.1	1.3
女 性	603	50.2	35.2	39.3	31.8	27.7	28.5	24.2	22.9	19.4	15.3	8.3	5.0	2.5	4.6	1.5
男性18～29歳	18	33.3	5.6	16.7	27.8	22.2	-	11.1	5.6	11.1	11.1	5.6	-	5.6	11.1	-
30歳代	43	46.5	18.6	14.0	30.2	23.3	2.3	14.0	11.6	11.6	-	9.3	4.7	7.0	11.6	-
40歳代	112	51.8	29.5	22.3	28.6	20.5	11.6	22.3	15.2	25.9	10.7	23.2	6.3	6.3	8.9	-
50歳代	114	48.2	41.2	24.6	20.2	25.4	18.4	21.9	21.1	12.3	8.8	14.0	3.5	2.6	8.8	0.9
60歳代	107	51.4	39.3	23.4	25.2	33.6	31.8	25.2	17.8	15.0	11.2	15.0	3.7	1.9	3.7	1.9
70～74歳	61	54.1	49.2	21.3	32.8	32.8	34.4	29.5	21.3	14.8	24.6	9.8	8.2	-	3.3	1.6
75歳以上	81	54.3	35.8	19.8	25.9	37.0	38.3	24.7	19.8	13.6	18.5	9.9	6.2	1.2	6.2	3.7
女性18～29歳	35	54.3	42.9	68.6	28.6	14.3	8.6	20.0	22.9	34.3	2.9	14.3	8.6	-	2.9	2.9
30歳代	64	34.4	25.0	45.3	42.2	26.6	10.9	18.8	18.8	10.9	6.3	6.3	1.6	7.8	7.8	-
40歳代	121	61.2	28.1	45.5	34.7	30.6	18.2	28.1	14.0	24.0	8.3	8.3	5.0	2.5	2.5	0.8
50歳代	157	54.8	35.7	37.6	28.0	30.6	29.9	24.8	29.3	23.6	13.4	11.5	3.8	3.8	3.8	-
60歳代	111	53.2	39.6	37.8	30.6	28.8	39.6	23.4	26.1	19.8	18.9	6.3	6.3	0.9	4.5	3.6
70～74歳	45	40.0	51.1	33.3	40.0	24.4	46.7	20.0	26.7	17.8	26.7	6.7	6.7	-	4.4	4.4
75歳以上	70	35.7	34.3	18.6	24.3	24.3	40.0	27.1	20.0	2.9	32.9	4.3	5.7	-	8.6	1.4

3 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み【問10】

【全体の状況】

人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答で尋ねたところ、「学校などにおける人権教育」が 58.2%で最も多く、次いで「国による法整備」が 45.9%であった。（図表 3-3-1）

図表3-3-1 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）



図表3-3-2 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	学校などにおける人権教育	国による法整備	当事者を支援する取組みの充実	企業などにおける人権研修	相談体制の充実	地方自治体による条例整備	啓発やインターネットを活用した活動	差別的表現の規制・モニタリング	その他	分からない	無回答
全体	1,185	58.2	45.9	32.7	31.9	31.1	28.7	20.0	18.8	2.2	4.1	1.4
【地域別】												
横浜	477	58.7	44.7	32.5	31.9	30.6	26.0	20.5	19.9	1.9	5.0	1.0
川崎	160	59.4	46.9	33.8	34.4	28.1	31.9	16.9	14.4	2.5	4.4	2.5
相模原	77	49.4	45.5	33.8	29.9	37.7	28.6	18.2	15.6	6.5	1.3	-
横須賀三浦	104	59.6	46.2	30.8	27.9	28.8	32.7	17.3	23.1	3.8	2.9	1.0
県央	115	52.2	45.2	29.6	27.0	30.4	27.8	23.5	23.5	1.7	4.3	1.7
湘南	187	66.8	48.1	30.5	38.0	32.1	31.0	24.6	19.8	1.1	3.2	1.1
県西	55	45.5	49.1	47.3	25.5	34.5	32.7	10.9	7.3	-	3.6	1.8
【性・年代別】												
男性	536	57.3	50.9	30.0	28.4	26.5	31.5	20.7	20.1	2.6	3.7	0.9
女性	603	60.0	41.5	35.2	36.0	36.3	26.9	20.1	17.9	2.0	4.3	1.3
男性18～29歳	18	50.0	38.9	33.3	16.7	22.2	27.8	5.6	5.6	-	5.6	-
30歳代	43	51.2	53.5	27.9	25.6	27.9	18.6	23.3	7.0	2.3	7.0	-
40歳代	112	67.0	60.7	30.4	27.7	25.9	33.0	17.9	17.9	2.7	2.7	-
50歳代	114	52.6	50.9	29.8	30.7	19.3	28.9	27.2	18.4	3.5	5.3	0.9
60歳代	107	56.1	50.5	30.8	34.6	28.0	34.6	16.8	25.2	3.7	0.9	1.9
70～74歳	61	60.7	47.5	34.4	23.0	34.4	31.1	19.7	26.2	-	4.9	-
75歳以上	81	54.3	42.0	25.9	25.9	29.6	37.0	23.5	24.7	2.5	3.7	2.5
女性18～29歳	35	65.7	42.9	31.4	45.7	22.9	17.1	22.9	14.3	-	5.7	2.9
30歳代	64	59.4	45.3	31.3	39.1	34.4	21.9	10.9	12.5	-	7.8	-
40歳代	121	66.1	46.3	33.9	33.9	34.7	30.6	20.7	22.3	1.7	2.5	0.8
50歳代	157	59.2	45.9	41.4	35.7	35.0	29.9	23.6	14.6	2.5	3.8	-
60歳代	111	61.3	36.9	38.7	36.9	40.5	23.4	26.1	19.8	2.7	3.6	3.6
70～74歳	45	57.8	40.0	33.3	37.8	46.7	26.7	13.3	24.4	4.4	2.2	2.2
75歳以上	70	48.6	27.1	24.3	30.0	37.1	28.6	12.9	17.1	1.4	7.1	1.4

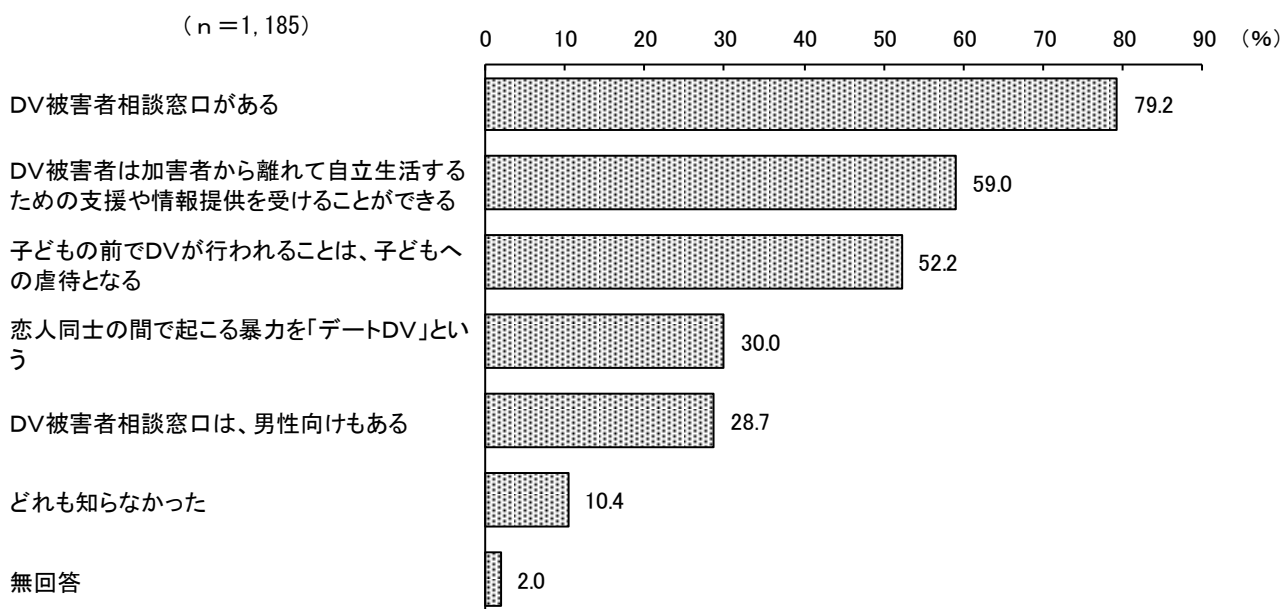
第4章 配偶者等からの暴力【問11】

1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと【問11】

【全体の状況】

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が79.2%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が59.0%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）



図表4-1-2 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	DV被害者相談窓口がある	立生を受けることのできる	DV被害者は加害者から離れて自	子どもへの虐待が行われること	「デートDV」という暴力を	DV被害者相談窓口は、男性向けもある	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,185	79.2	59.0	52.2	30.0	28.7	10.4	2.0	
【地 域 別】									
横 浜	477	79.0	59.7	54.7	32.3	28.9	11.1	1.5	
川 崎	160	80.0	60.0	46.3	30.0	28.1	10.0	2.5	
相 模 原	77	68.8	61.0	49.4	23.4	26.0	14.3	1.3	
横 須 賀 三 浦	104	82.7	51.9	53.8	28.8	34.6	7.7	1.9	
県 央	115	81.7	60.9	51.3	32.2	27.8	7.8	3.5	
湘 南	187	78.6	62.0	54.0	28.9	27.3	10.2	1.6	
県 西	55	85.5	47.3	43.6	20.0	29.1	10.9	3.6	
【性・年代別】									
男 性	536	73.7	48.1	44.0	24.8	25.2	15.5	2.1	
女 性	603	85.1	70.1	60.7	35.0	32.3	5.5	1.2	
男性18～29歳	18	66.7	33.3	27.8	33.3	33.3	16.7	-	
30歳代	43	72.1	44.2	58.1	34.9	34.9	16.3	-	
40歳代	112	83.9	46.4	48.2	33.0	28.6	12.5	-	
50歳代	114	79.8	50.9	45.6	24.6	30.7	12.3	0.9	
60歳代	107	68.2	51.4	39.3	27.1	21.5	18.7	2.8	
70～74歳	61	59.0	45.9	44.3	9.8	19.7	24.6	3.3	
75歳以上	81	71.6	49.4	38.3	14.8	14.8	12.3	6.2	
女性18～29歳	35	80.0	57.1	57.1	45.7	34.3	5.7	-	
30歳代	64	89.1	64.1	67.2	45.3	35.9	3.1	-	
40歳代	121	92.6	71.9	65.3	42.1	41.3	4.1	0.8	
50歳代	157	88.5	73.9	62.4	41.4	35.7	4.5	0.6	
60歳代	111	88.3	74.8	57.7	27.0	29.7	2.7	0.9	
70～74歳	45	86.7	75.6	68.9	22.2	31.1	6.7	-	
75歳以上	70	57.1	60.0	44.3	14.3	10.0	15.7	5.7	

第5章 生活に不安や課題がある人への支援【問12～問14】

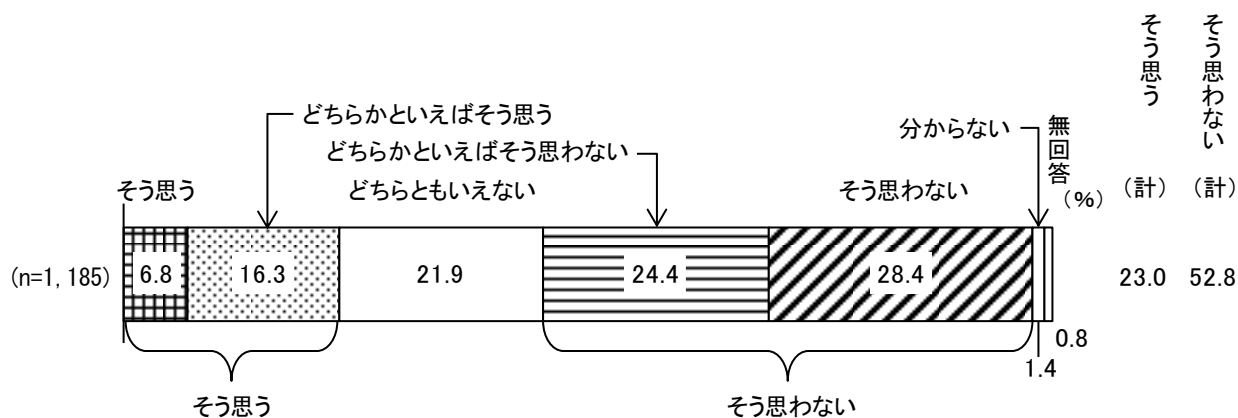
1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度【問12】

【全体の状況】

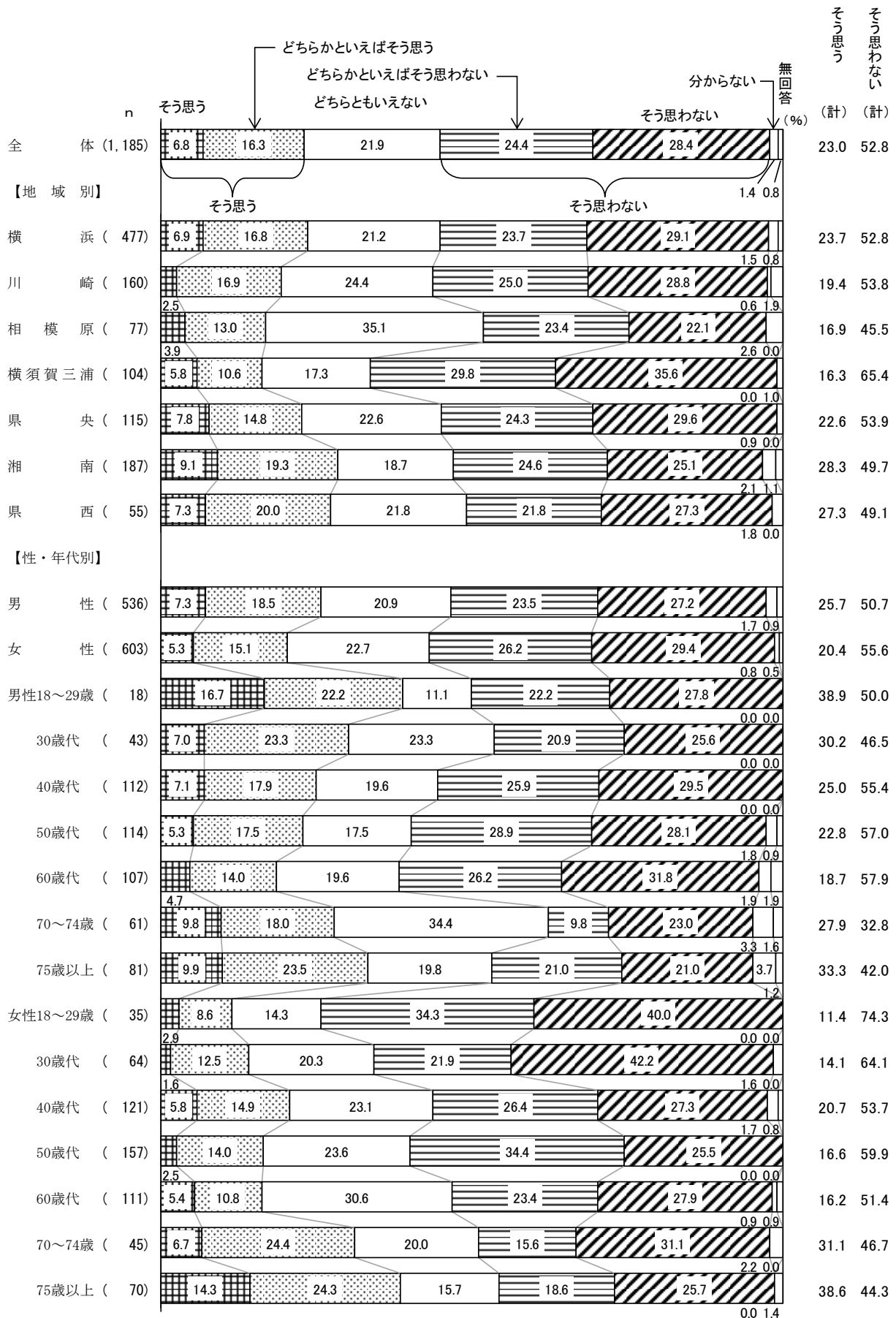
私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」(6.8%)と「どちらかといえばそう思う」(16.3%)を合わせた《そう思う》は23.0%であった。

一方、「そう思わない」(28.4%)と「どちらかといえばそう思わない」(24.4%)を合わせた《そう思わない》は52.8%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度



図表5-1-2 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度—地域別、性・年代別



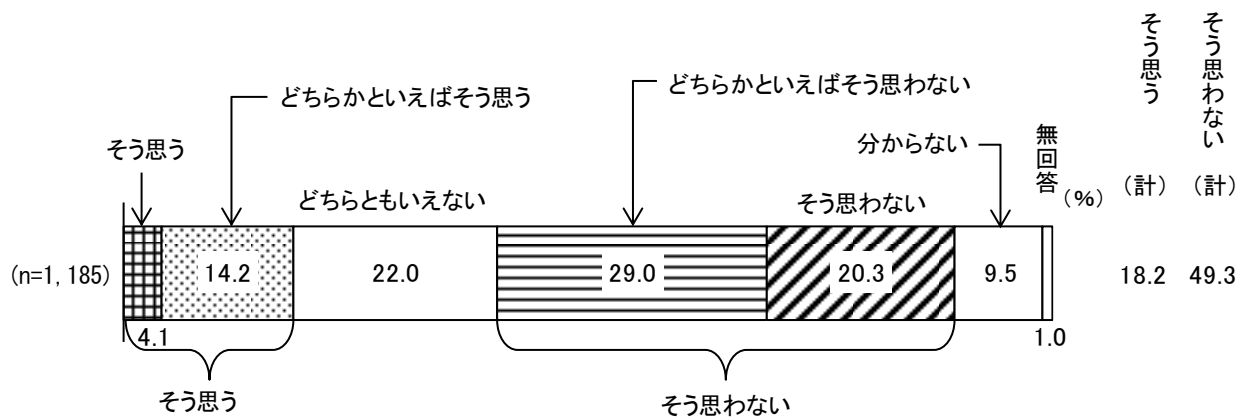
2 ひとり親家庭への支援状況【問13】

【全体の状況】

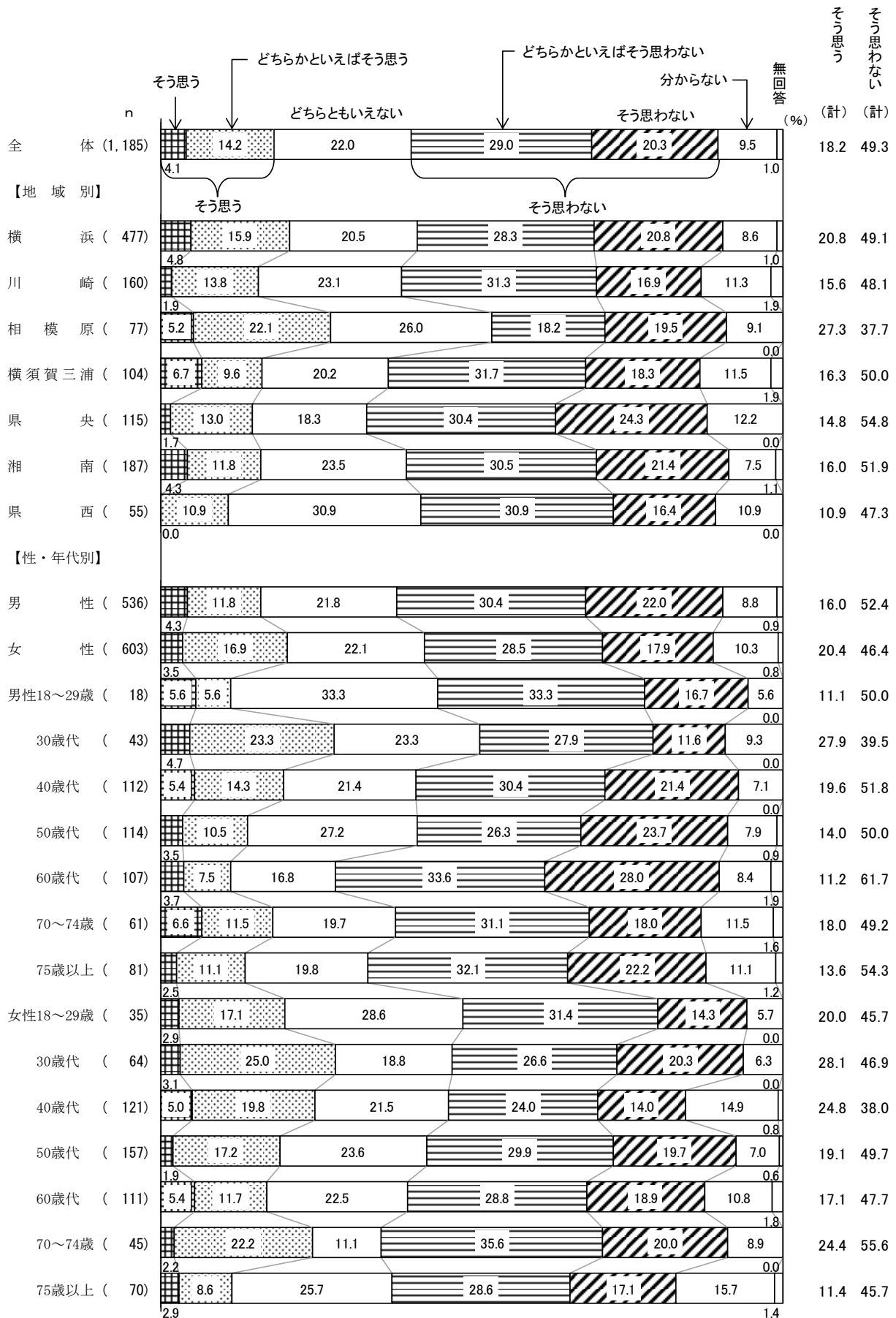
ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(4.1%)と「どちらかといえばそう思う」(14.2%)を合わせた《そう思う》は18.2%であった。

一方、「そう思わない」(20.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(29.0%)を合わせた《そう思わない》は49.3%であった。(図表5-2-1)

図表5-2-1 ひとり親家庭への支援状況



図表5-2-2 ひとり親家庭への支援状況—地域別、性・年代別



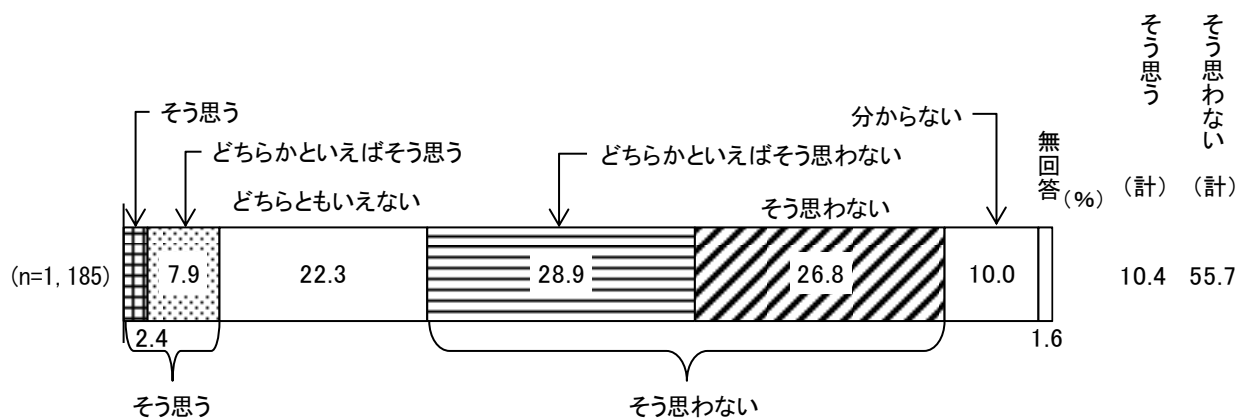
3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況【問14】

【全体の状況】

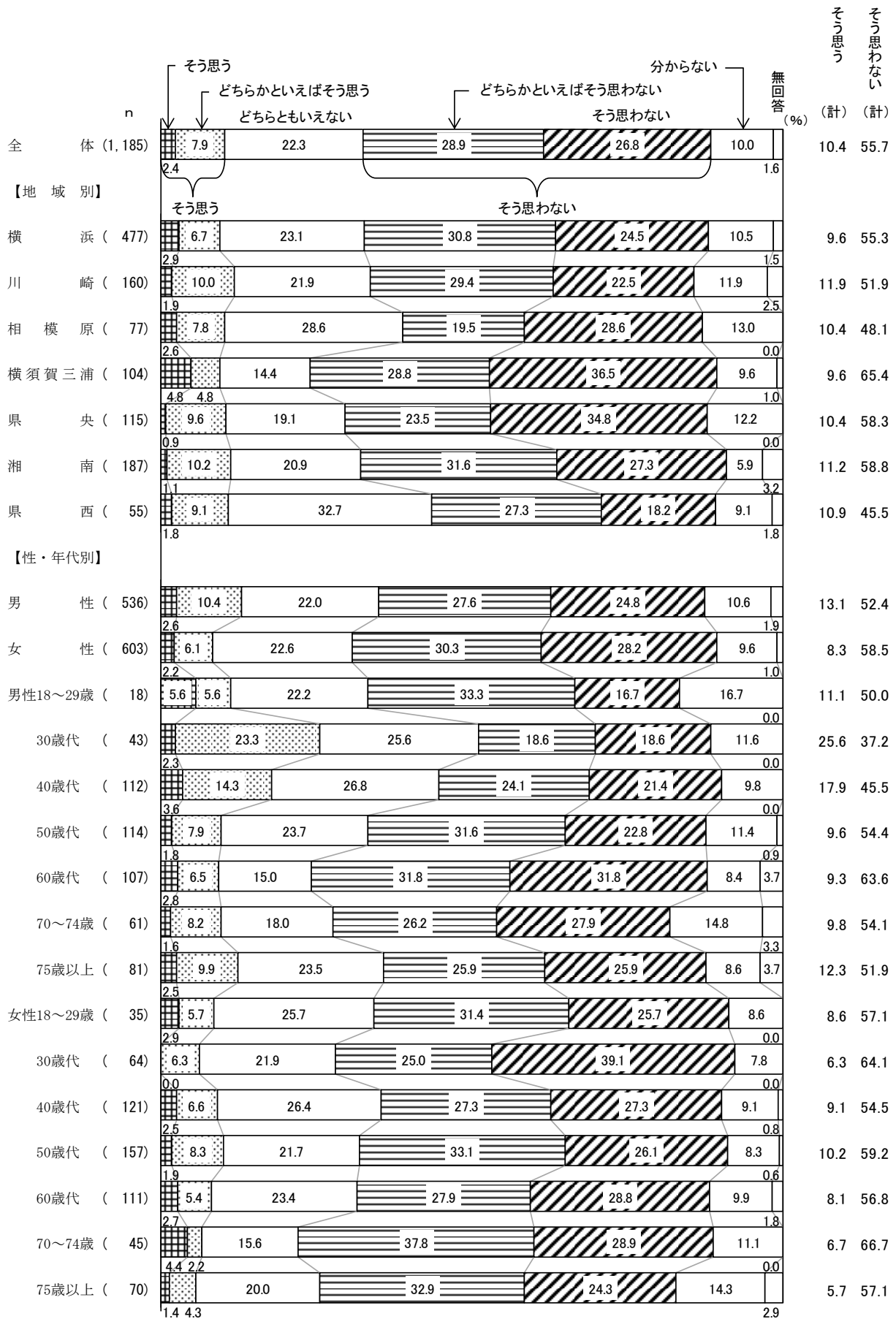
日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(2.4%)と「どちらかといえばそう思う」(7.9%)を合わせた《そう思う》は10.4%であった。

一方、「そう思わない」(26.8%)と「どちらかといえばそう思わない」(28.9%)を合わせた《そう思わない》は55.7%であった。(図表5-3-1)

図表5-3-1 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況



図表5-3-2 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況—地域別、性・年代別



第6章 インクルーシブ教育【問15～問17】

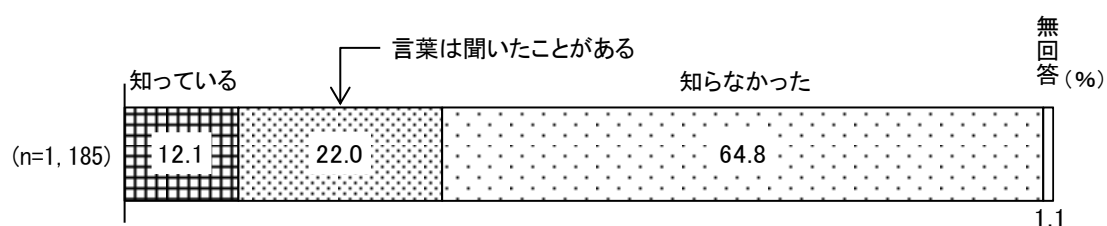
1 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度【問15】

【全体の状況】

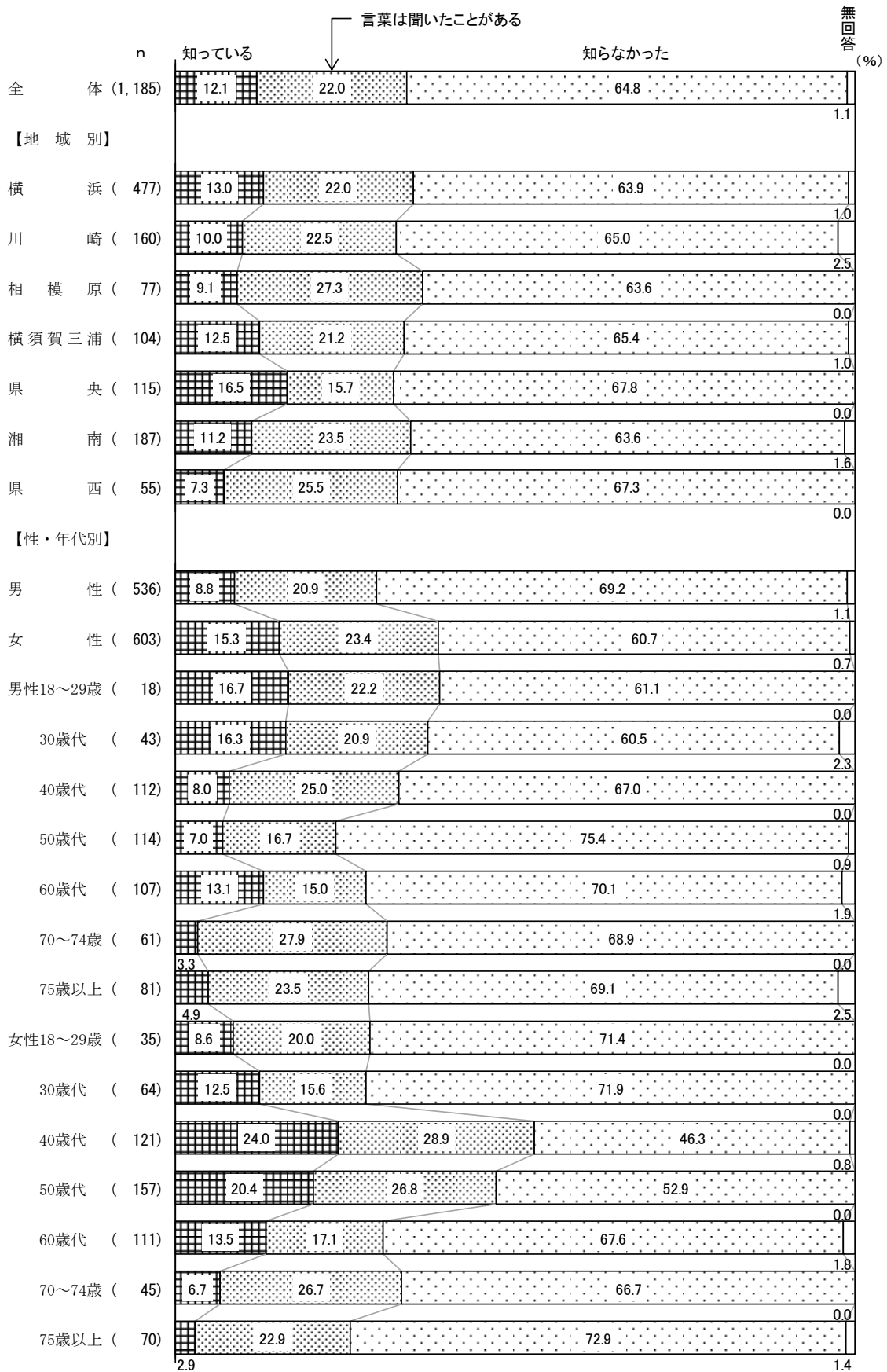
県のめざす「インクルーシブ教育」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が12.1%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が22.0%であった。

一方、「知らなかった」が64.8%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度



図表6-1-2 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度—地域別、性・年代別



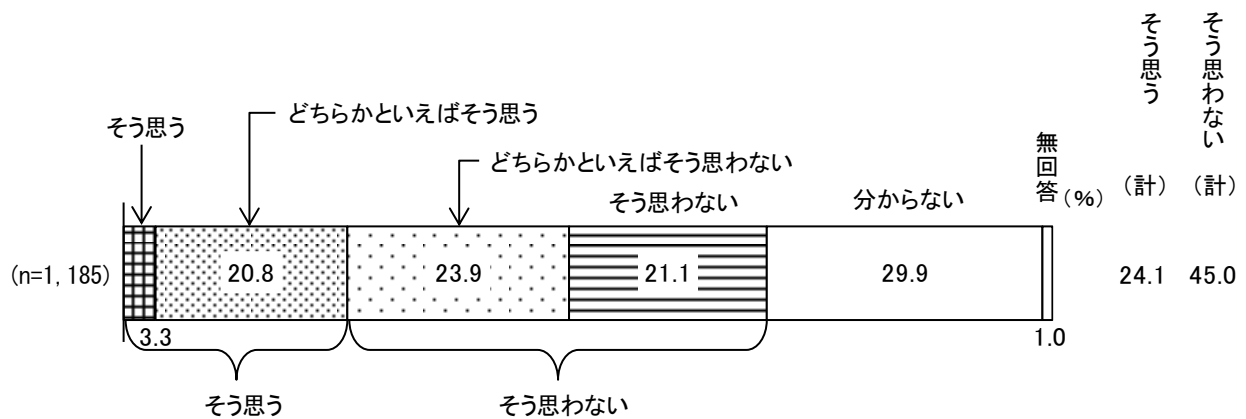
2 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか【問16】

【全体の状況】

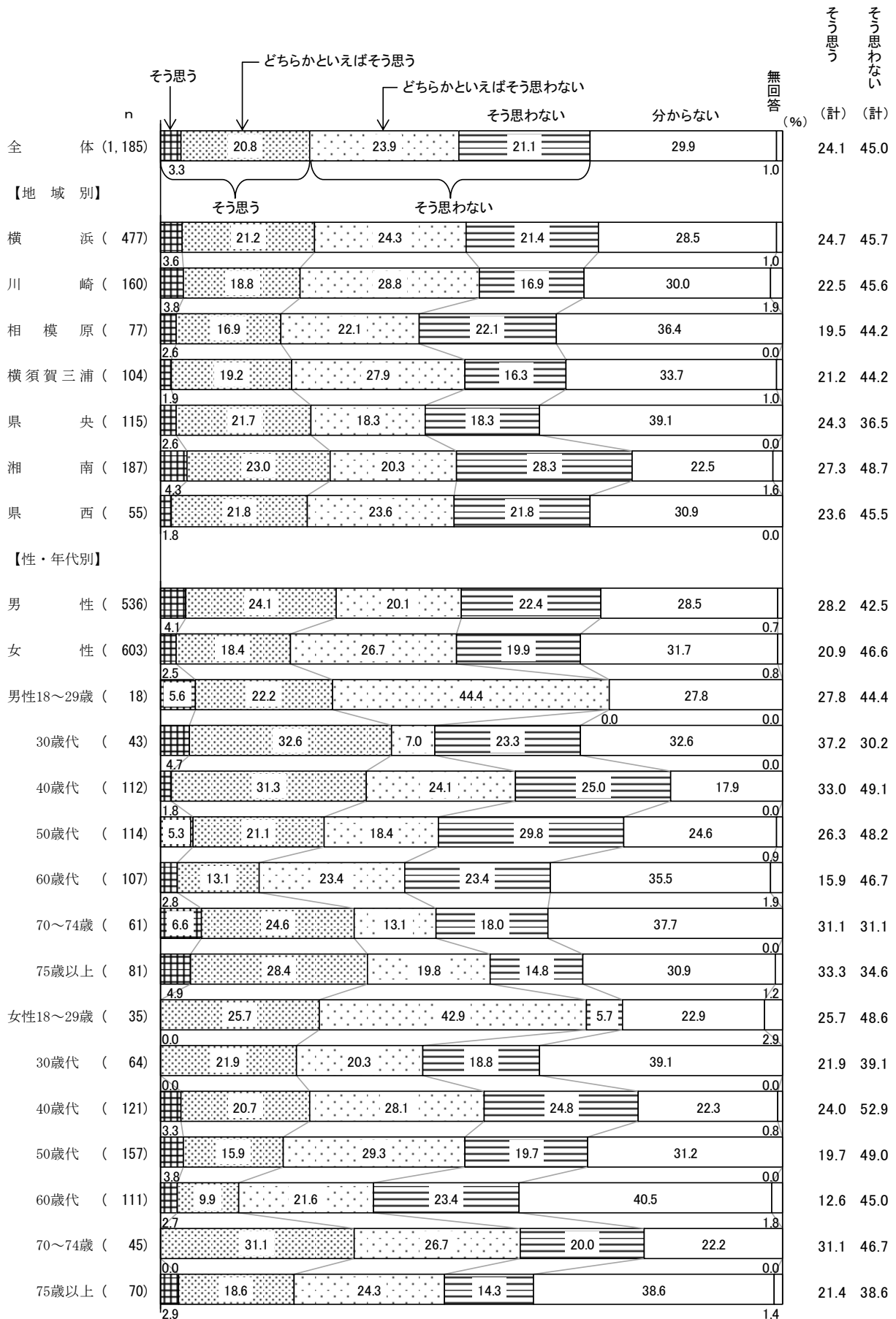
現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」(3.3%)と「どちらかといえばそう思う」(20.8%)を合わせた《そう思う》は24.1%であった。

一方、「そう思わない」(21.1%)と「どちらかといえばそう思わない」(23.9%)を合わせた《そう思わない》は45.0%であった。(図表6-2-1)

図表6-2-1 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか



図表6-2-2 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか—地域別、性・年代別



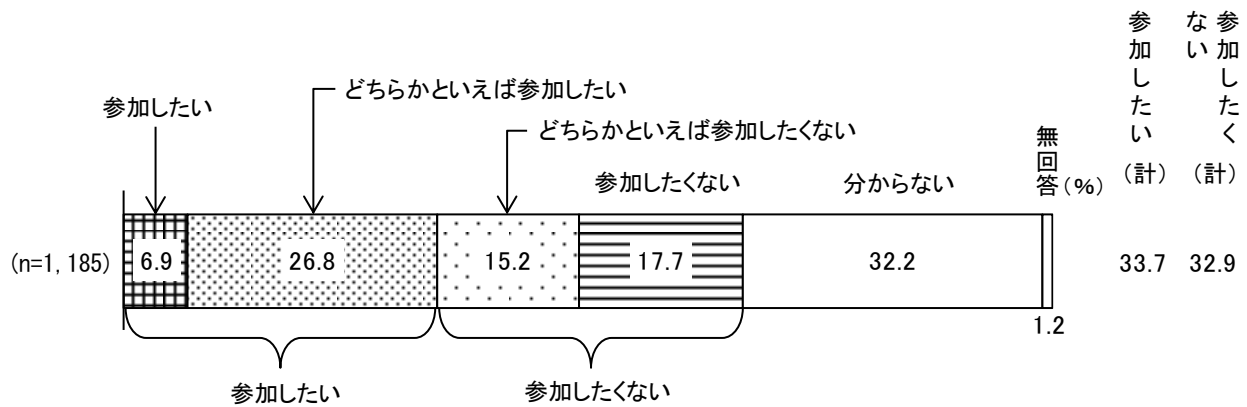
3 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向【問17】

【全体の状況】

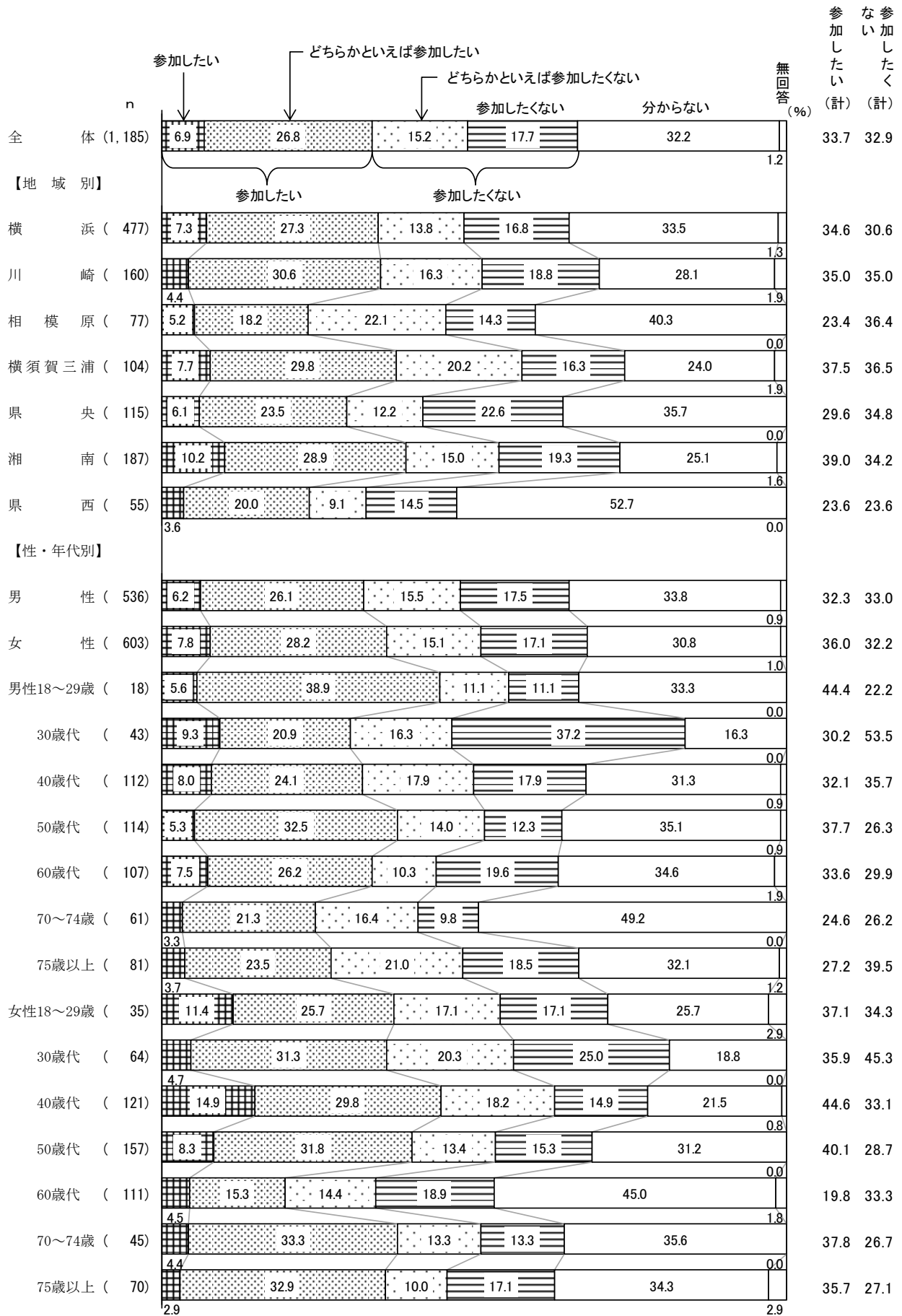
すべての子どもが学べる学校づくりに、ボランティアなどで参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したい」(6.9%)と「どちらかといえば参加したい」(26.8%)を合わせた《参加したい》は33.7%であった。

一方、「参加したくない」(17.7%)と「どちらかといえば参加したくない」(15.2%)を合わせた《参加したくない》は32.9%であった。(図表6-3-1)

図表6-3-1 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向



図表6-3-2 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向—地域別、性・年代別



第7章 「未病改善」の取組み【問18～問21】

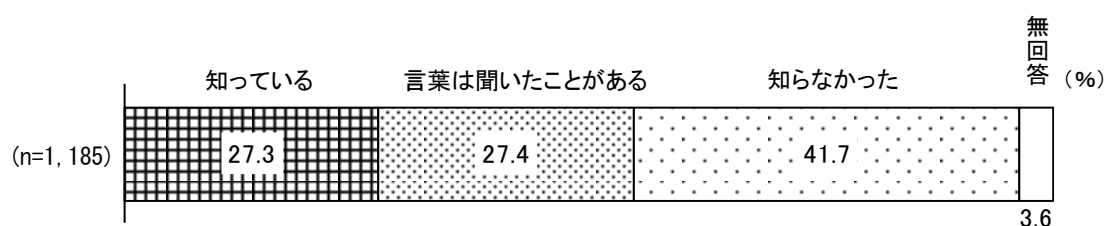
1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問18】

【全体の状況】

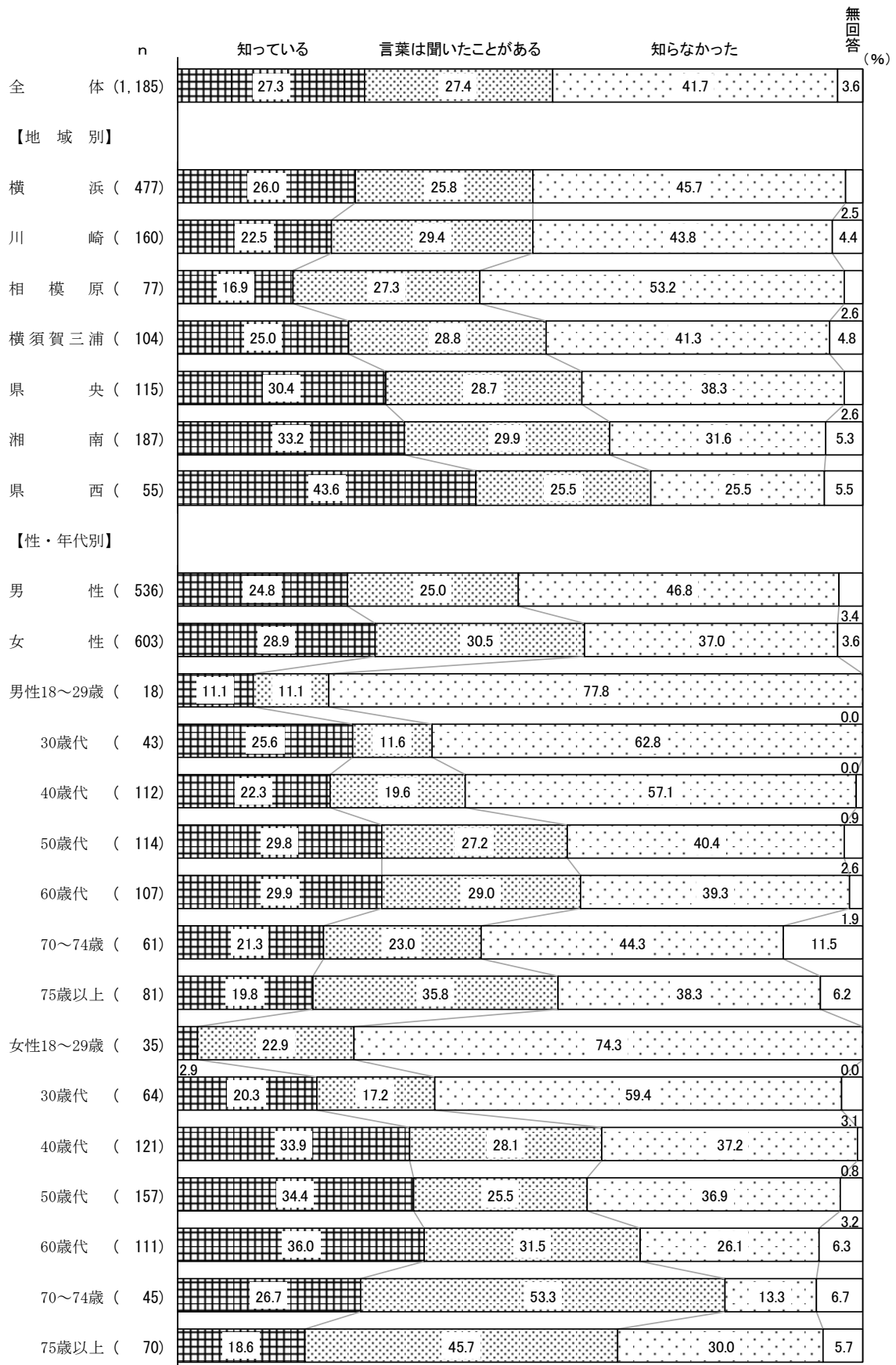
「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が27.3%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が27.4%であった。

一方、「知らなかった」が41.7%であった。（図表7-1-1）

図表7-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



図表7-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別

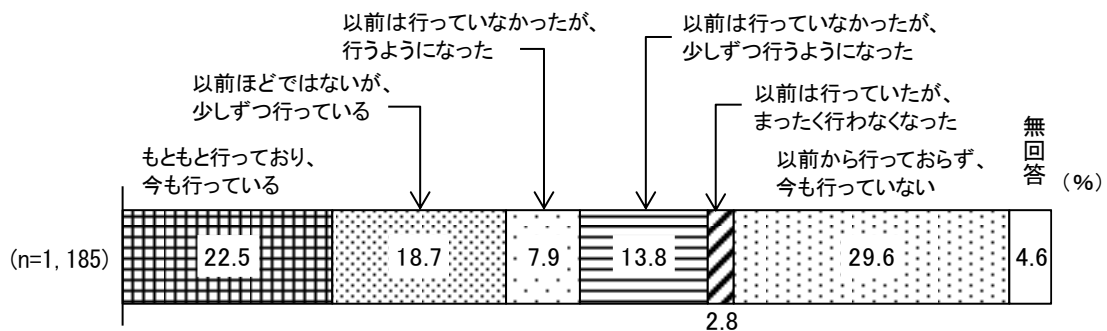


2 過去1年間の「未病改善」の取組状況【問19】

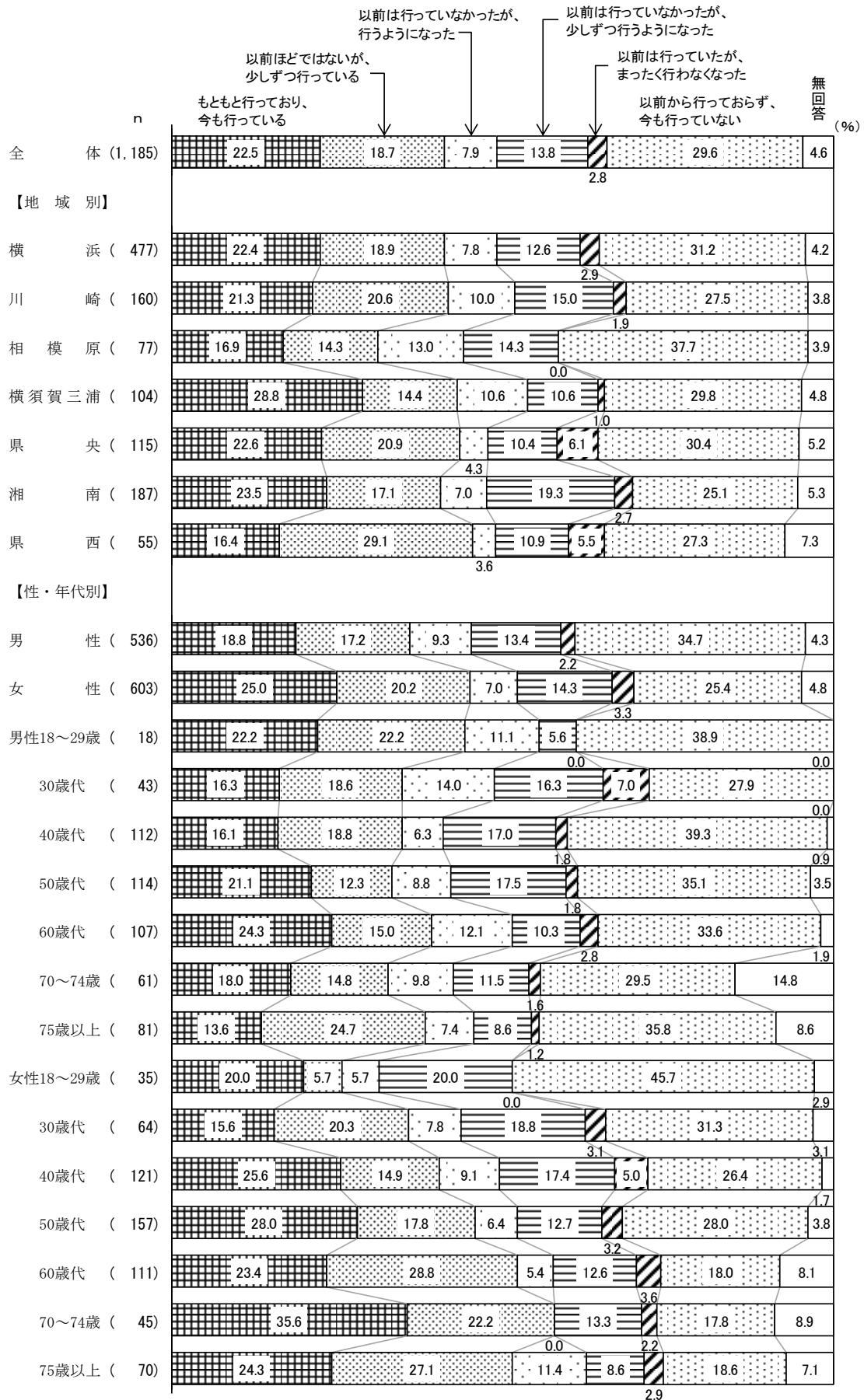
【全体の状況】

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「以前から行っておらず、今も行っていない」が29.6%で最も多く、次いで「もともと行っており、今もやっている」が22.5%であった。（図表7-2-1）

図表7-2-1 過去1年間の「未病改善」の取組状況



図表7-2-2 過去1年間の「未病改善」の取組状況—地域別、性・年代別

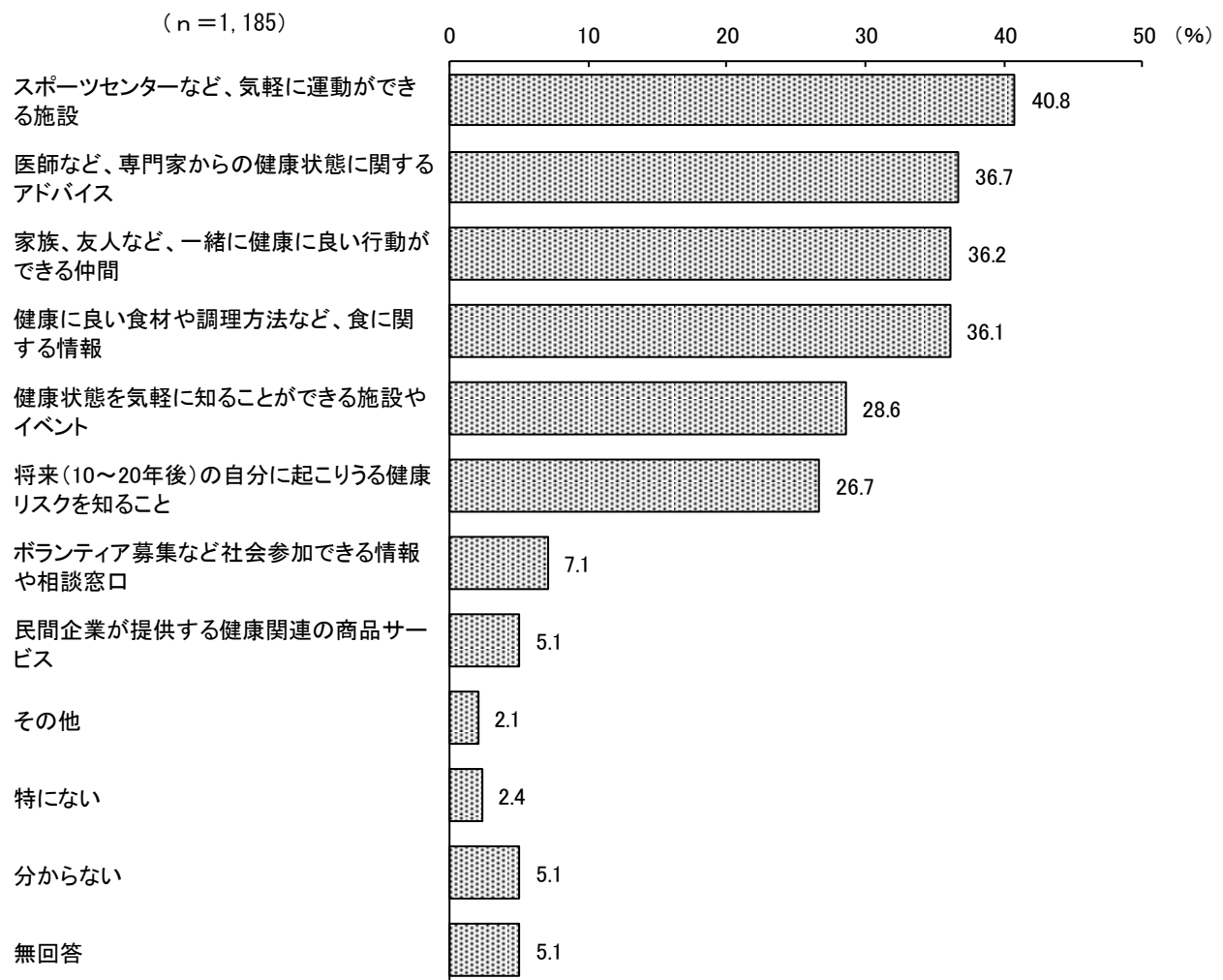


3 「未病改善」の取組みに必要だと思うもの【問20】

【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設」が40.8%で最も多く、次いで「医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス」が36.7%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 「未病改善」の取組みに必要だと思うもの（複数回答）



図表7-3-2 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	動 が で き る 施 設	ス ポ ー ツ セ ン タ ー な ど、 気 軽 に 運	に 関 す る ア ド バ イ ス	医 師 な ど、 専 門 家 か ら の 健 康 状 態	家 族、 友 人 な ど、 一 緒 に 健 康 に 良 い 行 動 が で き る 仲 間	健 康 に 良 い 食 材 や 調 理 方 法 な ど、 食 に 関 す る 情 報	健 康 状 態 を 気 軽 に 知 る こ と が で き る 施 設 や イ ベ ン ト	将 来 （ 1 0 ～ 2 0 年 後 ） の 自 分 に 起 こ り う る 健 康 リ ス ク を 知 る こ と	ポ ラ ン テ ィ ア 募 集 な ど 社 会 参 加 で き る 情 報 や 相 談 窓 口	民 間 企 業 が 提 供 す る 健 康 関 連 の 商 品 サ ー ビ ス	そ の 他	特 に な い	分 か ら な い	無 回 答	
全 体	1,185	40.8	36.7	36.2	36.1	28.6	26.7	7.1	5.1	2.1	2.4	5.1	5.1			
【地 域 別】																
横 浜	477	41.5	38.4	33.1	34.6	29.8	24.1	6.5	5.2	2.1	3.8	6.5	4.8			
川 崎	160	45.6	37.5	35.0	36.3	30.0	31.3	6.3	5.0	2.5	1.3	3.1	4.4			
相 模 原	77	32.5	33.8	44.2	36.4	27.3	36.4	13.0	2.6	1.3	-	6.5	3.9			
横 須 賀 三 浦	104	43.3	34.6	41.3	33.7	28.8	26.9	5.8	4.8	3.8	-	2.9	6.7			
県 央	115	38.3	33.9	38.3	33.9	28.7	27.8	7.8	7.8	2.6	3.5	4.3	5.2			
湘 南	187	39.0	38.0	37.4	43.9	26.2	24.6	7.0	5.3	1.6	2.1	4.3	5.9			
県 西	55	38.2	30.9	36.4	27.3	27.3	25.5	9.1	1.8	-	1.8	7.3	5.5			
【性・年代別】																
男 性	536	43.3	40.3	31.2	33.4	26.3	24.8	6.7	5.2	2.2	2.4	7.1	3.9			
女 性	603	39.8	34.5	41.1	38.3	31.7	28.2	7.6	5.0	2.0	1.8	3.3	6.0			
男性18～29歳	18	44.4	33.3	50.0	50.0	33.3	16.7	5.6	16.7	5.6	5.6	5.6	-			
30歳代	43	65.1	37.2	30.2	30.2	16.3	32.6	-	4.7	4.7	2.3	7.0	-			
40歳代	112	57.1	30.4	44.6	35.7	19.6	30.4	5.4	10.7	4.5	-	6.3	0.9			
50歳代	114	42.1	37.7	29.8	31.6	32.5	26.3	8.8	7.0	0.9	2.6	7.0	2.6			
60歳代	107	43.0	49.5	29.0	34.6	29.0	27.1	8.4	1.9	0.9	0.9	2.8	2.8			
70～74歳	61	27.9	47.5	19.7	32.8	26.2	14.8	9.8	1.6	-	6.6	8.2	11.5			
75歳以上	81	25.9	43.2	22.2	29.6	27.2	17.3	4.9	-	2.5	3.7	13.6	8.6			
女性18～29歳	35	45.7	34.3	31.4	40.0	34.3	28.6	5.7	5.7	5.7	2.9	5.7	2.9			
30歳代	64	40.6	31.3	46.9	34.4	23.4	37.5	3.1	9.4	3.1	1.6	3.1	3.1			
40歳代	121	49.6	28.9	42.1	34.7	34.7	34.7	9.9	9.9	2.5	1.7	0.8	2.5			
50歳代	157	42.0	32.5	39.5	38.9	36.3	28.0	7.6	3.2	2.5	1.9	3.2	7.0			
60歳代	111	36.0	36.9	40.5	39.6	28.8	27.0	8.1	2.7	0.9	0.9	4.5	8.1			
70～74歳	45	31.1	46.7	40.0	40.0	26.7	20.0	11.1	-	-	-	4.4	13.3			
75歳以上	70	25.7	40.0	44.3	42.9	30.0	15.7	5.7	2.9	-	4.3	4.3	5.7			

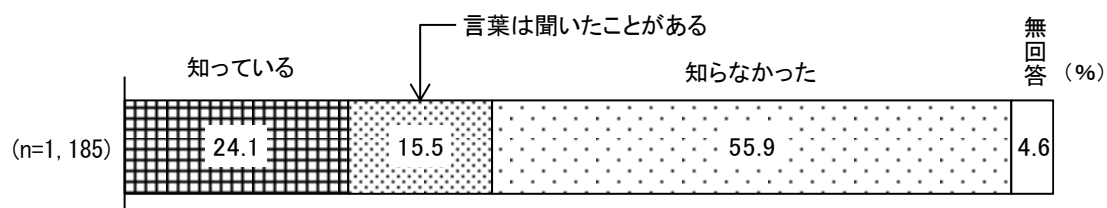
4 「フレイル」の認知度【問21】

【全体の状況】

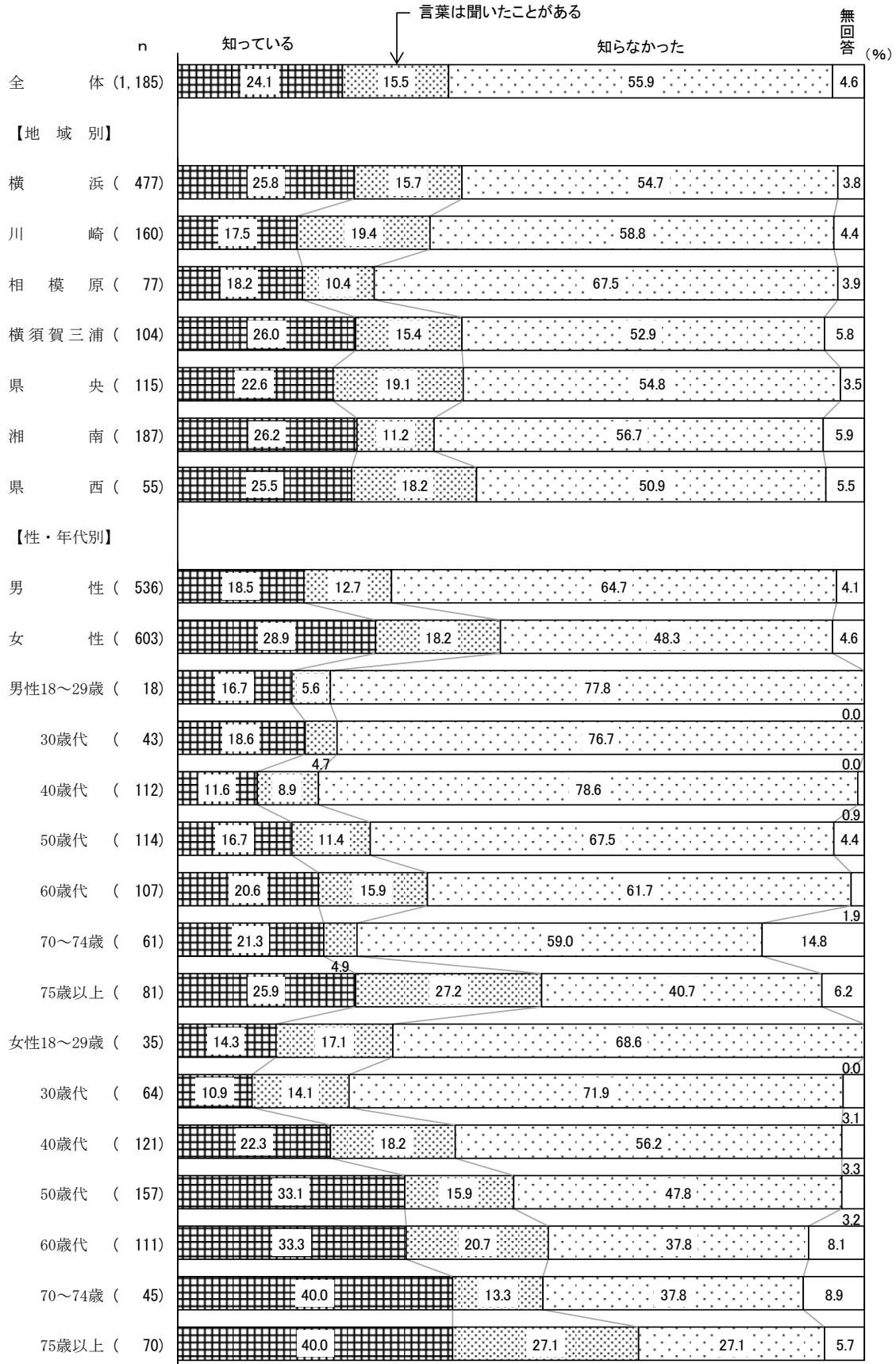
「フレイル」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が24.1%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が15.5%であった。

一方、「知らなかった」が55.9%であった。(図表7-4-1)

図表7-4-1 「フレイル」の認知度



図表7-4-2 「フレイル」の認知度—地域別、性・年代別



第8章 依存症に対する意識【問22～問23-1】

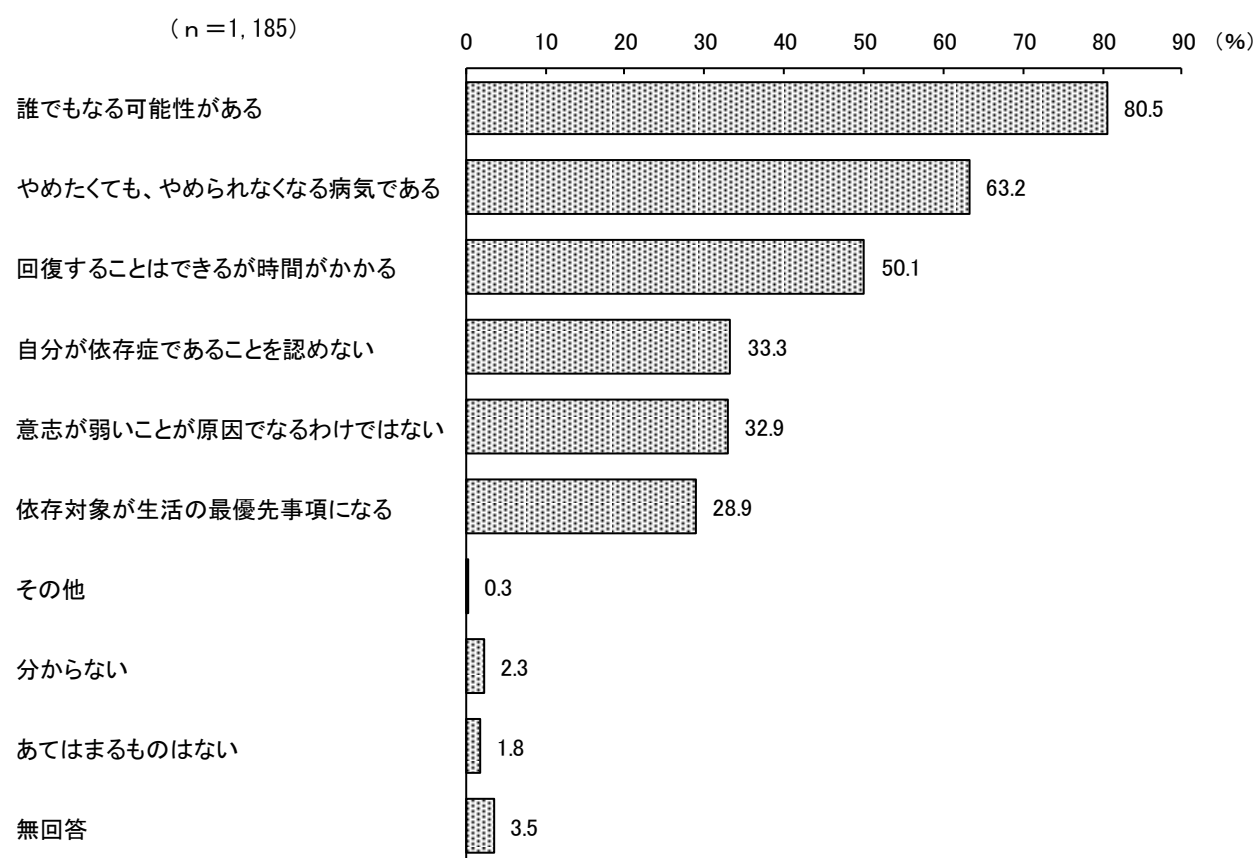
1 依存症に対する意識に関する認知状況【問22】

【全体の状況】

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が80.5%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が63.2%であった。

(図表 8-1-1)

図表8-1-1 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）



図表8-1-2 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

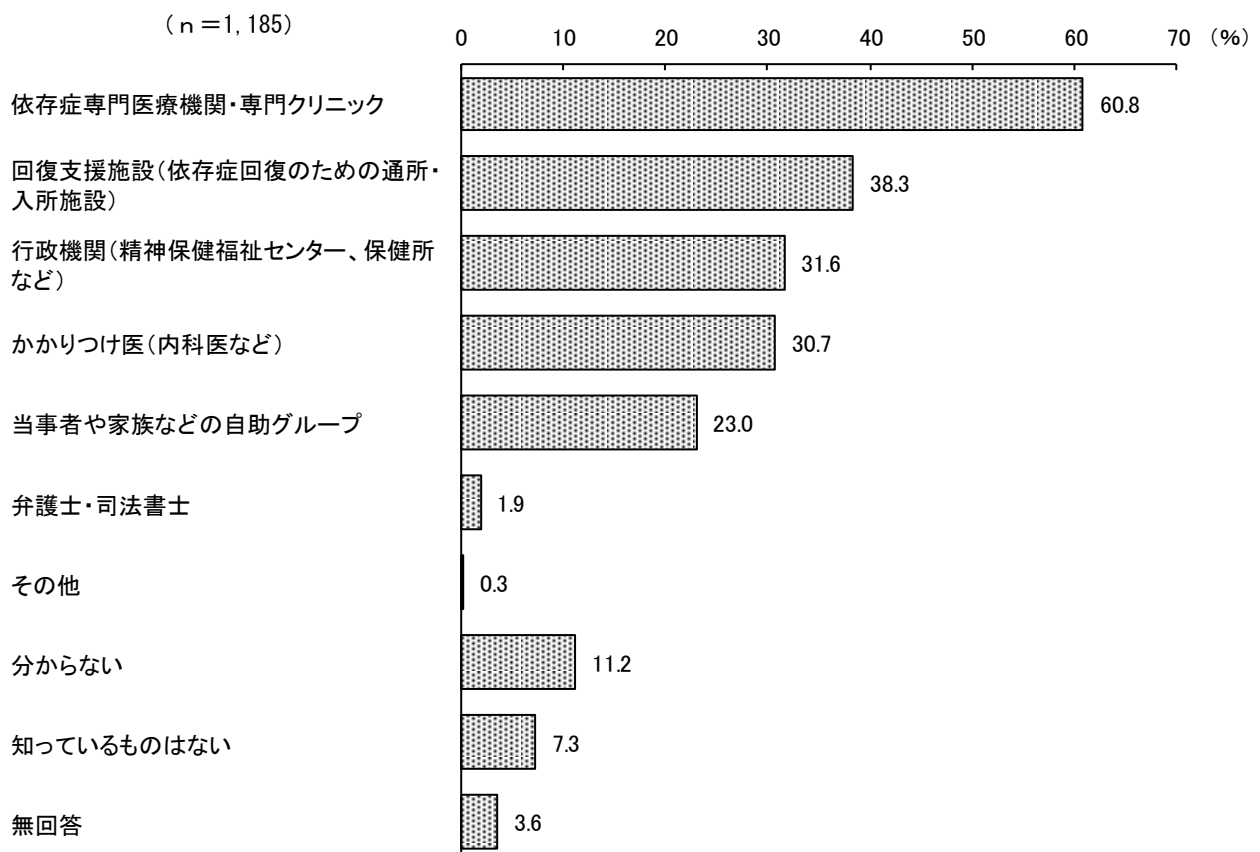
	n	誰でもなる可能性がある	やめたくても、やめられなくなる 病気である	回復することはできるが時間がかかる	自分が依存症であることを認めない	意志が弱いことが原因でなるわけではない	依存対象が生活の最優先事項になる	その他	分からない	あてはまるものはない	無回答
全 体	1,185	80.5	63.2	50.1	33.3	32.9	28.9	0.3	2.3	1.8	3.5
【地 域 別】											
横 浜	477	79.9	64.8	51.2	37.7	33.8	32.1	0.2	1.9	1.7	2.7
川 崎	160	78.8	61.9	55.0	28.8	34.4	26.9	-	1.3	1.3	3.8
相 模 原	77	84.4	62.3	44.2	26.0	26.0	28.6	2.6	1.3	2.6	2.6
横須賀三浦	104	81.7	58.7	44.2	22.1	32.7	22.1	-	2.9	1.0	4.8
県 央	115	85.2	63.5	56.5	40.9	40.9	33.9	0.9	1.7	2.6	2.6
湘 南	187	81.8	64.2	47.1	34.2	32.6	27.3	-	2.1	2.1	4.8
県 西	55	72.7	58.2	40.0	25.5	16.4	16.4	-	9.1	1.8	5.5
【性・年代別】											
男 性	536	80.6	59.9	44.4	32.5	31.7	26.1	0.2	3.4	1.5	3.5
女 性	603	81.6	67.3	55.6	34.8	34.5	31.7	0.5	1.0	1.7	3.5
男性18～29歳	18	88.9	66.7	50.0	27.8	55.6	44.4	-	-	-	-
30歳代	43	83.7	62.8	37.2	39.5	37.2	37.2	2.3	4.7	-	-
40歳代	112	91.1	63.4	57.1	39.3	31.3	32.1	-	1.8	0.9	0.9
50歳代	114	82.5	63.2	46.5	37.7	36.0	34.2	-	2.6	1.8	2.6
60歳代	107	82.2	58.9	40.2	29.9	31.8	22.4	-	0.9	0.9	1.9
70～74歳	61	72.1	52.5	37.7	27.9	31.1	18.0	-	6.6	3.3	11.5
75歳以上	81	64.2	54.3	37.0	19.8	18.5	7.4	-	7.4	2.5	7.4
女性18～29歳	35	97.1	77.1	57.1	25.7	37.1	34.3	-	-	-	-
30歳代	64	87.5	68.8	65.6	37.5	39.1	42.2	-	-	-	3.1
40歳代	121	93.4	69.4	61.2	43.8	43.8	40.5	0.8	-	-	0.8
50歳代	157	86.0	70.1	55.4	35.7	41.4	29.9	-	0.6	0.6	3.2
60歳代	111	76.6	63.1	50.5	35.1	27.9	29.7	1.8	0.9	-	6.3
70～74歳	45	73.3	71.1	46.7	33.3	31.1	28.9	-	-	2.2	6.7
75歳以上	70	51.4	55.7	50.0	20.0	10.0	14.3	-	5.7	11.4	4.3

2 依存症に関する相談場所として知っているもの【問23】

【全体の状況】

依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が60.8%で最も多く、次いで「回復支援施設（依存症回復のための通所・入所施設）」が38.3%であった。（図表8-2-1）

図表8-2-1 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表8-2-2 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

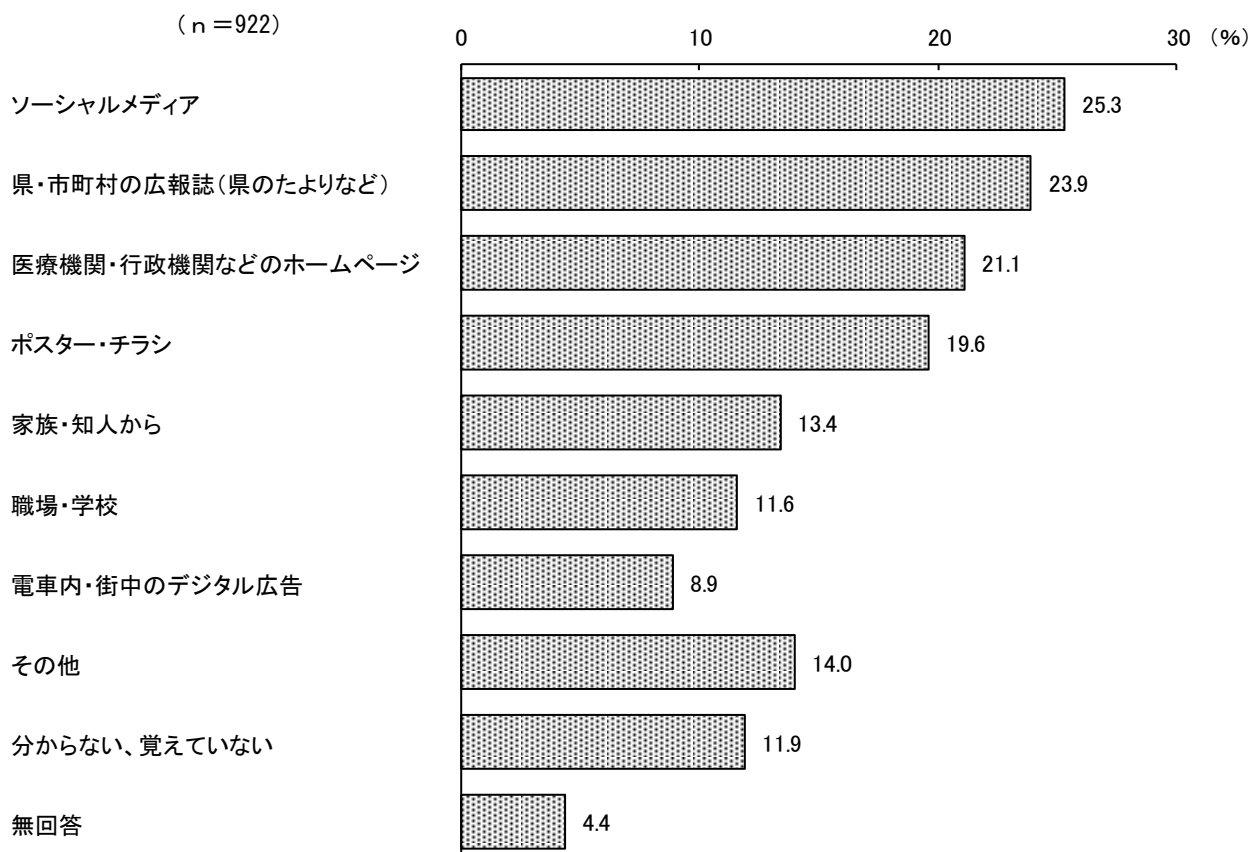
	n	依存症専門医療機関・専門クリニック	回復支援施設（依存症回復のため の通所・入所施設）	行政機関（精神保健福祉センター、 保健所など）	かかりつけ医（内科医など）	当事者や家族などの自助グループ	弁護士・司法書士	その他	分からない	知っているものはない	無回答
全体	1,185	60.8	38.3	31.6	30.7	23.0	1.9	0.3	11.2	7.3	3.6
【地域別】											
横浜	477	61.6	40.5	32.7	31.7	22.9	2.1	0.4	9.9	9.0	2.9
川崎	160	55.6	36.3	30.6	24.4	21.9	1.9	-	13.8	7.5	3.8
相模原	77	49.4	28.6	31.2	37.7	19.5	-	1.3	14.3	7.8	2.6
横須賀三浦	104	67.3	38.5	24.0	30.8	20.2	3.8	-	9.6	5.8	4.8
県央	115	65.2	34.8	31.3	28.7	24.3	1.7	-	11.3	7.8	2.6
湘南	187	65.8	40.1	34.8	34.8	27.8	2.1	-	8.0	4.3	4.8
県西	55	52.7	38.2	29.1	25.5	16.4	-	-	23.6	3.6	5.5
【性・年代別】											
男性	536	57.1	32.6	32.1	30.4	20.5	2.8	0.4	14.0	8.8	3.4
女性	603	65.8	43.8	32.0	32.0	25.5	1.3	0.2	8.3	5.8	3.8
男性18～29歳	18	72.2	27.8	50.0	55.6	22.2	5.6	-	16.7	-	-
30歳代	43	60.5	27.9	32.6	39.5	30.2	2.3	2.3	14.0	4.7	-
40歳代	112	63.4	33.0	33.9	33.9	29.5	1.8	-	11.6	6.3	0.9
50歳代	114	59.6	40.4	35.1	31.6	20.2	3.5	-	10.5	9.6	2.6
60歳代	107	65.4	35.5	33.6	27.1	20.6	3.7	-	9.3	12.1	1.9
70～74歳	61	41.0	24.6	29.5	18.0	11.5	1.6	-	24.6	9.8	11.5
75歳以上	81	40.7	27.2	21.0	27.2	9.9	2.5	1.2	19.8	9.9	6.2
女性18～29歳	35	62.9	28.6	28.6	45.7	20.0	2.9	-	11.4	2.9	2.9
30歳代	64	75.0	34.4	23.4	39.1	21.9	3.1	-	7.8	3.1	3.1
40歳代	121	67.8	44.6	37.2	43.0	35.5	1.7	-	9.9	5.8	0.8
50歳代	157	70.1	48.4	28.0	28.0	29.9	0.6	0.6	5.7	4.5	3.2
60歳代	111	64.0	48.6	37.8	24.3	18.9	0.9	-	5.4	8.1	6.3
70～74歳	45	71.1	53.3	37.8	28.9	22.2	2.2	-	6.7	6.7	6.7
75歳以上	70	45.7	34.3	28.6	22.9	17.1	-	-	15.7	8.6	5.7

3 相談できる場所を知ったきっかけ【問23-1】

【全体の状況】

依存症について相談できる場所（問23）で、知っているとは回答した922人に、相談できる場所を知ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「ソーシャルメディア」が25.3%で最も多く、次いで「県・市町村の広報紙（県のたよりなど）」が23.9%であった。（図表8-3-1）

図表8-3-1 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）



図表8-3-2 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	ソーシャルメディア	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	医療機関・行政機関などのホームページ	ポスター・チラシ	家族・知人から	職場・学校	電車内・街中のデジタル広告	その他	分からない、覚えていない	無回答
全 体	922	25.3	23.9	21.1	19.6	13.4	11.6	8.9	14.0	11.9	4.4
【地 域 別】											
横 浜	373	24.7	23.1	19.3	19.6	11.8	11.0	9.7	16.1	12.9	4.8
川 崎	120	30.0	20.8	22.5	19.2	8.3	10.8	11.7	14.2	12.5	5.0
相 模 原	58	15.5	25.9	19.0	22.4	15.5	12.1	8.6	13.8	15.5	1.7
横 須 賀 三 浦	83	26.5	16.9	28.9	15.7	15.7	10.8	6.0	10.8	14.5	4.8
県 央	90	27.8	25.6	23.3	23.3	13.3	14.4	10.0	11.1	11.1	5.6
湘 南	155	24.5	27.7	21.3	18.7	20.0	11.6	5.8	14.8	6.5	3.9
県 西	37	29.7	32.4	18.9	16.2	10.8	13.5	10.8	2.7	13.5	2.7
【性・年代別】											
男 性	396	25.8	22.5	24.7	22.7	12.6	13.1	9.8	11.4	10.4	4.5
女 性	495	25.5	24.6	18.8	17.4	13.9	10.7	8.5	16.6	12.9	4.2
男性18～29歳	15	60.0	13.3	40.0	13.3	-	13.3	6.7	6.7	13.3	-
30歳代	35	31.4	11.4	8.6	14.3	5.7	28.6	8.6	11.4	14.3	8.6
40歳代	91	31.9	8.8	11.0	23.1	5.5	13.2	15.4	8.8	15.4	7.7
50歳代	88	37.5	22.7	25.0	23.9	17.0	11.4	9.1	12.5	5.7	3.4
60歳代	82	12.2	29.3	31.7	29.3	14.6	13.4	9.8	18.3	9.8	3.7
70～74歳	33	15.2	30.3	36.4	21.2	18.2	9.1	12.1	6.1	6.1	3.0
75歳以上	52	9.6	40.4	36.5	19.2	19.2	7.7	1.9	7.7	9.6	1.9
女性18～29歳	29	41.4	6.9	20.7	10.3	10.3	17.2	20.7	13.8	13.8	3.4
30歳代	55	36.4	10.9	10.9	16.4	14.5	14.5	14.5	10.9	20.0	3.6
40歳代	101	29.7	14.9	16.8	18.8	5.0	16.8	6.9	17.8	12.9	7.9
50歳代	136	27.9	16.9	14.7	14.7	14.0	9.6	5.9	17.6	16.2	5.9
60歳代	89	21.3	34.8	33.7	23.6	13.5	4.5	6.7	15.7	12.4	1.1
70～74歳	36	13.9	63.9	25.0	19.4	25.0	5.6	5.6	16.7	2.8	-
75歳以上	49	4.1	44.9	10.2	14.3	26.5	8.2	10.2	20.4	4.1	2.0

第9章 肝炎対策【問24～問25-1】

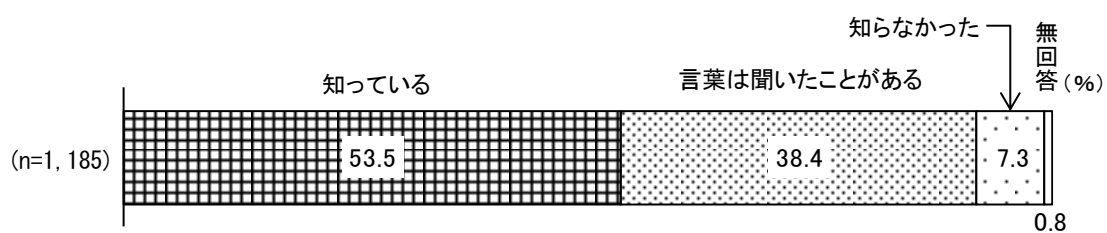
1 ウイルス性肝炎の認知度【問24】

【全体の状況】

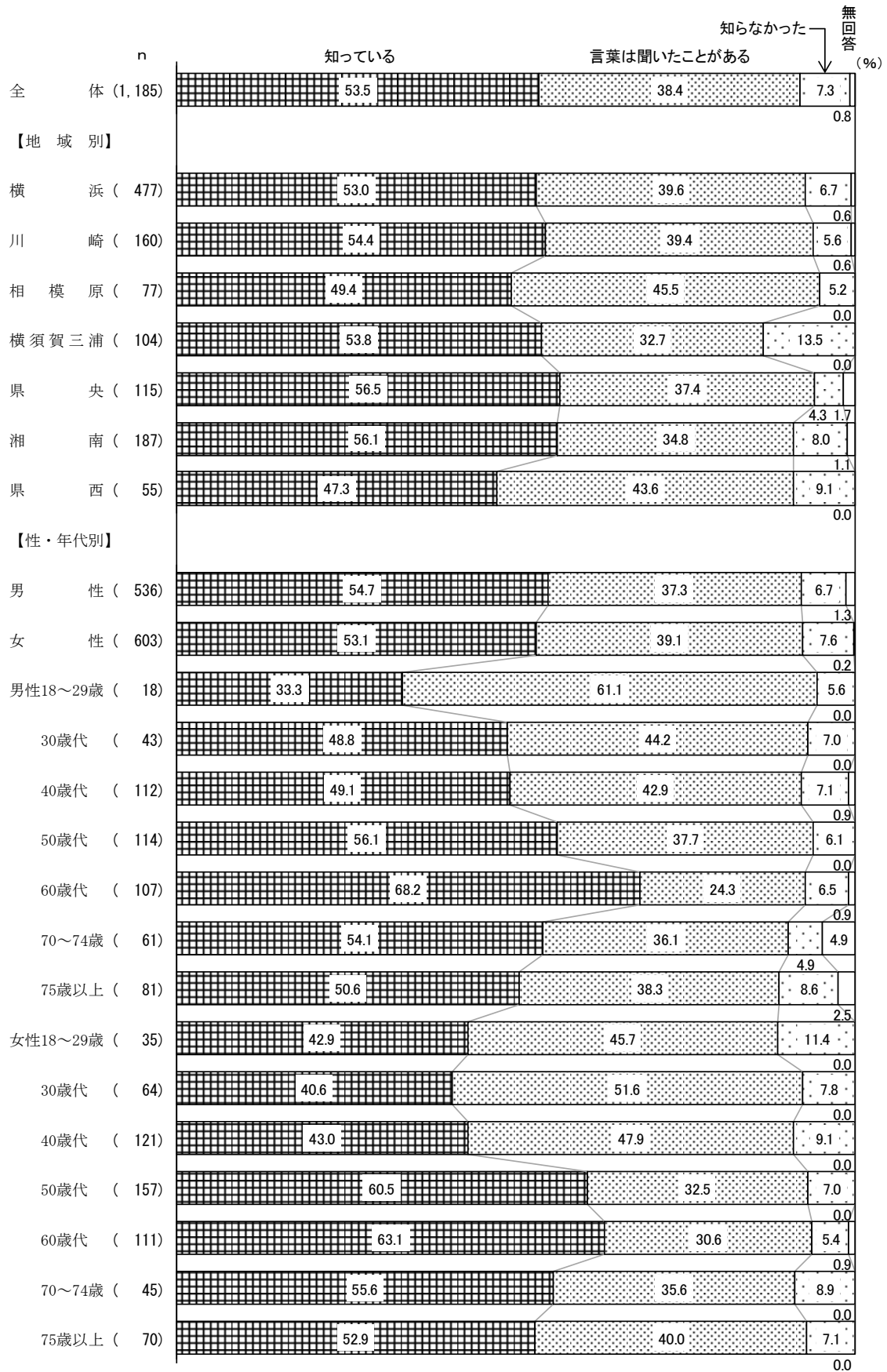
ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「知っている」が53.5%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が38.4%であった。

一方、「知らなかった」は、7.3%であった。（図表9-1-1）

図表9-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



図表9-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別



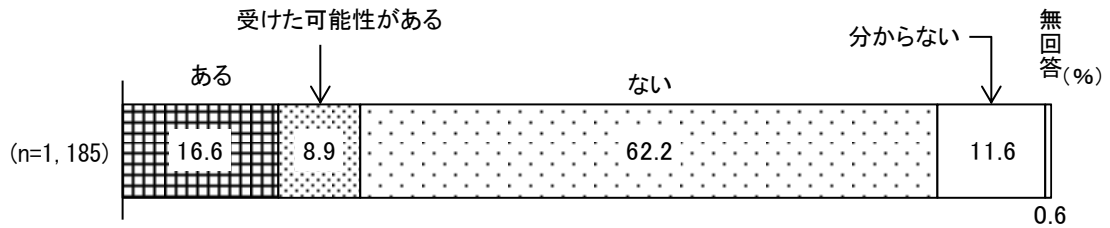
2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況【問25】

【全体の状況】

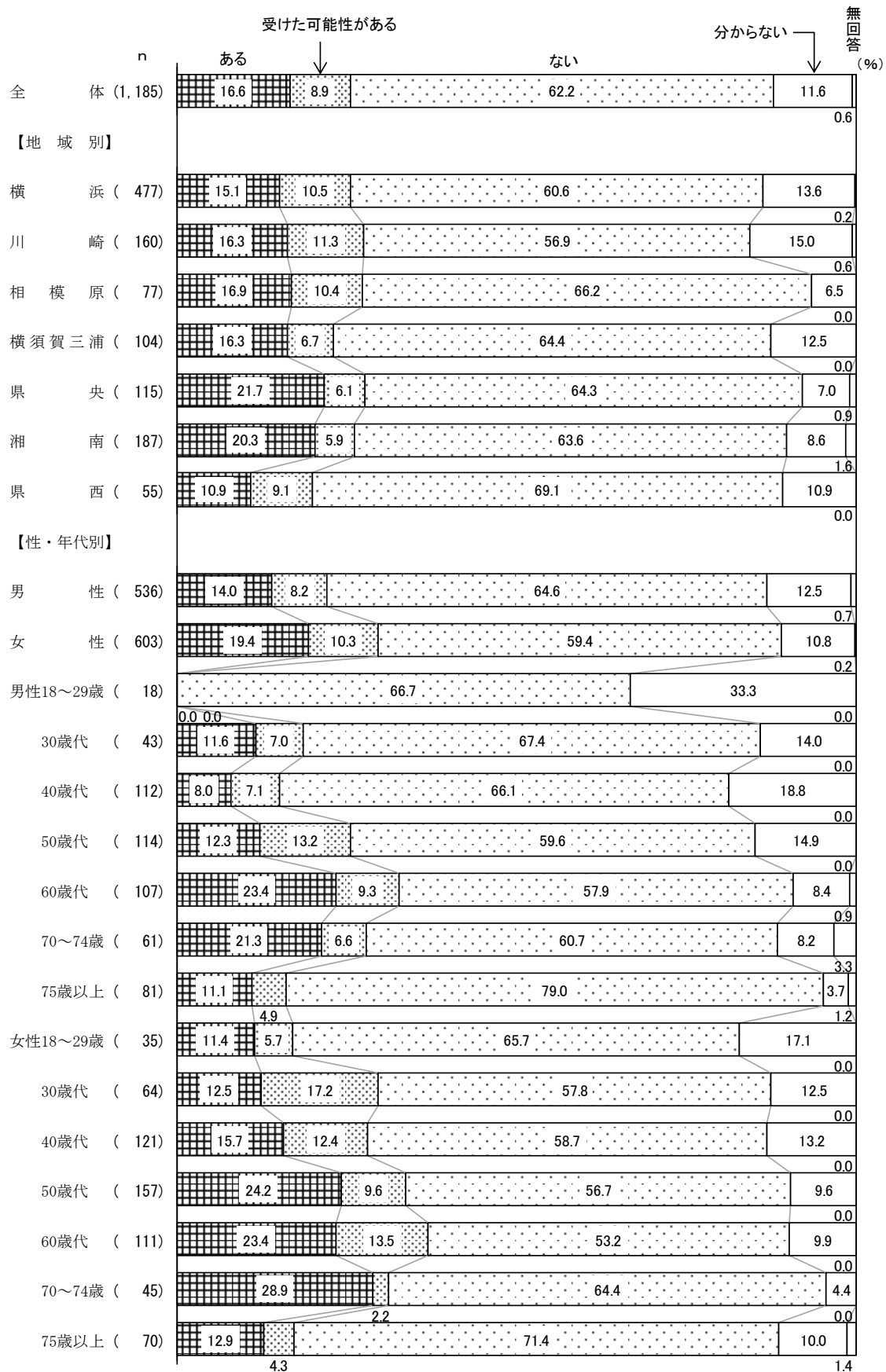
これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が16.6%であった。

一方、「ない」が62.2%であった。(図表9-2-1)

図表9-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受検状況



図表9-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況—地域別、性・年代別



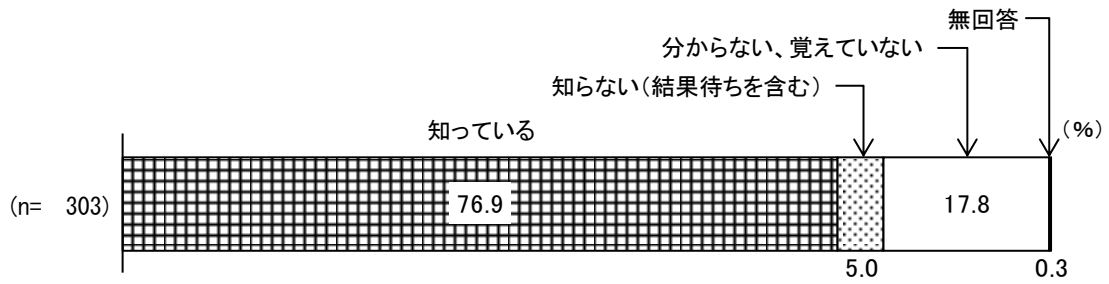
3 検査結果の把握状況【問25-1】

【全体の状況】

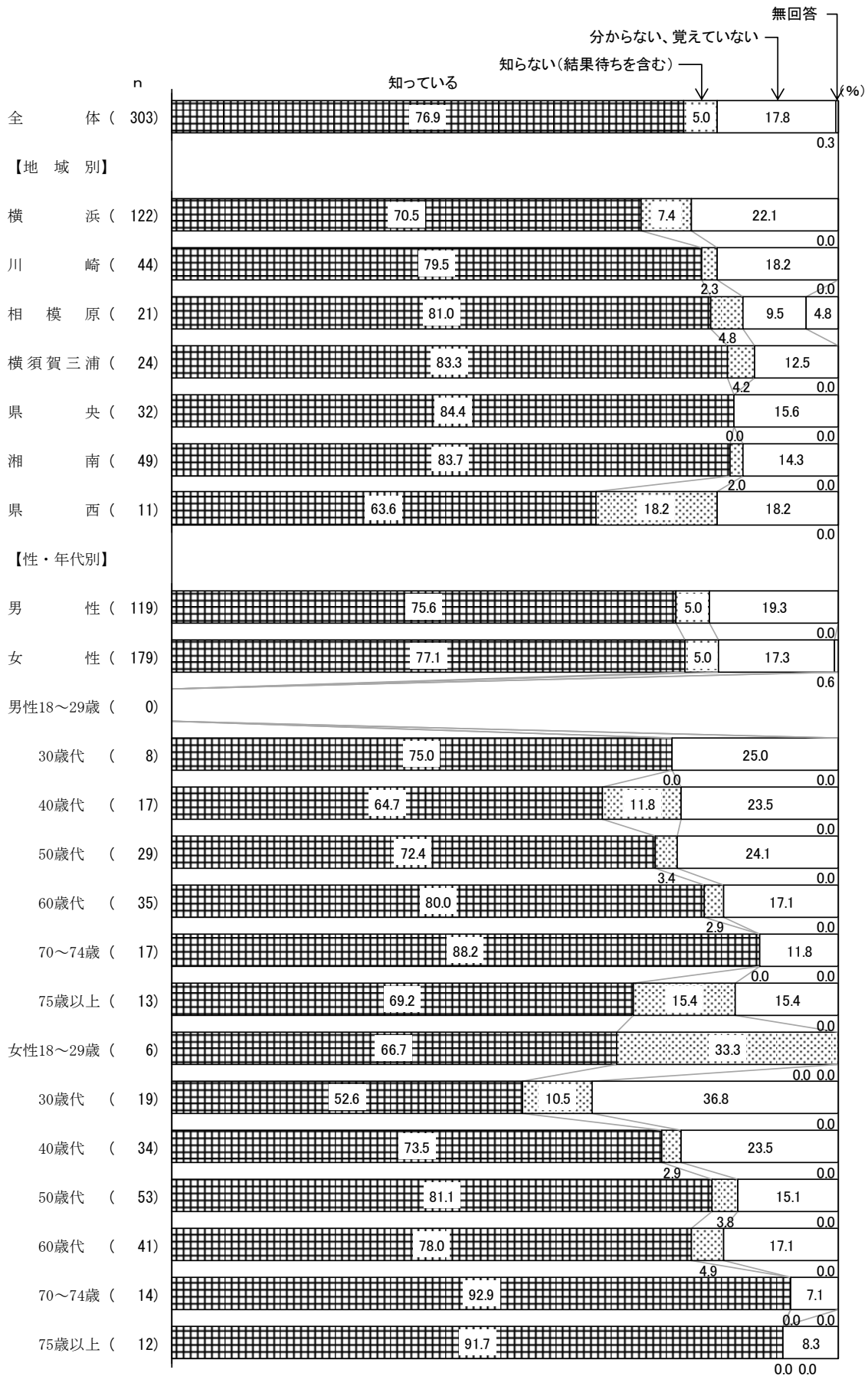
「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問25）で、「ある」または「受けた可能性がある」と回答した303人に、検査の結果を知っているか尋ねたところ、「知っている」が76.9%であった。

一方、「知らない（結果待ちを含む）」は、5.0%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 検査結果の把握状況



図表9-3-2 検査結果の把握状況—地域別、性・年代別



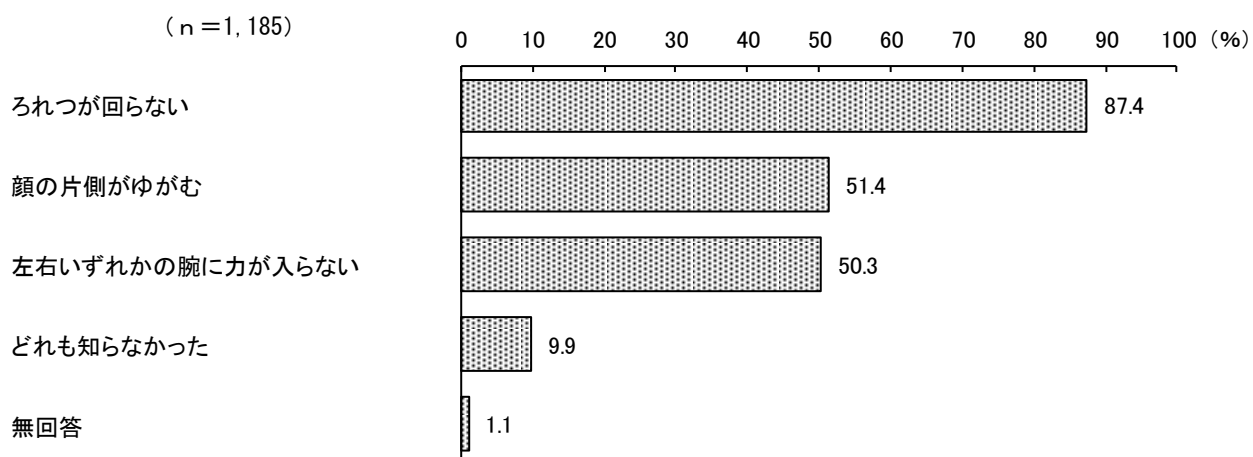
第10章 循環器病対策【問26～問28】

1 脳卒中の主な初期症状の認知度【問26】

【全体の状況】

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が87.4%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が51.4%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）



図表10-1-2 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	ろれつが回らない	顔の片側がゆがむ	左右いずれかの腕に力が入らない	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,185	87.4	51.4	50.3	9.9	1.1
【地 域 別】						
横 浜	477	86.8	56.4	52.2	10.1	0.6
川 崎	160	90.6	49.4	51.3	7.5	0.6
相 模 原	77	88.3	46.8	48.1	10.4	1.3
横 須 賀 三 浦	104	85.6	45.2	37.5	12.5	1.0
県 央	115	88.7	50.4	55.7	9.6	1.7
湘 南	187	88.8	48.7	49.2	7.0	2.1
県 西	55	85.5	45.5	50.9	14.5	-
【性・年代別】						
男 性	536	85.6	45.9	43.3	11.6	1.3
女 性	603	90.0	56.2	56.9	7.6	0.5
男性 18～29歳	18	72.2	27.8	27.8	27.8	-
30 歳 代	43	81.4	30.2	30.2	16.3	-
40 歳 代	112	86.6	51.8	42.9	11.6	-
50 歳 代	114	87.7	43.0	48.2	9.6	-
60 歳 代	107	91.6	53.3	50.5	7.5	0.9
70～74歳	61	85.2	42.6	37.7	11.5	3.3
75歳以上	81	79.0	46.9	42.0	13.6	4.9
女性 18～29歳	35	82.9	48.6	54.3	14.3	-
30 歳 代	64	81.3	42.2	32.8	14.1	-
40 歳 代	121	86.0	46.3	47.1	13.2	-
50 歳 代	157	96.8	62.4	60.5	3.2	-
60 歳 代	111	94.6	64.9	70.3	3.6	0.9
70～74歳	45	97.8	64.4	71.1	-	-
75歳以上	70	81.4	57.1	58.6	10.0	2.9

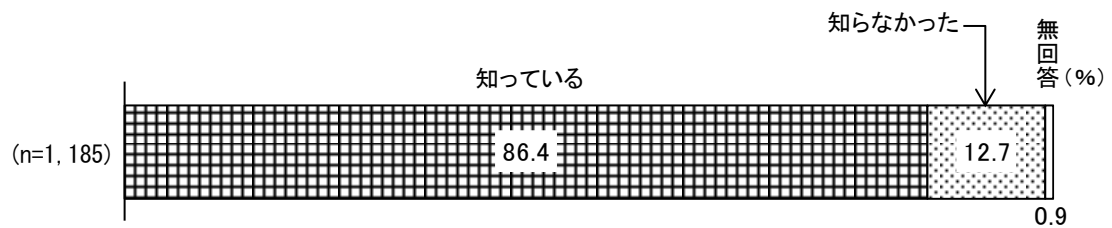
2 脳卒中への適切な対応の認知度【問27】

【全体の状況】

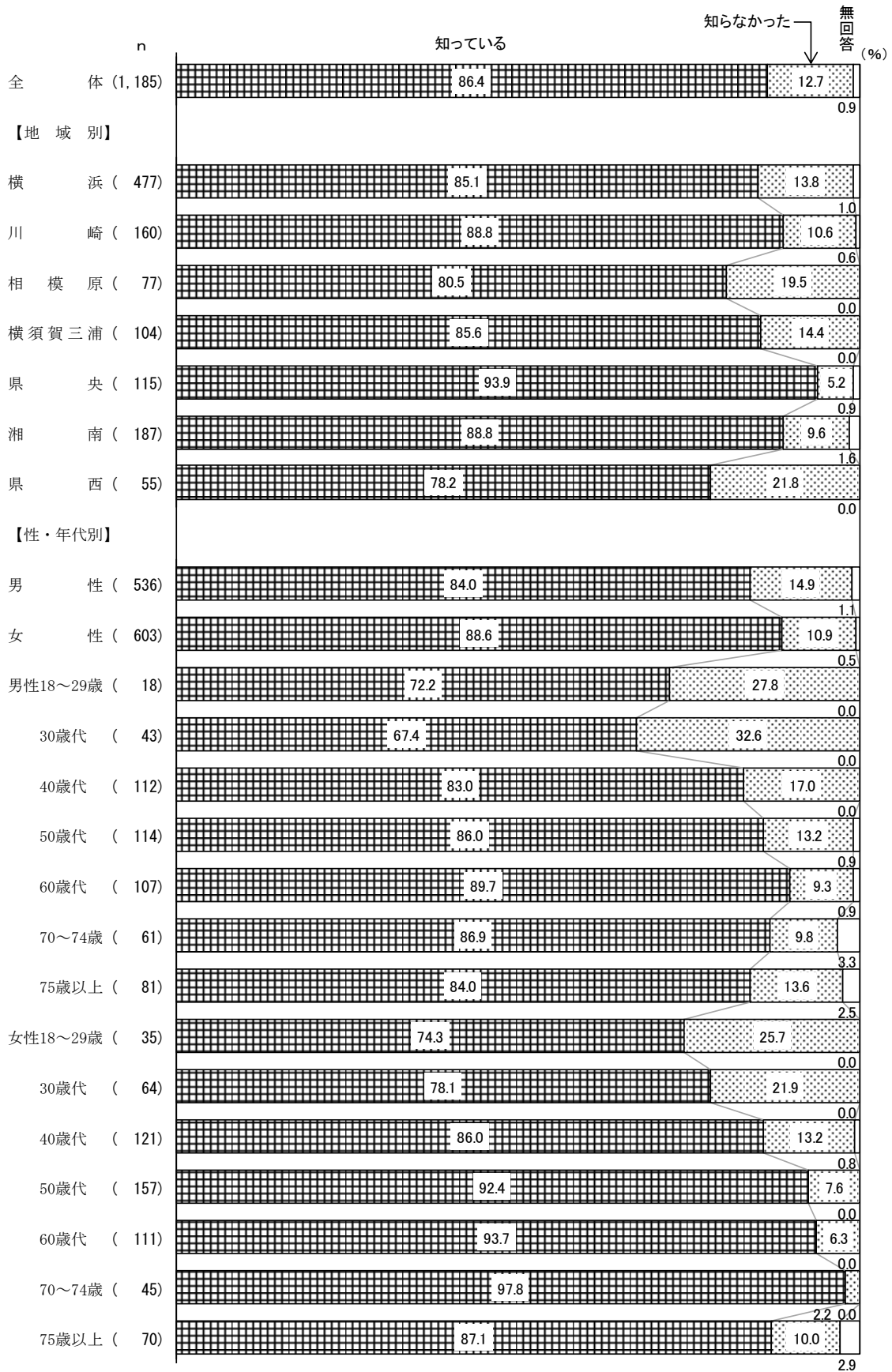
脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が86.4%であった。

一方、「知らなかった」が12.7%であった。(図表10-2-1)

図表10-2-1 脳卒中への適切な対応の認知度



図表10-2-2 脳卒中への適切な対応の認知度—地域別、性・年代別



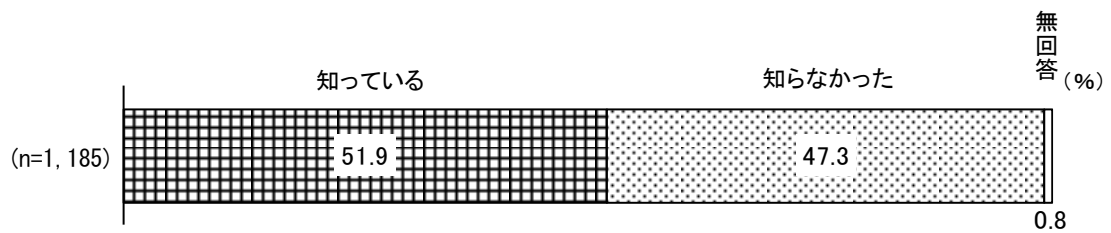
3 心臓病の再発防止対策の認知度【問28】

【全体の状況】

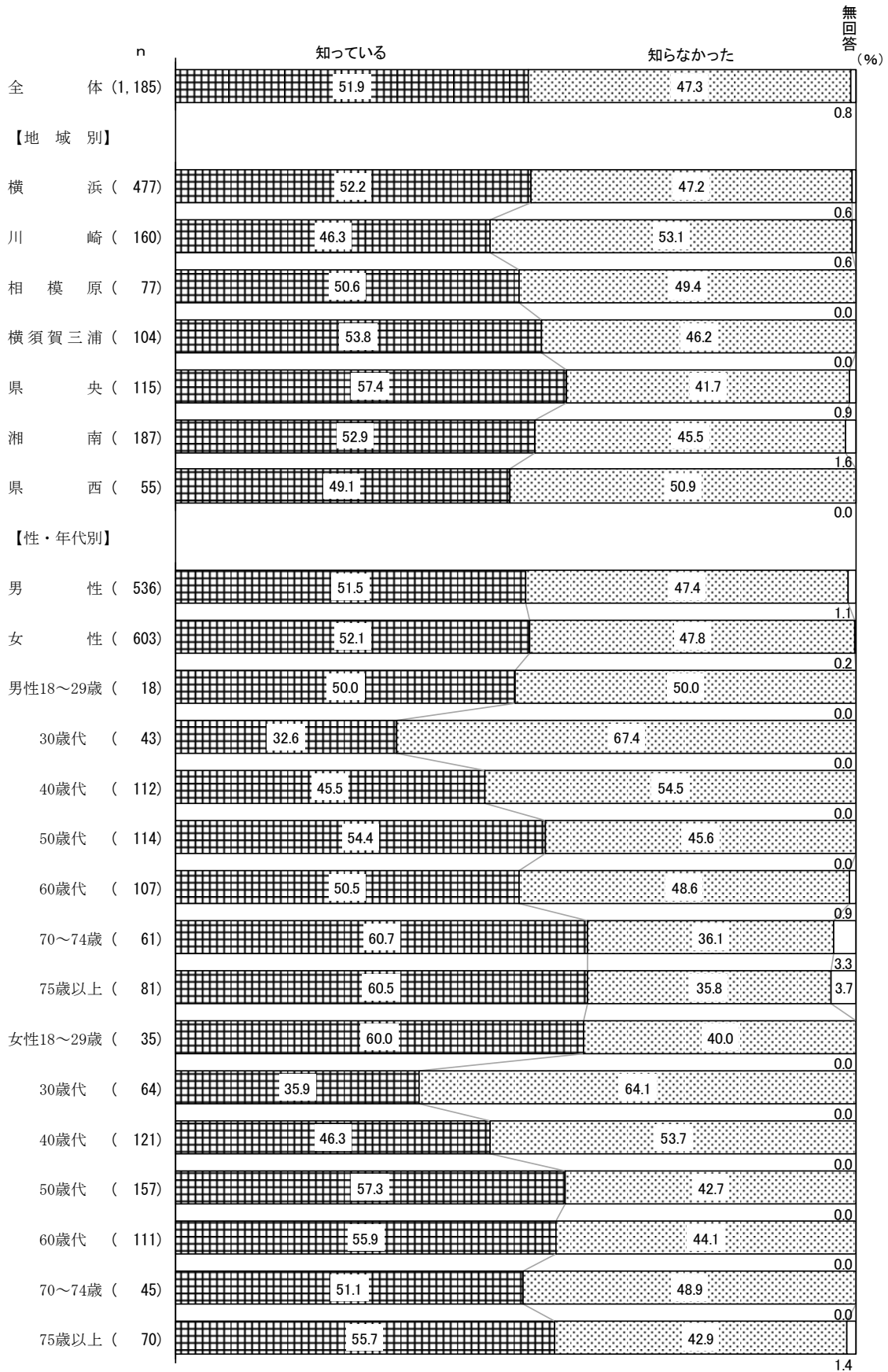
心臓病の再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が51.9%であった。

一方、「知らなかった」が47.3%であった。(図表10-3-1)

図表10-3-1 心臓病の再発防止対策の認知度



図表10-3-2 心臓病の再発防止対策の認知度—地域別、性・年代別



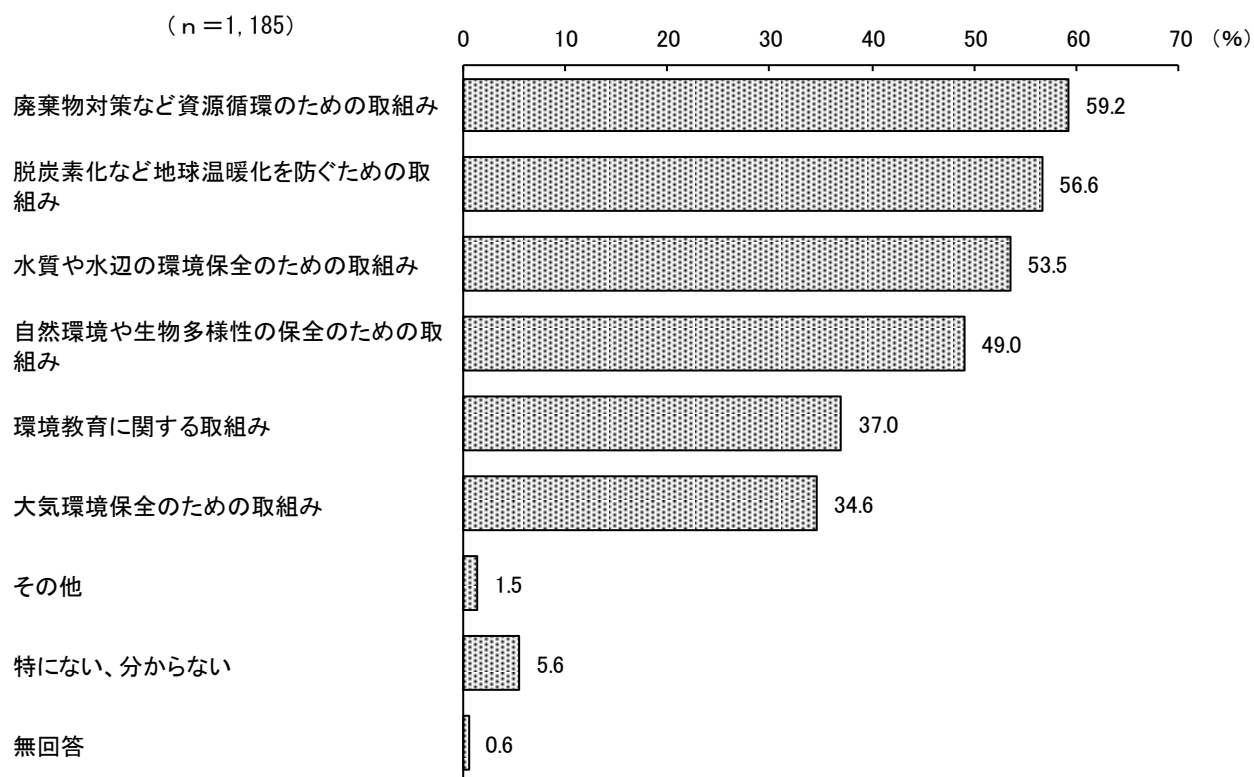
第11章 脱炭素・環境【問29～問32】

1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み【問29】

【全体の状況】

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいか複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が59.2%で最も多く、次いで「脱炭素化など地球温暖化を防ぐための取組み」が56.6%であった。（図表11-1-1）

図表11-1-1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）



図表11-1-2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

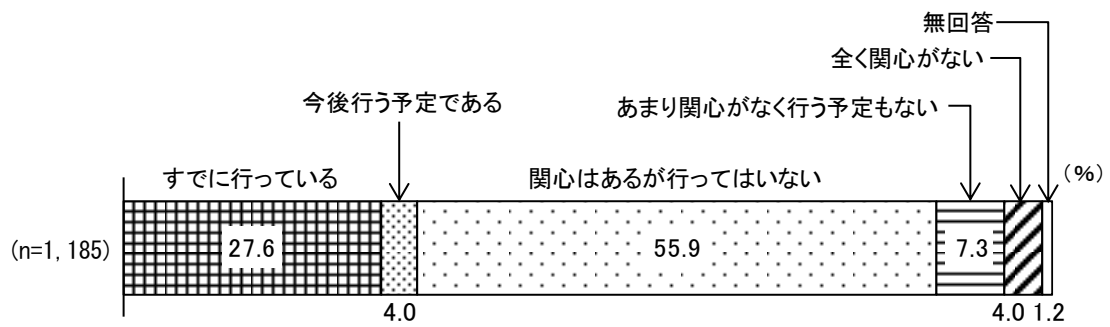
	n	廃棄物対策など資源循環のための取組み	脱炭素化など地球温暖化を防ぐための取組み	水質や水辺の環境保全のための取組み	自然環境や生物多様性の保全のための取組み	環境教育に関する取組み	大気環境保全のための取組み	その他	特にない、分からない	無回答
全 体	1,185	59.2	56.6	53.5	49.0	37.0	34.6	1.5	5.6	0.6
【地 域 別】										
横 浜	477	59.1	56.8	54.3	49.9	35.4	36.1	0.8	5.9	0.4
川 崎	160	66.3	55.6	54.4	51.9	45.0	37.5	2.5	2.5	-
相 模 原	77	62.3	54.5	48.1	49.4	35.1	26.0	5.2	5.2	-
横 須 賀 三 浦	104	51.0	51.9	48.1	49.0	35.6	39.4	2.9	5.8	-
県 央	115	62.6	58.3	51.3	46.1	30.4	28.7	0.9	6.1	1.7
湘 南	187	55.6	59.9	58.3	47.6	40.6	33.7	0.5	4.8	1.1
県 西	55	54.5	56.4	49.1	45.5	36.4	32.7	1.8	12.7	-
【性・年代別】										
男 性	536	60.3	50.0	55.0	48.9	36.8	31.9	2.6	5.8	0.9
女 性	603	59.0	63.0	53.2	50.2	38.1	37.5	0.7	4.5	-
男性18～29歳	18	55.6	16.7	50.0	50.0	44.4	27.8	-	11.1	-
30歳代	43	34.9	27.9	48.8	58.1	25.6	25.6	9.3	7.0	-
40歳代	112	56.3	42.0	61.6	46.4	42.9	29.5	4.5	4.5	-
50歳代	114	62.3	45.6	50.9	46.5	33.3	28.9	0.9	7.0	-
60歳代	107	60.7	60.7	57.0	46.7	36.4	39.3	2.8	3.7	0.9
70～74歳	61	67.2	63.9	63.9	52.5	37.7	41.0	-	4.9	3.3
75歳以上	81	71.6	61.7	46.9	50.6	37.0	27.2	1.2	7.4	2.5
女性18～29歳	35	37.1	37.1	62.9	51.4	17.1	37.1	-	11.4	-
30歳代	64	53.1	39.1	43.8	50.0	31.3	32.8	-	10.9	-
40歳代	121	50.4	59.5	58.7	52.9	38.8	38.0	-	2.5	-
50歳代	157	65.0	62.4	50.3	49.7	38.9	36.3	2.5	3.8	-
60歳代	111	66.7	78.4	52.3	58.6	45.0	38.7	-	1.8	-
70～74歳	45	64.4	82.2	66.7	46.7	35.6	48.9	-	4.4	-
75歳以上	70	61.4	68.6	47.1	35.7	42.9	34.3	-	4.3	-

2 脱炭素を意識した取組み【問30】

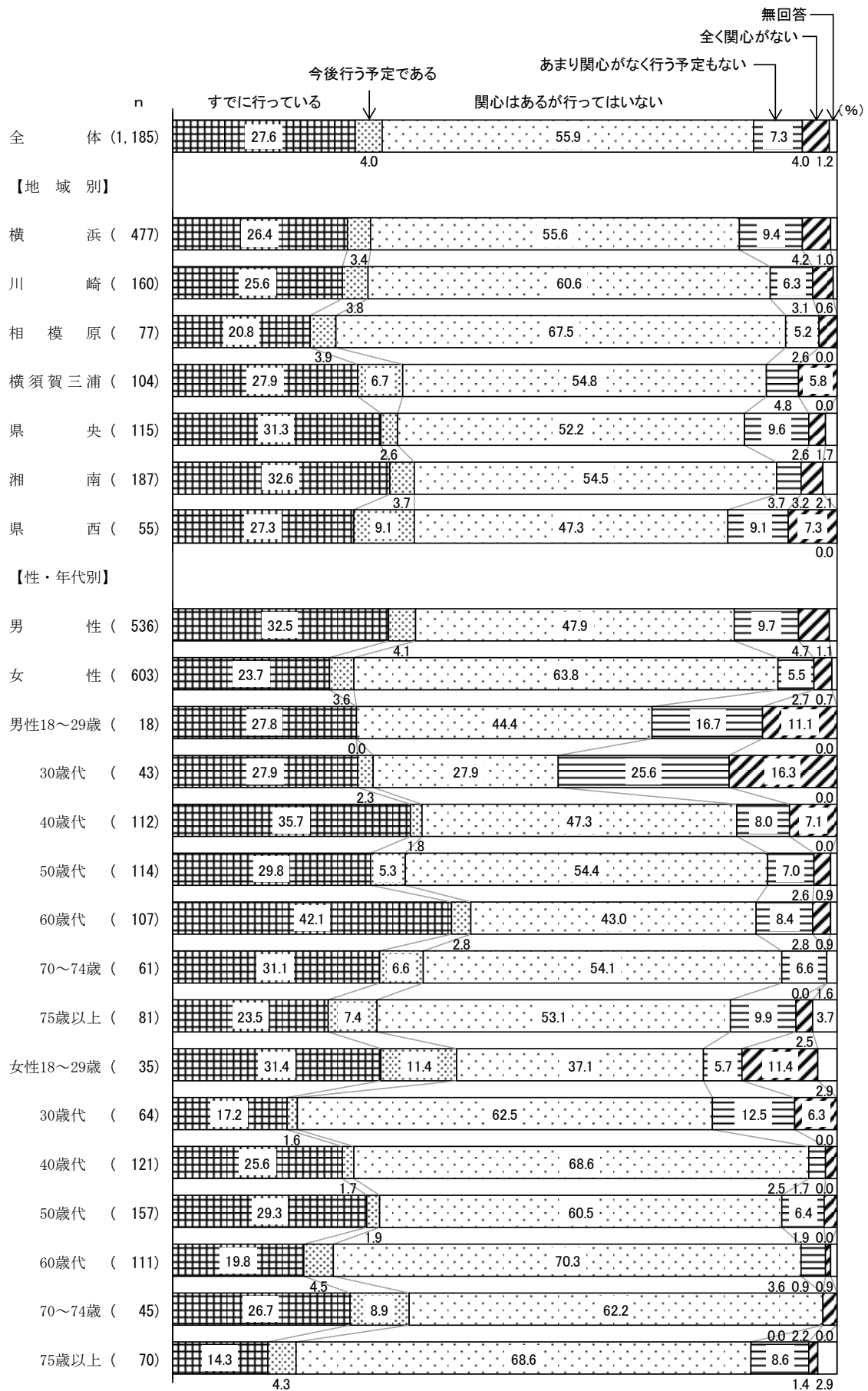
【全体の状況】

省エネや再エネの導入など、脱炭素を意識した取組みを行っているか尋ねたところ、「関心はあるが行ってはいない」が55.9%で最も多く、次いで「すでに行っている」が27.6%であった。(図表11-2-1)

図表11-2-1 脱炭素を意識した取組み



図表11-2-2 脱炭素を意識した取組み—地域別、性・年代別

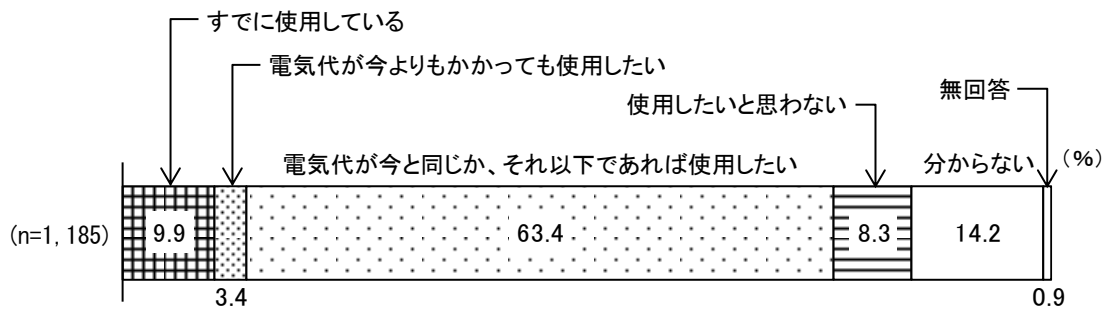


3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向【問31】

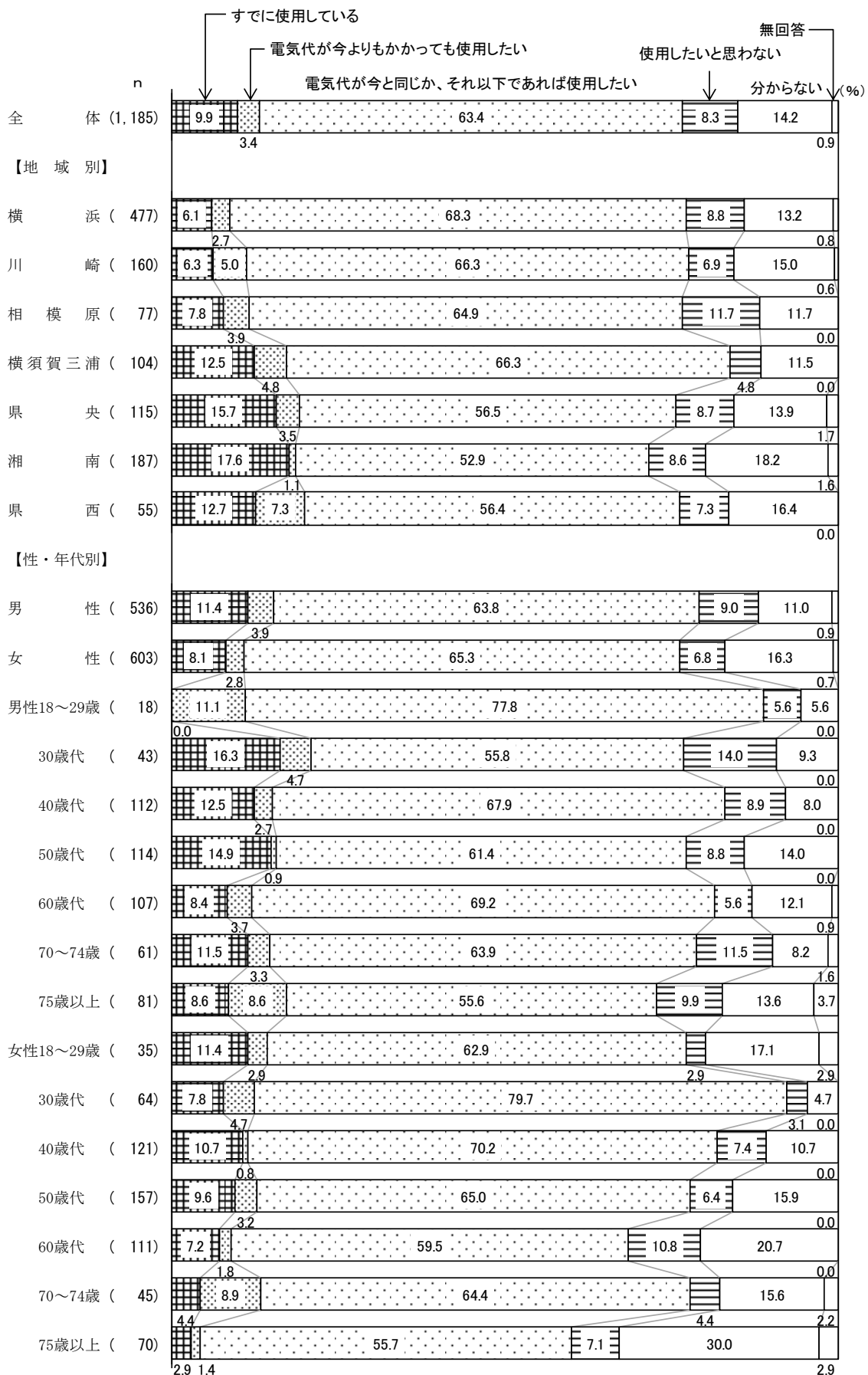
【全体の状況】

家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用したいと思うか尋ねたところ、「電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい」が63.4%で最も多く、次いで「すでに使用している」が9.9%であった。（図表11-3-1）

図表11-3-1 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向



図表11-3-2 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向—地域別、性・年代別

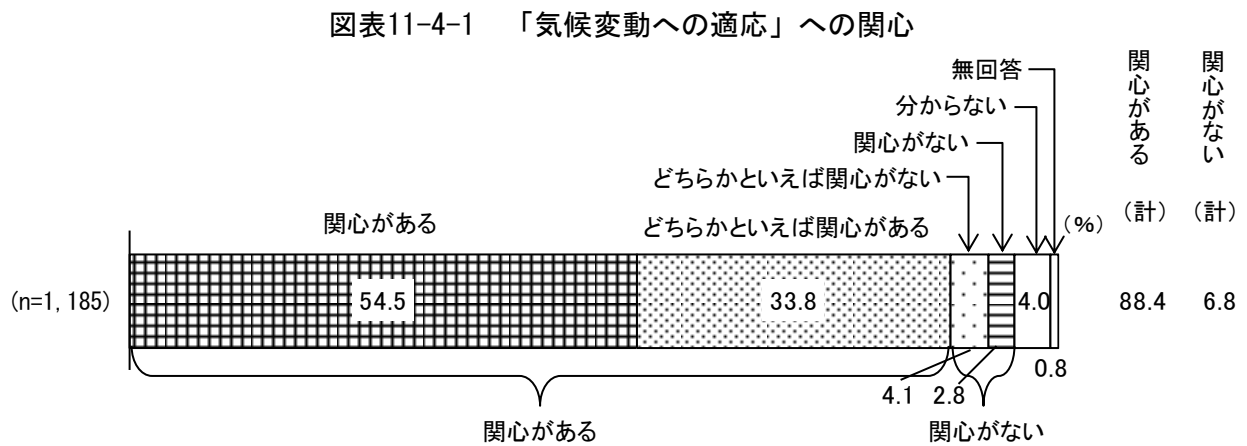


4 「気候変動への適応」への関心【問32】

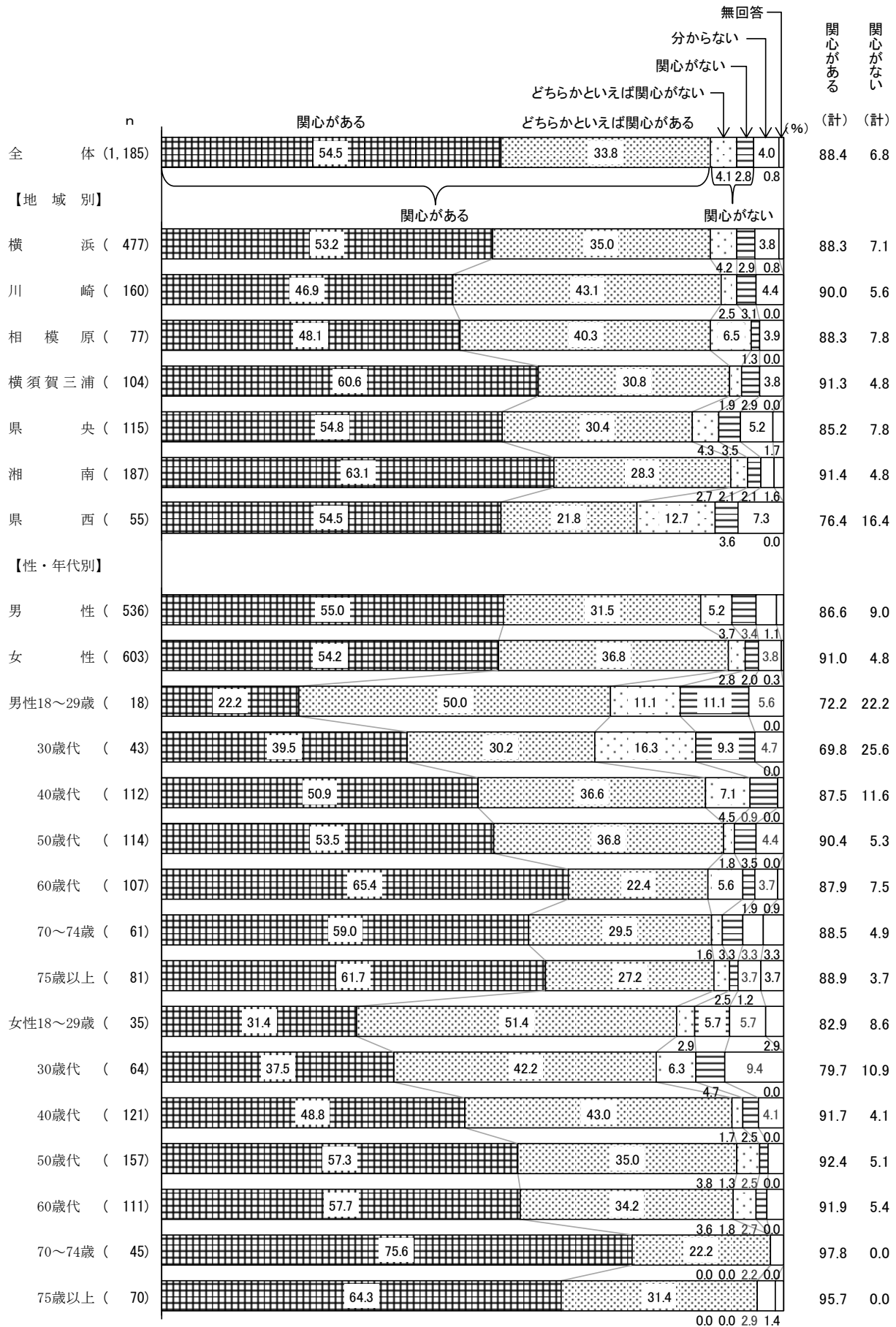
【全体の状況】

「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(54.5%)と「どちらかといえば関心がある」(33.8%)を合わせた《関心がある》は88.4%であった。

一方、「関心がない」(2.8%)と「どちらかといえば関心がない」(4.1%)を合わせた《関心がない》は6.8%であった。(図表11-4-1)



図表11-4-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別



第12章 かながわの水源地域【問33～問35】

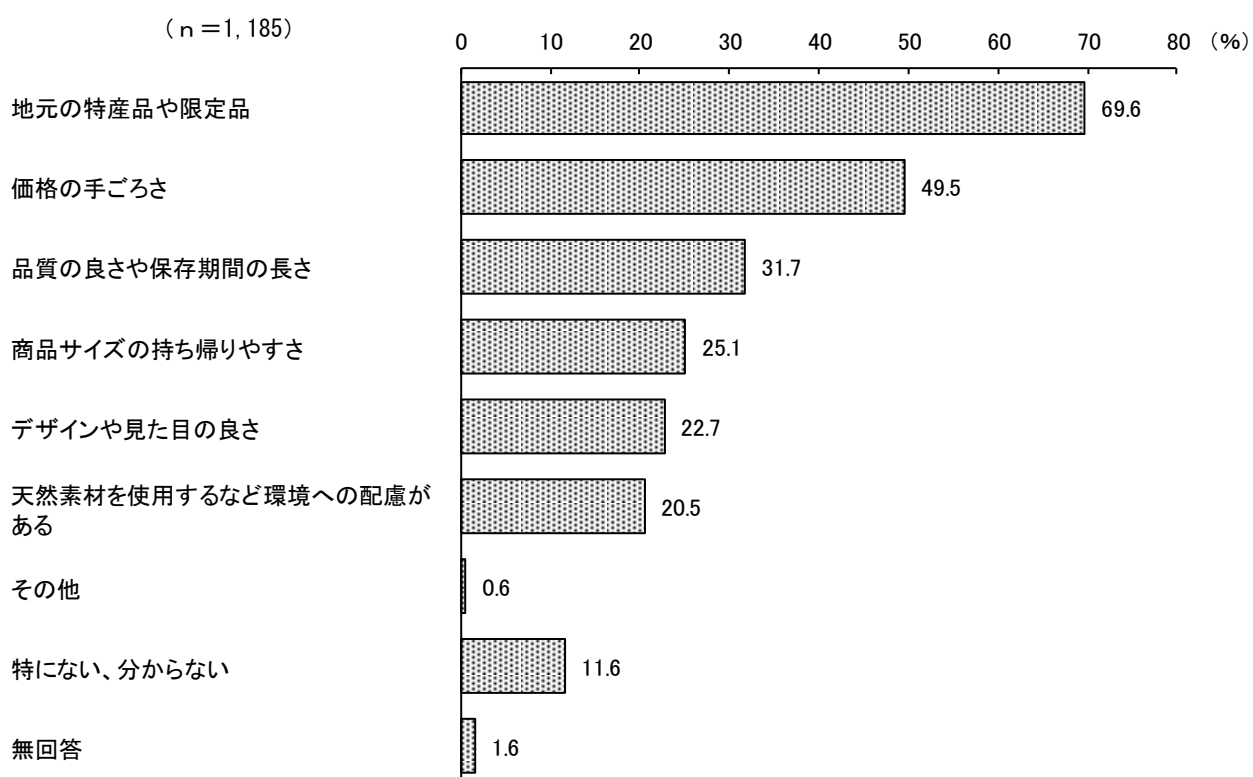
1 水源地域の観光地でお土産などを購入する際に重視すること【問33】

【全体の状況】

水源地域の観光地でお土産などを購入する際に、重視するポイントについて複数回答で尋ねたところ、「地元の特産品や限定品」が69.6%で最も多く、次いで「価格の手ごろさ」が49.5%であった。

(図表12-1-1)

図表12-1-1 水源地域の観光地でお土産などを購入する際に重視すること（複数回答）



図表12-1-2 水源地域の観光地でお土産などを購入する際に重視すること（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

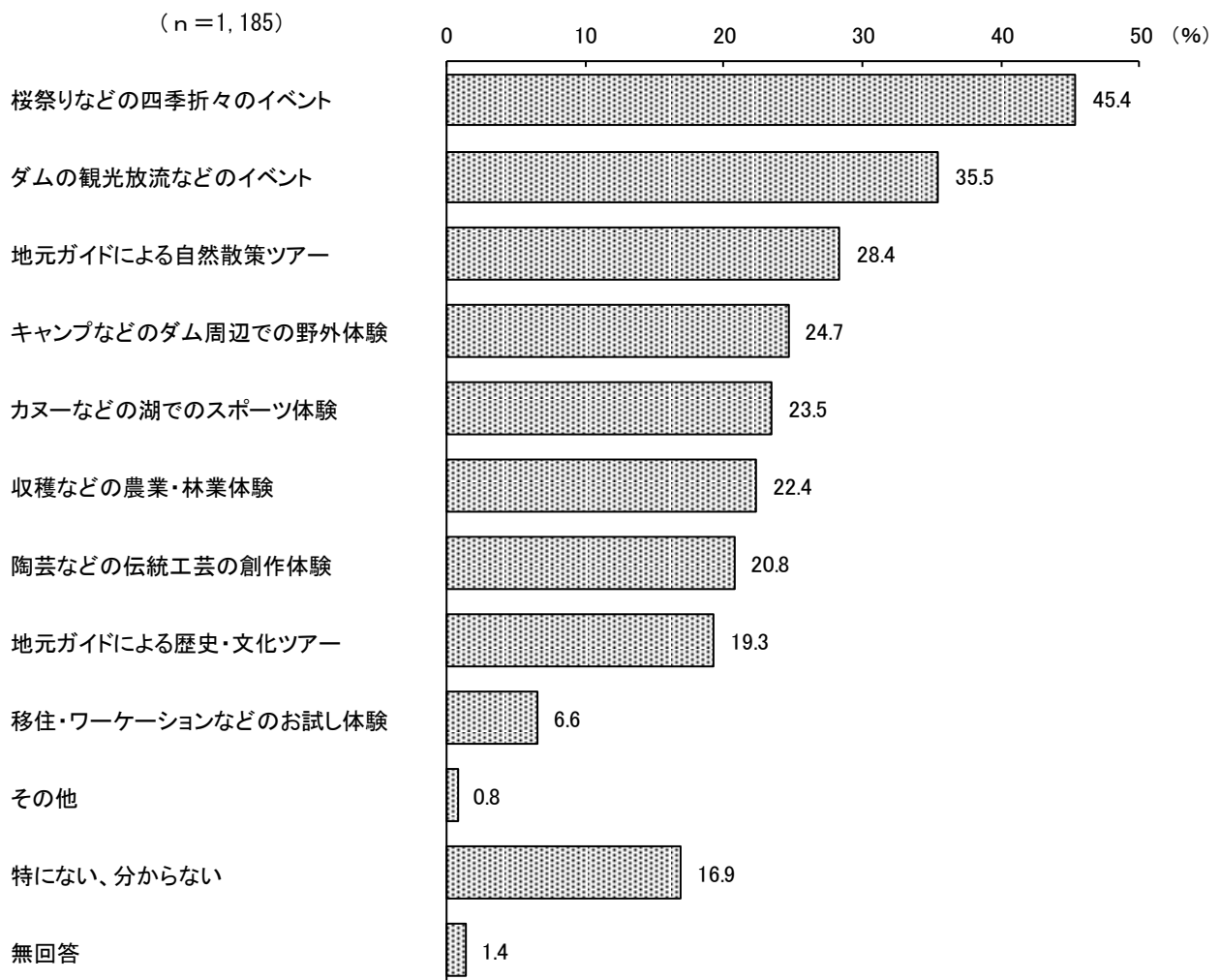
	n	地元の特産品や限定品	価格の手ごろさ	品質の良さや保存期間の長さ	商品サイズの持ち帰りやすさ	デザインや見た目の良さ	配慮がある	天然素材を使用するなど環境への	その他	特にない、分からない	無回答
全 体	1,185	69.6	49.5	31.7	25.1	22.7	20.5	0.6	11.6	1.6	
【地 域 別】											
横 浜	477	69.0	47.6	32.7	29.1	26.6	18.9	0.2	13.4	1.5	
川 崎	160	67.5	47.5	32.5	25.0	23.1	20.0	0.6	13.1	1.3	
相 模 原	77	74.0	59.7	27.3	26.0	23.4	23.4	3.9	2.6	1.3	
横須賀三浦	104	69.2	45.2	28.8	19.2	17.3	22.1	-	12.5	-	
県 央	115	71.3	50.4	26.1	22.6	20.0	20.0	0.9	11.3	-	
湘 南	187	74.3	52.4	35.3	20.3	19.3	21.9	0.5	7.5	2.7	
県 西	55	61.8	54.5	34.5	21.8	14.5	25.5	-	14.5	3.6	
【性・年代別】											
男 性	536	64.9	48.9	29.1	20.3	20.3	20.7	0.4	14.7	1.5	
女 性	603	75.6	50.9	34.3	29.9	25.4	20.1	0.8	8.5	0.8	
男性18～29歳	18	66.7	50.0	22.2	22.2	38.9	16.7	-	16.7	-	
30歳代	43	53.5	34.9	27.9	23.3	30.2	11.6	2.3	20.9	-	
40歳代	112	66.1	50.9	25.9	18.8	29.5	18.8	-	10.7	1.8	
50歳代	114	75.4	59.6	34.2	27.2	21.9	18.4	-	7.9	0.9	
60歳代	107	64.5	44.9	27.1	12.1	15.0	17.8	0.9	17.8	0.9	
70～74歳	61	65.6	39.3	32.8	23.0	8.2	31.1	-	16.4	1.6	
75歳以上	81	54.3	50.6	28.4	19.8	12.3	28.4	-	21.0	3.7	
女性18～29歳	35	68.6	54.3	25.7	40.0	45.7	2.9	2.9	11.4	2.9	
30歳代	64	70.3	45.3	29.7	29.7	40.6	10.9	-	10.9	-	
40歳代	121	75.2	47.9	35.5	38.8	34.7	14.9	1.7	5.0	-	
50歳代	157	75.8	56.1	33.8	31.2	26.1	19.7	0.6	8.9	0.6	
60歳代	111	83.8	51.4	44.1	27.9	18.0	23.4	0.9	7.2	0.9	
70～74歳	45	77.8	51.1	35.6	20.0	11.1	40.0	-	8.9	4.4	
75歳以上	70	70.0	47.1	25.7	15.7	4.3	28.6	-	11.4	-	

2 水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと【問34】

【全体の状況】

水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいことを複数回答で尋ねたところ、「桜祭りなどの四季折々のイベント」が45.4%で最も多く、次いで「ダム観光放流などのイベント」が35.5%であった。（図表12-2-1）

図表12-2-1 水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと（複数回答）



図表12-2-2 水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいこと（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

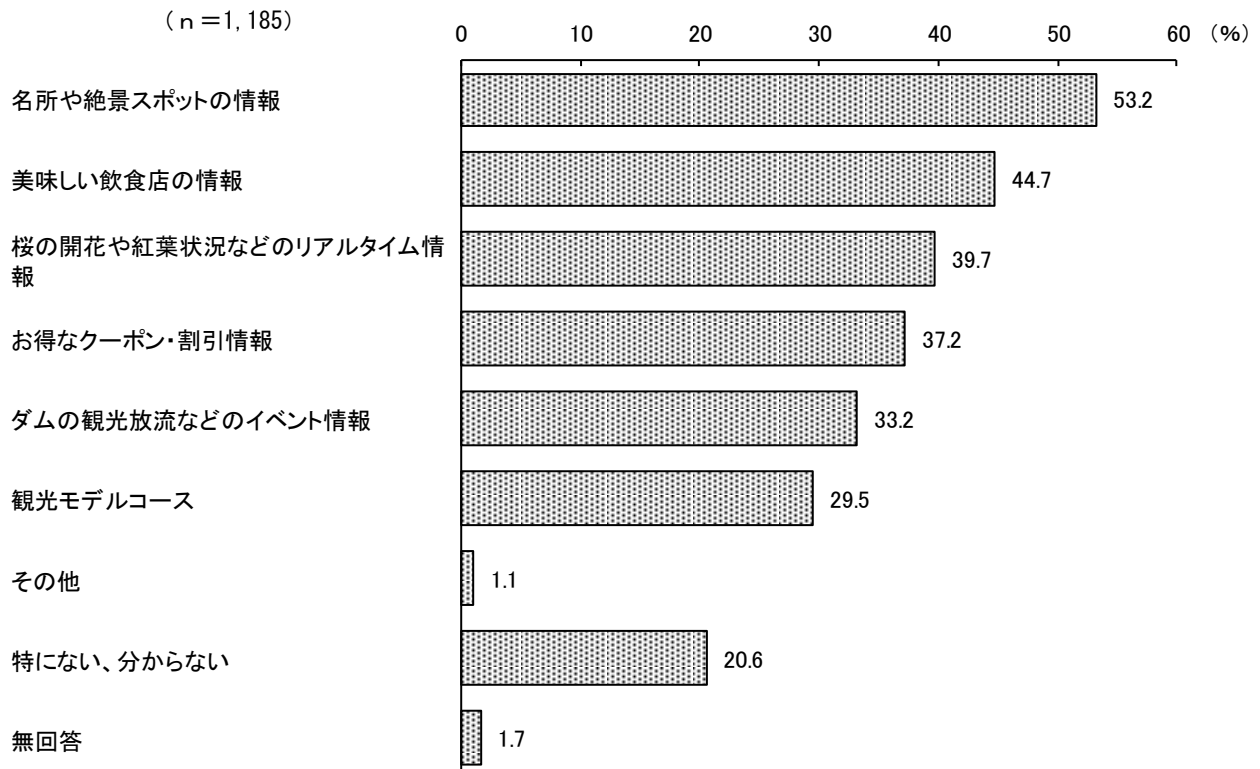
	n	桜祭りなどの四季折々のイベント	ダムの観光放流などのイベント	地元ガイドによる自然散策ツアー	キャンプなどのダム周辺での野外体験	カヌーなどの湖でのスポーツ体験	収穫などの農業・林業体験	陶芸などの伝統工芸の創作体験	地元ガイドによる歴史・文化ツアー	移住・ワーケーションなどのお試し体験	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,185	45.4	35.5	28.4	24.7	23.5	22.4	20.8	19.3	6.6	0.8	16.9	1.4
【地域別】													
横浜	477	44.4	34.2	29.6	25.6	26.8	23.9	21.6	19.5	8.4	1.0	18.2	0.8
川崎	160	50.0	39.4	31.9	25.6	21.9	25.0	22.5	26.3	6.9	0.6	10.6	1.3
相模原	77	55.8	48.1	28.6	26.0	23.4	22.1	24.7	15.6	11.7	-	10.4	1.3
横須賀三浦	104	36.5	34.6	26.0	23.1	19.2	20.2	16.3	16.3	4.8	1.0	17.3	-
県央	115	44.3	40.0	26.1	22.6	25.2	24.3	20.9	13.9	5.2	0.9	20.0	0.9
湘南	187	48.1	34.8	25.7	23.0	21.4	22.5	21.4	19.8	3.7	1.1	16.6	2.7
県西	55	38.2	18.2	27.3	27.3	14.5	7.3	12.7	18.2	-	-	23.6	3.6
【性・年代別】													
男性	536	41.6	34.7	25.0	28.5	23.7	21.1	12.5	19.4	7.3	1.3	18.7	1.1
女性	603	50.1	38.1	31.8	21.9	24.5	24.2	28.4	18.7	6.5	0.5	14.6	0.8
男性18～29歳	18	33.3	16.7	27.8	55.6	38.9	27.8	11.1	27.8	11.1	5.6	11.1	-
30歳代	43	37.2	34.9	20.9	34.9	37.2	25.6	11.6	16.3	7.0	2.3	16.3	-
40歳代	112	50.0	41.1	17.9	45.5	39.3	31.3	22.3	15.2	9.8	-	8.0	1.8
50歳代	114	43.9	40.4	28.1	27.2	21.9	19.3	16.7	23.7	9.6	0.9	14.9	0.9
60歳代	107	38.3	36.4	30.8	25.2	21.5	21.5	9.3	21.5	8.4	2.8	15.9	0.9
70～74歳	61	44.3	27.9	29.5	13.1	8.2	16.4	9.8	24.6	1.6	-	21.3	1.6
75歳以上	81	33.3	24.7	21.0	13.6	8.6	8.6	-	12.3	2.5	1.2	43.2	1.2
女性18～29歳	35	57.1	34.3	14.3	28.6	42.9	22.9	22.9	8.6	5.7	2.9	11.4	-
30歳代	64	53.1	43.8	17.2	43.8	43.8	23.4	28.1	10.9	9.4	-	9.4	-
40歳代	121	52.1	48.8	34.7	40.5	41.3	37.2	35.5	15.7	8.3	1.7	4.1	-
50歳代	157	51.6	38.2	31.2	17.8	22.9	26.8	35.7	21.7	10.8	-	11.5	0.6
60歳代	111	53.2	34.2	39.6	9.0	13.5	22.5	23.4	23.4	2.7	-	22.5	0.9
70～74歳	45	40.0	42.2	37.8	6.7	4.4	6.7	24.4	33.3	2.2	-	13.3	6.7
75歳以上	70	38.6	20.0	34.3	5.7	2.9	11.4	12.9	12.9	-	-	34.3	-

3 「神奈川やまなみ五湖navi」などの観光情報サイトで知りたいこと【問35】

【全体の状況】

「神奈川やまなみ五湖navi」などの観光情報サイトにおいて、どのようなことを知りたいか複数回答で尋ねたところ、「名所や絶景スポットの情報」が53.2%で最も多く、次いで「美味しい飲食店の情報」が44.7%であった。（図表12-3-1）

図表12-3-1 「神奈川やまなみ五湖navi」などの観光情報サイトで知りたいこと（複数回答）



図表12-3-2 「神奈川やまなみ五湖navi」などの観光情報サイトで知りたいこと（複数回答）
 ー地域別、性・年代別

(%)

	n	名所や絶景スポットの情報	美味しい飲食店の情報	桜の開花や紅葉状況などのリアルタイム情報	お得なクーポン・割引情報	報 告	ダム の 観 光 放 流 な ど の イ ベ ン ト 情 報	観 光 モ デ ル コ ー ス	そ の 他	特 に な い 、 分 か ら な い	無 回 答
全 体	1,185	53.2	44.7	39.7	37.2	33.2	29.5	1.1	20.6	1.7	
【地 域 別】											
横 浜	477	51.2	44.7	38.6	37.9	34.4	31.9	1.0	21.4	1.0	
川 崎	160	58.1	49.4	35.6	40.6	38.1	35.6	1.9	17.5	1.3	
相 模 原	77	53.2	54.5	45.5	51.9	33.8	29.9	1.3	15.6	2.6	
横 須 賀 三 浦	104	52.9	34.6	40.4	34.6	28.8	26.0	2.9	21.2	1.0	
県 央	115	54.8	44.3	40.9	29.6	34.8	28.7	-	26.1	-	
湘 南	187	56.7	47.1	44.4	35.8	33.2	24.1	0.5	17.6	2.7	
県 西	55	45.5	30.9	34.5	30.9	18.2	18.2	-	23.6	5.5	
【性・年代別】											
男 性	536	49.8	40.7	34.7	34.1	31.3	24.8	1.1	25.4	1.5	
女 性	603	57.2	48.4	44.4	41.1	36.3	35.0	1.2	16.4	0.8	
男性18～29歳	18	55.6	44.4	16.7	27.8	11.1	16.7	-	27.8	-	
30歳代	43	44.2	51.2	20.9	30.2	23.3	37.2	-	27.9	-	
40歳代	112	51.8	46.4	32.1	44.6	38.4	30.4	1.8	22.3	1.8	
50歳代	114	53.5	51.8	31.6	37.7	38.6	29.8	1.8	20.2	1.8	
60歳代	107	54.2	43.0	44.9	33.6	36.4	20.6	0.9	23.4	0.9	
70～74歳	61	50.8	26.2	44.3	31.1	29.5	14.8	1.6	24.6	1.6	
75歳以上	81	37.0	18.5	33.3	21.0	14.8	18.5	-	38.3	2.5	
女性18～29歳	35	40.0	51.4	40.0	54.3	25.7	25.7	5.7	22.9	-	
30歳代	64	54.7	46.9	37.5	48.4	37.5	37.5	-	18.8	-	
40歳代	121	64.5	61.2	47.1	57.9	51.2	44.6	0.8	9.1	-	
50歳代	157	58.0	54.8	49.7	38.9	39.5	35.7	1.9	14.6	0.6	
60歳代	111	64.0	44.1	39.6	39.6	32.4	42.3	0.9	15.3	0.9	
70～74歳	45	53.3	42.2	55.6	24.4	31.1	28.9	-	13.3	6.7	
75歳以上	70	45.7	22.9	37.1	17.1	17.1	11.4	-	31.4	-	

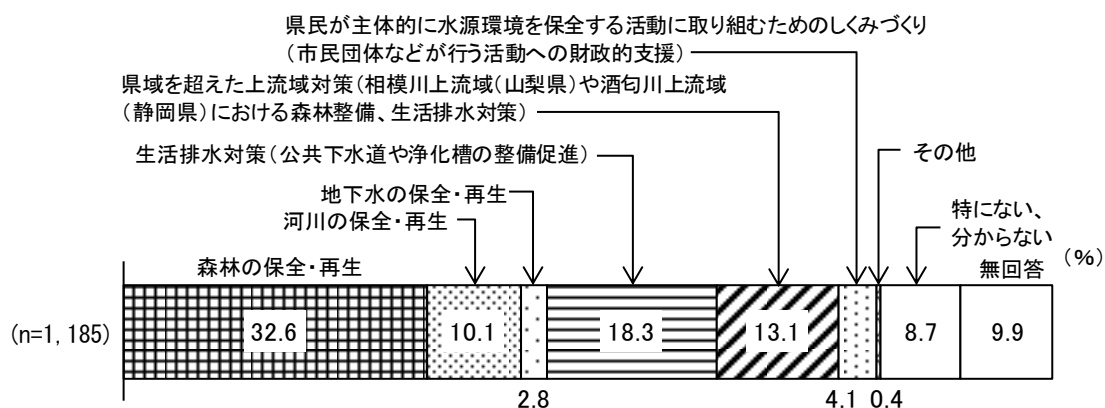
第13章 水源環境保全・再生の取組み【問36～問37】

1 水源地域の環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組み【問36】

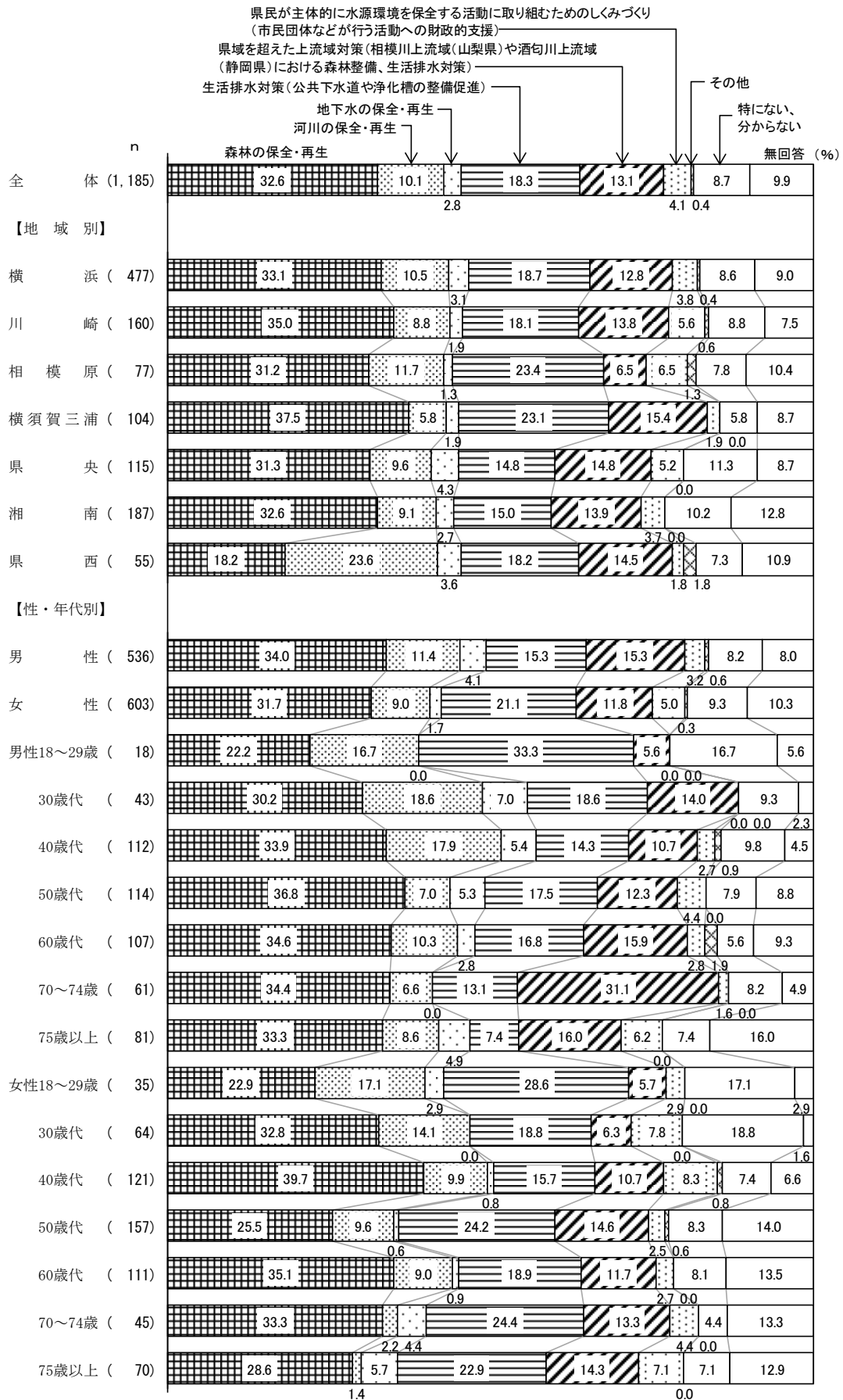
【全体の状況】

水源地域の環境の保全・再生のために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことを尋ねたところ、「森林の保全・再生」が32.6%で最も多く、次いで「生活排水対策（公共下水道や浄化槽の整備促進）」が18.3%であった。（図表13-1-1）

図表13-1-1 水源地域の環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組み



図表13-1-2 水源地域の環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組み－地域別、性・年代別



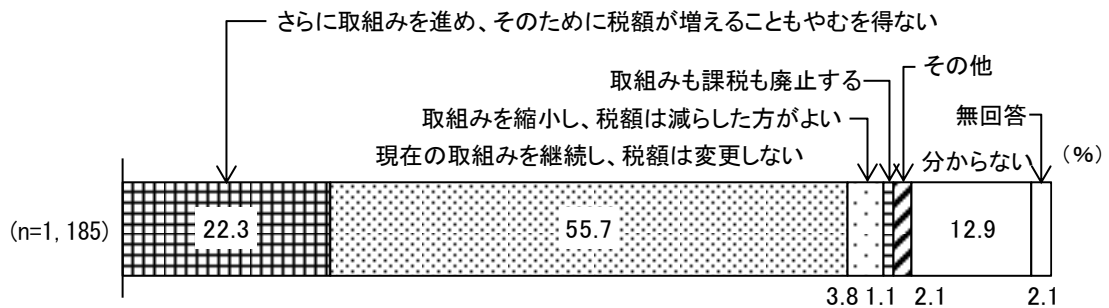
2 水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか【問37】

【全体の状況】

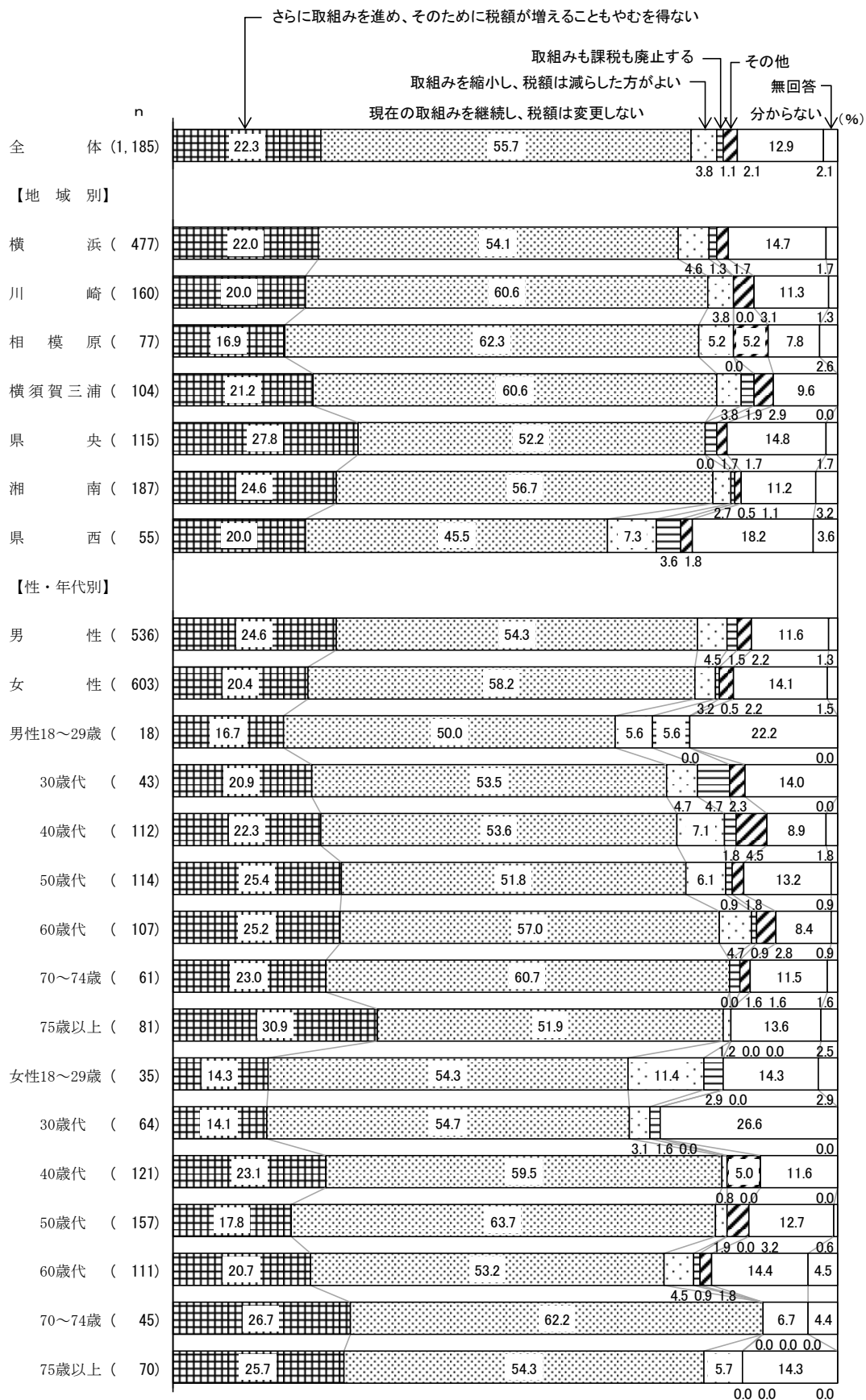
水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「現在の取組みを継続し、税額は変更しない」が55.7%で最も多く、次いで「さらに取組みを進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」が22.3%であった。

(図表13-2-1)

図表13-2-1 水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか



図表13-2-2 水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか
—地域別、性・年代別



第14章 生物多様性【問38～問40】

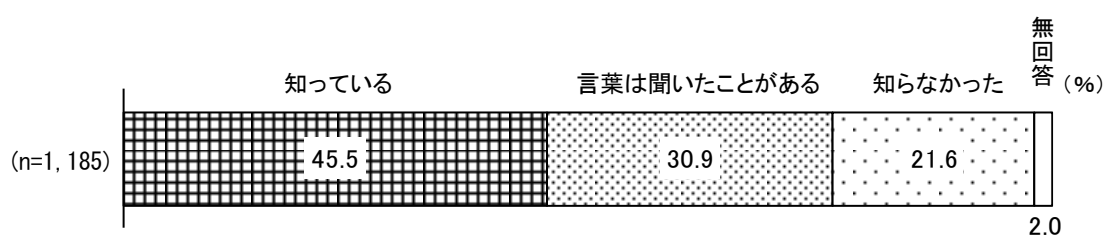
1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問38】

【全体の状況】

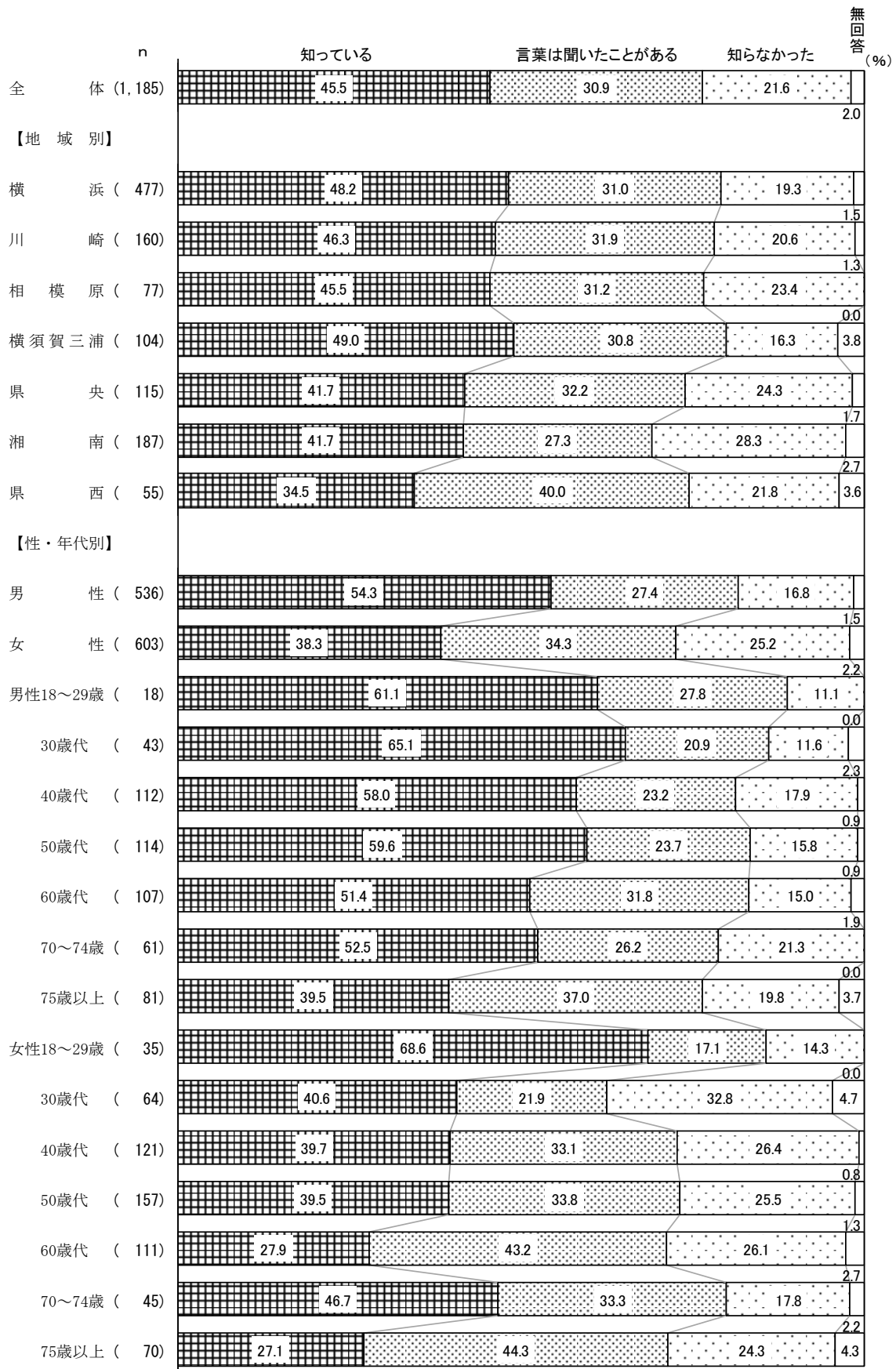
「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が45.5%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が30.9%であった。

一方、「知らなかった」が21.6%であった。(図表14-1-1)

図表14-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表14-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別

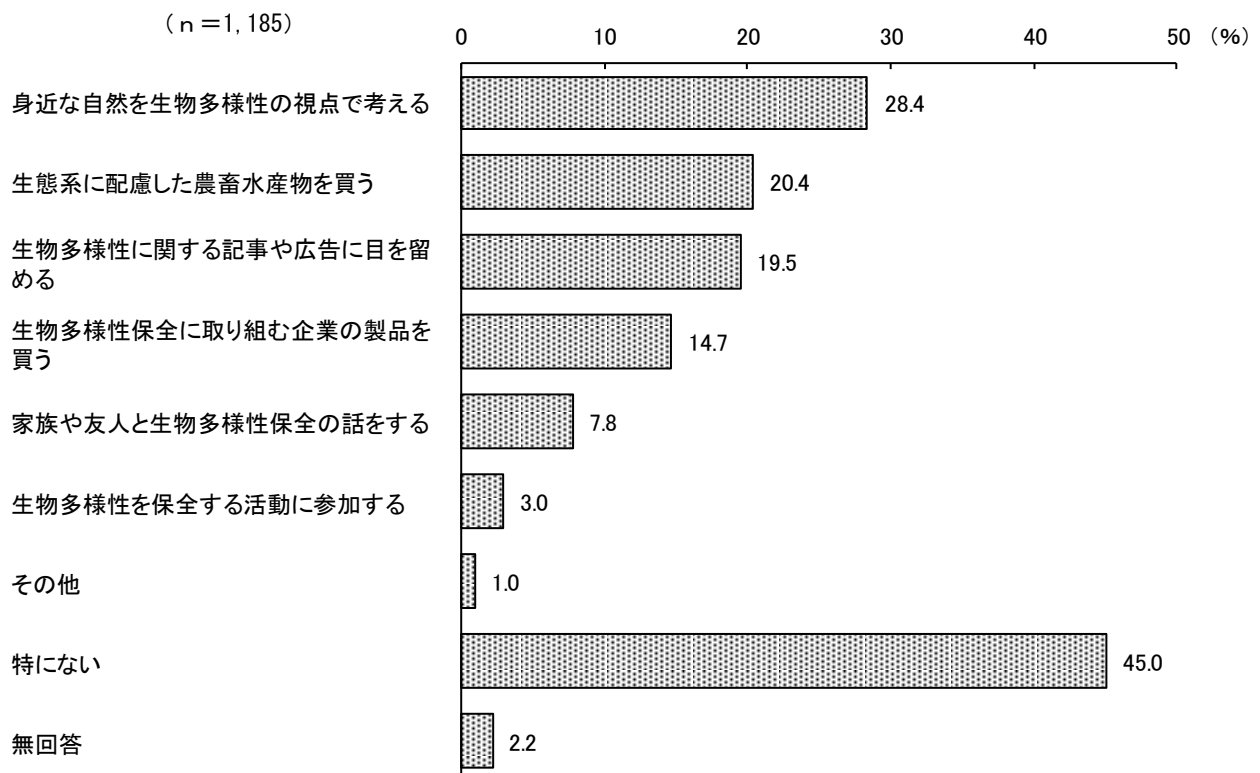


2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること【問39】

【全体の状況】

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が28.4%で最も多く、次いで「生態系に配慮した農畜水産物を買う」が20.4%であった。（図表 14-2-1）

図表14-2-1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答)



図表14-2-2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) - 地域別、性・年代別

(%)

	n	身近な自然を生物多様性の視点で考える	生態系に配慮した農畜水産物を買う	生物多様性に関する記事や広告に目を留める	生物多様性保全に取り組む企業の製品を買う	家族や友人と生物多様性保全の話をする	生物多様性を保全する活動に参加する	その他	特にない	無回答
全 体	1,185	28.4	20.4	19.5	14.7	7.8	3.0	1.0	45.0	2.2
【地 域 別】										
横 浜	477	29.1	18.9	19.7	13.0	8.2	1.3	0.6	45.5	1.7
川 崎	160	25.6	18.1	18.8	13.1	6.3	2.5	1.9	51.3	0.6
相 模 原	77	24.7	19.5	22.1	19.5	2.6	2.6	2.6	45.5	1.3
横 須 賀 三 浦	104	37.5	26.9	19.2	14.4	7.7	3.8	1.0	33.7	1.9
県 央	115	18.3	22.6	20.9	13.0	7.8	7.0	0.9	48.7	4.3
湘 南	187	27.8	21.4	17.6	19.3	9.6	3.7	1.1	43.3	2.1
県 西	55	36.4	20.0	16.4	14.5	10.9	7.3	-	47.3	3.6
【性・年代別】										
男 性	536	33.0	18.3	20.5	13.8	7.8	5.0	1.1	44.0	1.3
女 性	603	23.7	22.9	18.1	15.9	8.3	1.3	1.0	46.1	2.5
男性18~29歳	18	22.2	27.8	16.7	16.7	11.1	16.7	-	61.1	-
30歳代	43	41.9	14.0	23.3	9.3	9.3	11.6	2.3	44.2	-
40歳代	112	25.0	16.1	13.4	10.7	8.9	6.3	1.8	50.9	-
50歳代	114	33.3	19.3	21.9	17.5	13.2	4.4	0.9	38.6	0.9
60歳代	107	43.0	20.6	22.4	8.4	3.7	2.8	0.9	40.2	1.9
70~74歳	61	29.5	19.7	24.6	23.0	6.6	-	1.6	47.5	1.6
75歳以上	81	30.9	16.0	22.2	14.8	3.7	4.9	-	40.7	3.7
女性18~29歳	35	37.1	14.3	17.1	20.0	8.6	-	-	45.7	2.9
30歳代	64	14.1	6.3	6.3	6.3	10.9	1.6	1.6	64.1	3.1
40歳代	121	21.5	19.8	15.7	12.4	8.3	1.7	1.7	48.8	0.8
50歳代	157	28.7	19.7	17.8	15.3	10.2	1.9	1.3	46.5	1.3
60歳代	111	25.2	31.5	24.3	17.1	9.0	0.9	0.9	42.3	2.7
70~74歳	45	17.8	44.4	20.0	26.7	2.2	-	-	33.3	4.4
75歳以上	70	20.0	27.1	22.9	21.4	4.3	1.4	-	38.6	5.7

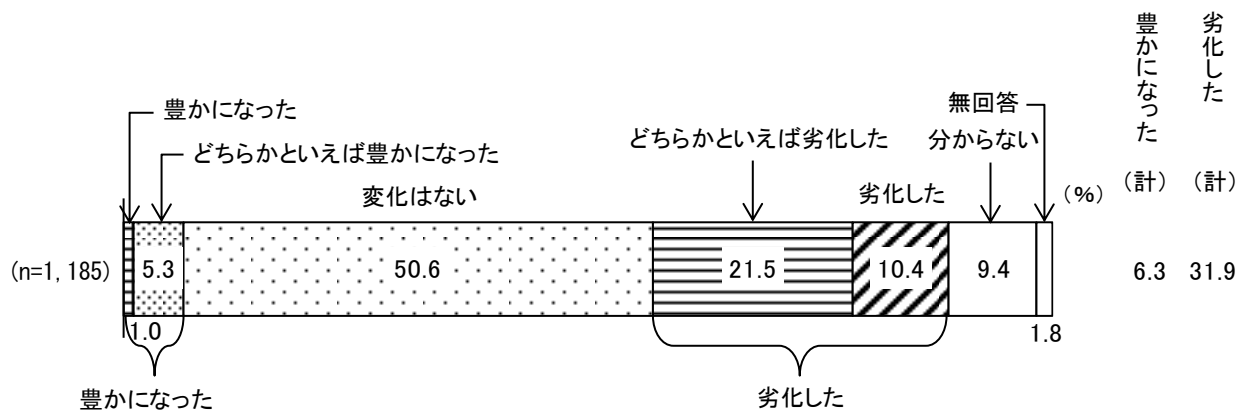
3 周辺地域の自然環境の変化【問40】

【全体の状況】

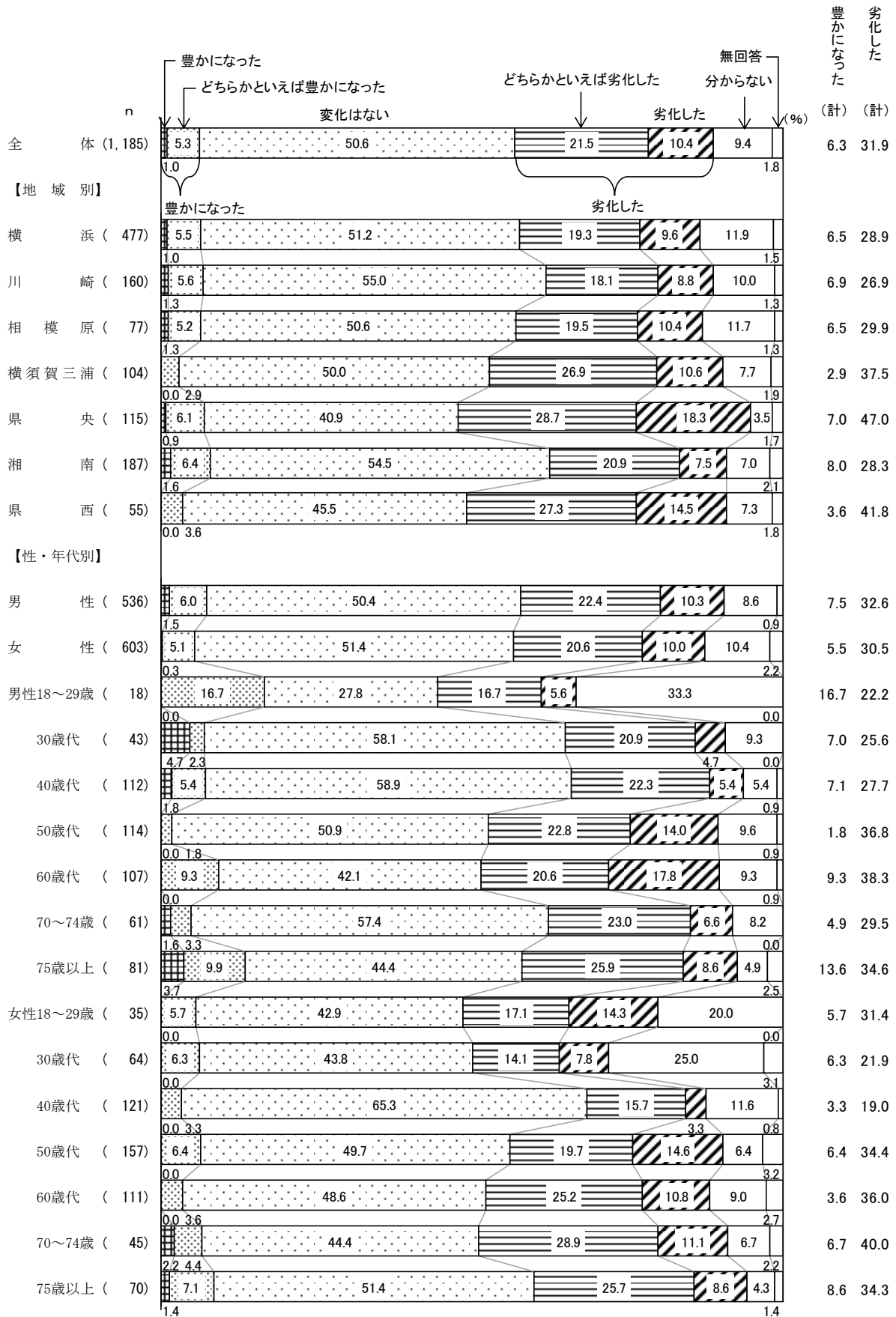
周辺地域の自然環境の変化について尋ねたところ、「豊かになった」(1.0%)と「どちらかといえば豊かになった」(5.3%)を合わせた《豊かになった》は6.3%であった。

一方、「劣化した」(10.4%)と「どちらかといえば劣化した」(21.5%)を合わせた《劣化した》は31.9%であった。(図表14-3-1)

図表14-3-1 周辺地域の自然環境の変化



図表14-3-2 周辺地域の自然環境の変化—地域別、性・年代別



第15章 消防団【問41～問43】

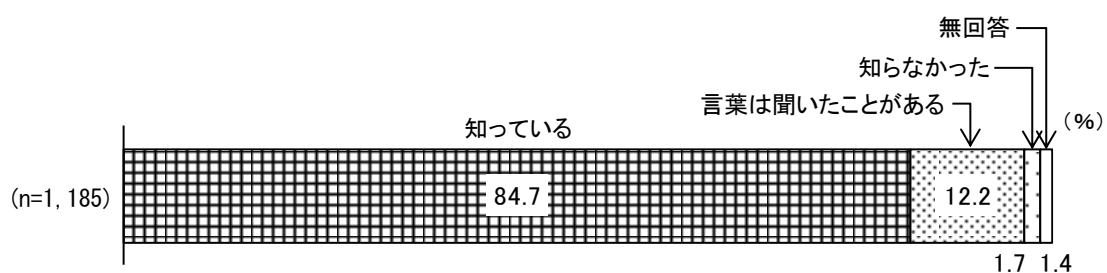
1 消防団の認知度【問41】

【全体の状況】

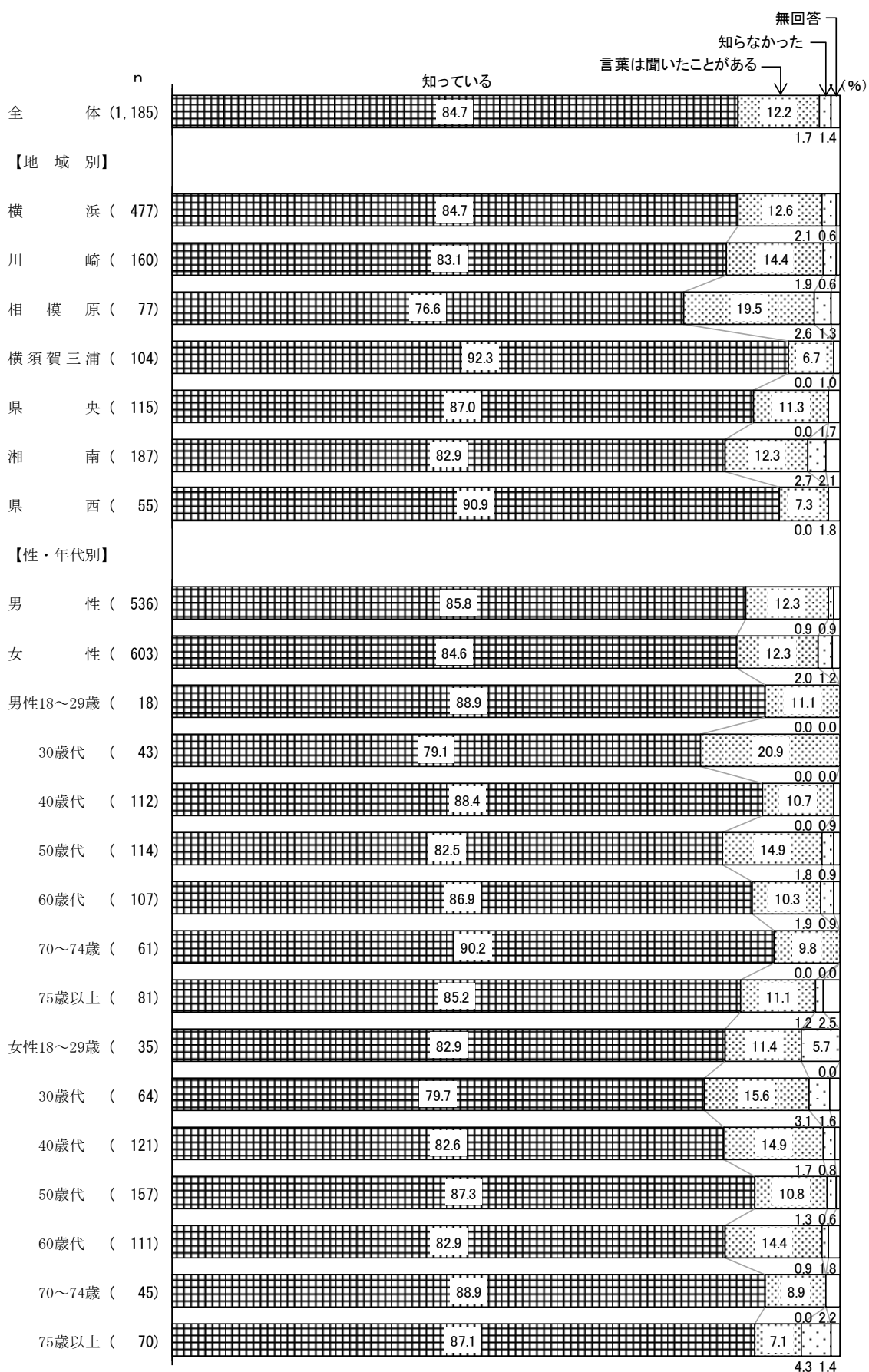
消防団を知っているか尋ねたところ、「知っている」が84.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が12.2%であった。

一方、「知らなかった」が1.7%であった。(図表15-1-1)

図表15-1-1 消防団の認知度



図表15-1-2 消防団の認知度—地域別、性・年代別

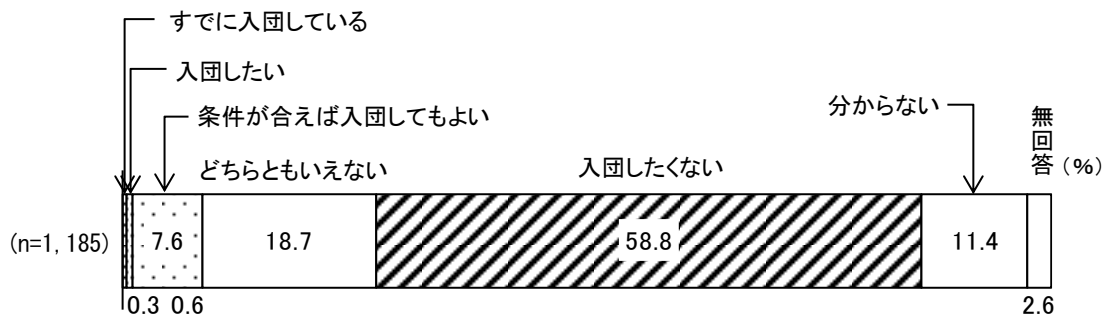


2 消防団への入団意向【問42】

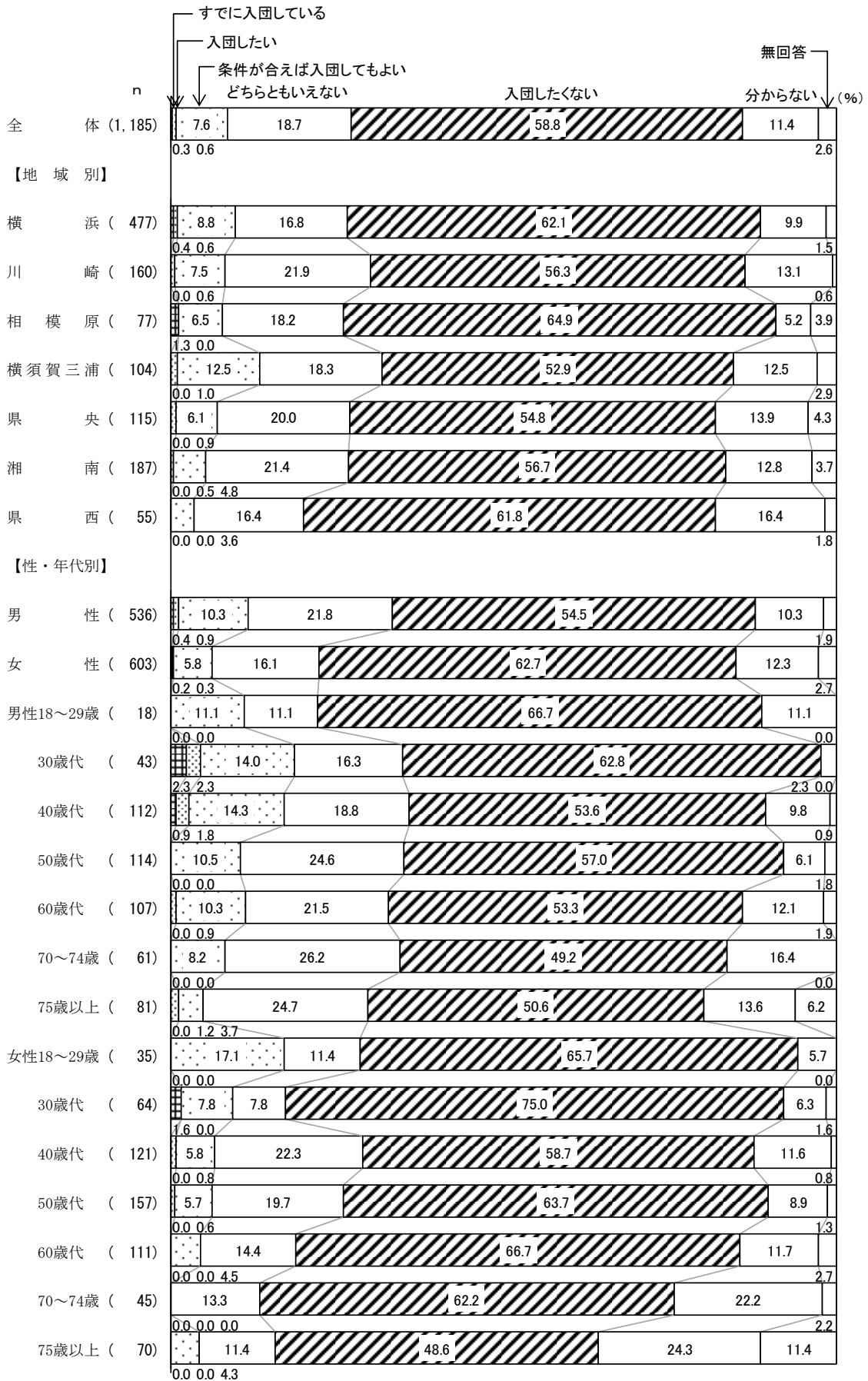
【全体の状況】

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない」が58.8%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が18.7%であった。（図表15-2-1）

図表15-2-1 消防団への入団意向



図表15-2-2 消防団への入団意向－地域別、性・年代別

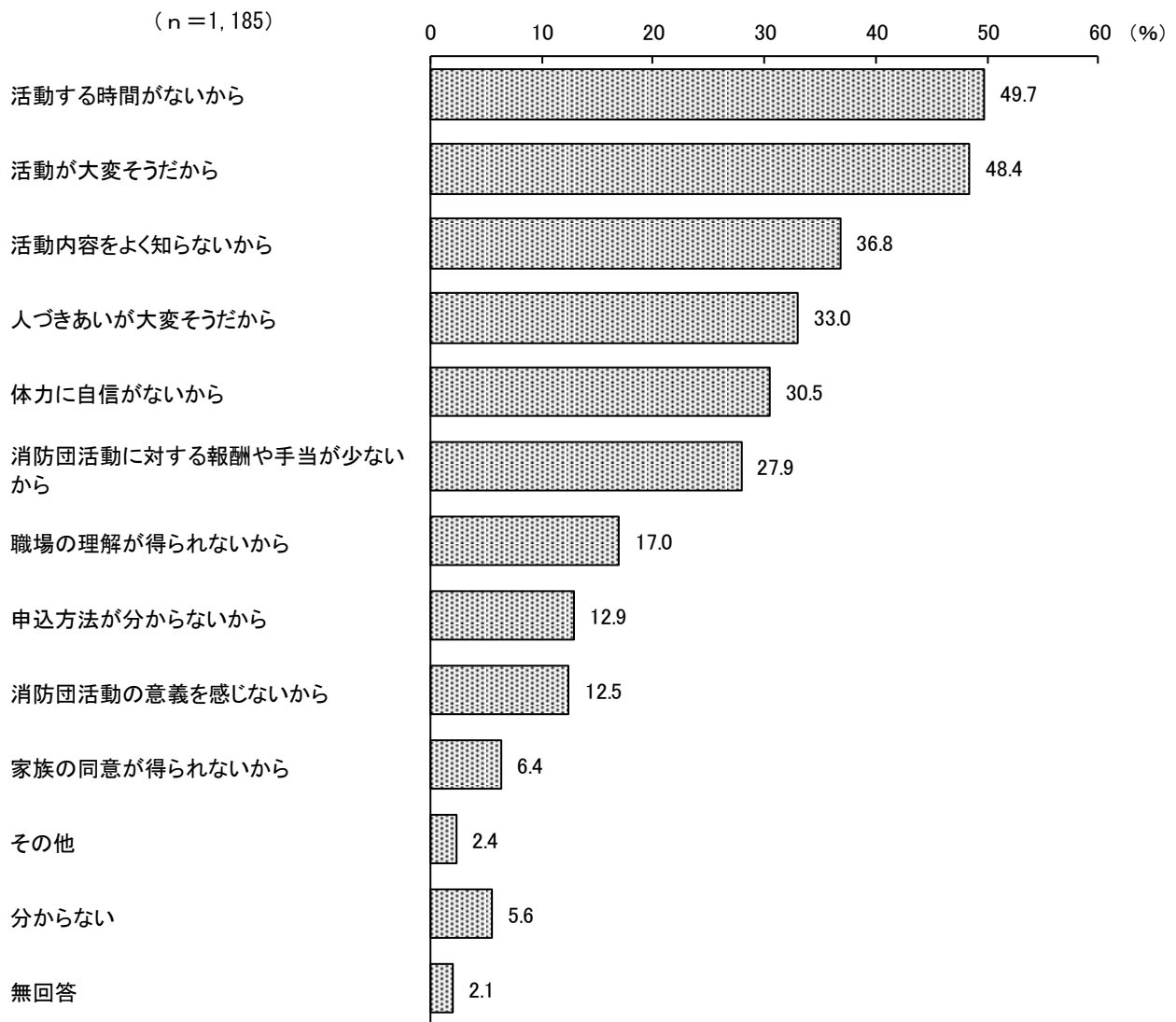


3 消防団に入団する人が少ない理由【問43】

【全体の状況】

消防団に入団する人が少ない理由について複数回答で尋ねたところ、「活動する時間がないから」が49.7%で最も多く、次いで「活動が大変そうだから」が48.4%であった。(図表15-3-1)

図表15-3-1 消防団に入団する人が少ない理由（複数回答）



図表15-3-2 消防団に入団する人が少ない理由（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	活動する時間がないから	活動が大変そうだから	活動内容をよく知らないから	人づきあいが大変そうだから	体力に自信がないから	消防団活動に対する報酬や手当が少ないから	職場の理解が得られないから	申込方法が分からないから	消防団活動の意義を感じないから	家族の同意が得られないから	その他	分からない	無回答
全 体	1,185	49.7	48.4	36.8	33.0	30.5	27.9	17.0	12.9	12.5	6.4	2.4	5.6	2.1
【地 域 別】														
横 浜	477	52.8	49.3	37.9	37.9	33.8	29.8	14.9	12.8	11.5	7.1	2.1	6.1	1.3
川 崎	160	58.8	52.5	41.9	31.3	30.0	25.6	18.1	18.8	10.6	5.6	2.5	5.0	0.6
相 模 原	77	45.5	46.8	40.3	26.0	31.2	36.4	19.5	14.3	20.8	6.5	2.6	1.3	2.6
横 須 賀 三 浦	104	44.2	41.3	39.4	36.5	32.7	25.0	20.2	16.3	13.5	4.8	2.9	1.9	1.0
県 央	115	47.8	47.0	32.2	27.8	23.5	26.1	15.7	10.4	13.0	4.3	2.6	9.6	3.5
湘 南	187	43.9	47.6	33.2	29.4	28.3	26.7	19.3	10.2	12.8	7.5	3.7	4.8	2.7
県 西	55	41.8	58.2	27.3	27.3	21.8	23.6	20.0	3.6	12.7	7.3	-	9.1	1.8
【性・年代別】														
男 性	536	52.6	46.8	32.5	35.3	29.7	28.0	18.8	13.6	14.6	6.0	2.8	5.4	1.5
女 性	603	48.8	50.6	41.6	31.5	31.5	28.0	15.6	12.9	10.1	7.1	2.3	5.3	1.8
男性18～29歳	18	55.6	44.4	22.2	55.6	33.3	38.9	5.6	16.7	16.7	-	-	5.6	-
30歳代	43	62.8	60.5	30.2	55.8	27.9	55.8	27.9	16.3	34.9	7.0	2.3	2.3	-
40歳代	112	66.1	50.0	40.2	52.7	17.0	29.5	25.0	16.1	13.4	8.9	3.6	0.9	0.9
50歳代	114	59.6	51.8	37.7	44.7	32.5	28.1	17.5	18.4	13.2	7.0	2.6	3.5	0.9
60歳代	107	48.6	47.7	30.8	28.0	29.9	24.3	16.8	15.0	13.1	3.7	2.8	1.9	0.9
70～74歳	61	31.1	42.6	27.9	16.4	32.8	23.0	11.5	3.3	11.5	6.6	1.6	11.5	-
75歳以上	81	39.5	30.9	23.5	6.2	40.7	17.3	18.5	7.4	11.1	3.7	3.7	16.0	6.2
女性18～29歳	35	42.9	57.1	45.7	42.9	42.9	45.7	11.4	17.1	14.3	17.1	2.9	-	2.9
30歳代	64	48.4	57.8	42.2	45.3	32.8	35.9	17.2	17.2	12.5	6.3	1.6	3.1	1.6
40歳代	121	55.4	54.5	44.6	41.3	24.8	38.0	18.2	17.4	9.9	9.1	-	1.7	0.8
50歳代	157	54.8	55.4	41.4	37.6	31.8	27.4	11.5	14.6	8.3	6.4	2.5	2.5	0.6
60歳代	111	51.4	52.3	41.4	24.3	39.6	21.6	21.6	6.3	9.0	7.2	3.6	5.4	1.8
70～74歳	45	46.7	37.8	42.2	15.6	35.6	24.4	20.0	11.1	6.7	4.4	4.4	6.7	4.4
75歳以上	70	24.3	28.6	34.3	4.3	20.0	8.6	8.6	7.1	14.3	2.9	2.9	21.4	4.3

第IV部 調査票と単純集計結果

調査期間 令和6年10月25日～11月19日
標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,185 (39.5%)
※ 「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

令和6年度(2024年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。



神奈川県PR
キャラクター
かながわ
キンタロウ

【テーマ】

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 かながわの文化芸術 | 9 肝炎対策 |
| 2 かながわの道路 | 10 循環器病対策 |
| 3 かながわの人権 | 11 脱炭素・環境 |
| 4 配偶者等からの暴力 | 12 かながわの水源地域 |
| 5 生活に不安や課題がある人への支援 | 13 水源環境保全・再生の取組み |
| 6 インクルーシブ教育 | 14 生物多様性 |
| 7 「未病改善」の取組み | 15 消防団 |
| 8 依存症に対する意識 | |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、
11月19日(火)までにご投函ください。
(切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)



※インターネットからもご回答いただけます！
(左記二次元コードから回答画面へ)

インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

【お問い合わせ先】 神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム



二次元コードから送信

※11月19日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間 月～金 8:30～17:15

(12:00～13:00を除く／土日祝日は閉庁)

1 かながわの文化芸術

問1 この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加※した日数はどのくらいになりますか。
(○は1つ) (n=1,185) (%)

1 週に5日以上	0.7	6 年に2～3日程度	27.6
2 週に2～4日程度	0.8	7 年に1日程度	15.4
3 週に1日程度	1.4	8 まったくない	29.7
4 月に1～3日程度	7.1	9 分からない	1.1
5 3か月に1～2日程度	14.8		(無回答 1.6)

※ ここでいう鑑賞とは、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財、アートや音楽のフェスティバルなどの文化芸術イベントを楽しみ、味わうことをいい、活動に参加とはそれ以外のことをいいます。

問2 ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンルは、次のうちどれですか。
(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 伝統文化(民謡、三味線、歌舞伎、能など)	15.2	6 文学(詩、俳句、短歌、小説など)	4.6
2 演芸(落語、講談、漫才、浪曲など)	19.5	7 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)	41.7
3 生活文化(生け花、盆栽、書道など)	8.7	8 映像作品(映画、アニメ、CGなど)	50.7
4 音楽(歌謡曲、ポップス、クラシックなど)	61.7	9 その他	1.1
5 演劇・舞踊(ミュージカル、バレエなど)	38.9	10 行ってみたいとは思わない	7.8
			(無回答 1.3)

問3 文化芸術活動に参加※してみたいと思うジャンルは、次のうちどれですか。
(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 伝統文化(民謡、三味線、歌舞伎、能など)	4.1	6 文学(詩、俳句、短歌、小説など)	5.1
2 演芸(落語、講談、漫才、浪曲など)	1.9	7 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)	24.9
3 生活文化(生け花、盆栽、書道など)	13.6	8 映像作品(映画、アニメ、CGなど)	8.2
4 音楽(歌謡曲、ポップス、クラシックなど)	19.6	9 その他	0.4
5 演劇・舞踊(ミュージカル、バレエなど)	6.5	10 してみたいとは思わない	47.3
			(無回答 2.4)

※ ここでいう参加とは、自身で創作、発表することに限り、鑑賞や読書を含みません。

2 かながわの道路

問4 いつでも、どこへも、渋滞なく快適に移動するためには、道路事業において、どのようなことが特に重要だと思いますか。(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 新しく道を作ったり、幅を広げたりするなどして、道路網を充実すること	20.0
2 交差点を改良するなどして、車の流れをスムーズにすること	37.5
3 駅につながる道路やバス路線の幅を広げるなどして、公共交通を利用しやすくすること	31.6
4 その他	1.4
5 特にない、分からない	6.5
	(無回答 3.0)

問5 安心してくらすためには、どのような道路をつくることが特に重要だと思いますか。(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 見通しがよいなどの工夫がされ、交通事故が減るような道路	29.1
2 通学路に歩道を整備するなど、歩行者や自転車が安心して通れる道路	51.4
3 自然災害が起きたときなど、緊急車両※がスムーズに通れる道路	13.9
4 その他	1.3
5 特にない、分からない	1.4
	(無回答 3.0)

※ 緊急車両とは、救急車、消防車、パトカー、災害復旧を行う自衛隊車両などのことをいいます。

問6 人や物の行き来を増やし、生活や経済活動が活力あふれるためには、どのような道路をつくることが特に重要だと思いますか。(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 毎日の生活を支える病院や駅などを結ぶ道路	51.0
2 産業活動を支える港湾施設や物流拠点などを結ぶ道路	19.5
3 観光地やレジャー施設へアクセスしやすい道路	17.0
4 その他	2.1
5 特にない、分からない	7.5
	(無回答 2.9)

問7 気持ちのよい環境のなかでくらすためには、何を大切に道路をつくることが特に重要だと思いますか。(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 交通による騒音を減らすなど、道路の近くの環境をよくすること	29.9
2 交通により発生する二酸化炭素を減らすなど、地球環境をよくすること	28.9
3 電線を地中化※するなど、まちの景観をよくすること	33.4
4 その他	2.8
5 特にない、分からない	2.9
	(無回答 2.1)

※ 電線を地中化とは、電力線や通信線などを、道路の地下空間に埋めることをいいます。

3 かながわの人権

問8 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 そう思う	28.4	3 そう思わない	17.6
2 どちらともいえない	50.5		(無回答 3.5)

問9 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題は何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 子どもの人権	29.1	8 貧困(※2)などによる人権問題	35.4
2 女性の人権	31.0	9 犯罪被害者などの人権	23.5
3 障がい者の人権	28.3	10 拉致被害者の人権	13.8
4 高齢者の人権	25.7	11 性的マイノリティの人権	17.6
5 医療従事者・患者などの人権	20.1	12 インターネットにおける人権問題	50.3
6 同和問題(部落差別)(※1)	4.9	13 その他	2.7
7 外国人の人権	11.0	14 特になし	5.7
			(無回答 1.6)

※1 同和問題(部落差別)とは、一部の人々が、特定の地域出身であることや、そこに住んでいることを理由に日常生活の上で様々な差別を受けるといった、わが国固有の人権課題のことをいいます。

※2 貧困とは、平均収入の半分以下の世帯であり、年齢に関係なく住む家がない状態に陥っている状態や、適切な支援につながらず、生活に困窮している状態のことをいいます。

問10 人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 学校などにおける人権教育	58.2	6 差別的表現の規制・モニタリング	18.8
2 企業などにおける人権研修	31.9	7 国による法整備	45.9
3 広告やインターネットを活用した啓発活動	20.0	8 地方自治体による条例整備	28.7
4 相談体制の充実	31.1	9 その他	2.2
5 当事者を支援する取り組みの充実	32.7	10 分からない	4.1
			(無回答 1.4)

4 配偶者等からの暴力

問11 配偶者等からの暴力(DV)について、知っていたことを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 DV被害者相談窓口がある	79.2
2 DV被害者相談窓口は、男性向けもある	28.7
3 DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる	59.0
4 子どもの前でDVが行われることは、子どもへの虐待となる	52.2
5 恋人同士の間で起こる暴力を「デートDV」という	30.0
6 どれも知らなかった	10.4
	(無回答 2.0)

5 生活に不安や課題がある人への支援

問 12 私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思いますか。
(○は1つ) (n=1,185) (%)

1	そう思う	6.8	4	どちらかといえばそう思わない	24.4
2	どちらかといえばそう思う	16.3	5	そう思わない	28.4
3	どちらともいえない	21.9	6	分からない	1.4
					(無回答 0.8)

問 13 ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思いますか。(○は1つ) (n=1,185) (%)

1	そう思う	4.1	4	どちらかといえばそう思わない	29.0
2	どちらかといえばそう思う	14.2	5	そう思わない	20.3
3	どちらともいえない	22.0	6	分からない	9.5
					(無回答 1.0)

問 14 日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思いますか。

(○は1つ) (n=1,185) (%)

1	そう思う	2.4	4	どちらかといえばそう思わない	28.9
2	どちらかといえばそう思う	7.9	5	そう思わない	26.8
3	どちらともいえない	22.3	6	分からない	10.0
					(無回答 1.6)

6 インクルーシブ教育

問 15 県のめざす「インクルーシブ教育」を知っていますか。(○は1つ) (n=1,185) (%)

1	知っている	12.1	3	知らなかった	64.8
2	言葉は聞いたことがある	22.0	(無回答 1.1)		

※ インクルーシブ教育とは、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、(障がい、国籍、性別などにかかわらず、) 同じ場でともに学びともに育つことをめざす取組みのことをいいます。

問 16 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思いますか。(○は1つ) (n=1,185) (%)

1	そう思う	3.3	4	そう思わない	21.1
2	どちらかといえばそう思う	20.8	5	分からない	29.9
3	どちらかといえばそう思わない	23.9	(無回答 1.0)		

問 17 すべての子どもが学べる学校づくりに、ボランティアなどで参加したいと思いますか。

(○は1つ) (n=1,185) (%)

1	参加したい	6.9	4	参加したくない	17.7
2	どちらかといえば参加したい	26.8	5	分からない	32.2
3	どちらかといえば参加したくない	15.2	(無回答 1.2)		

7 「未病改善」の取組み

問 18 「未病（ME-BYO）」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	27.3	3 知らなかった	41.7
2 言葉は聞いたことがある	27.4		(無回答 3.6)

※ **未病**とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念のことをいいます。

問 19 過去1年間で「未病改善」※の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思いますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 もともに行っており、今も行っている	22.5	
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	18.7	
3 以前は行っていなかったが、行うようになった	7.9	
4 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	13.8	
5 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	2.8	
6 以前から行っておらず、今も行っていない	29.6	(無回答 4.6)

※ **未病改善**とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことをいいます。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

問 20 「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,185) (%)

1 医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	36.7
2 健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	36.1
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	7.1
4 スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	40.8
5 家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	36.2
6 健康状態を気軽に知ることができる施設やイベント	28.6
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	5.1
8 将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスクを知ること	26.7
9 その他	2.1
10 特になし	2.4
11 分からない	5.1
	(無回答 5.1)

問 21 「フレイル」※という言葉を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	24.1	3 知らなかった	55.9
2 言葉は聞いたことがある	15.5		(無回答 4.6)

※ **フレイル**とは、高齢になって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態のことをいい、多くの方が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態になると考えられています。

8 依存症に対する意識

問 22 依存症※について、あてはまると思うことを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 誰でもなる可能性がある	80.5	6 依存対象が生活の最優先事項になる	28.9
2 意志が弱いことが原因でなるわけではない	32.9	7 その他	0.3
3 やめたくても、やめられなくなる病気である	63.2	8 分からない	2.3
4 回復することはできるが時間がかかる	50.1	9 あてはまるものはない	1.8
5 自分が依存症であることを認めない	33.3	(無回答 3.5)	

※ 依存症とは、アルコールや薬物など、特定の物質を摂取することや、ギャンブルやゲーム、インターネットなど、特定の行動にのめり込み、心やからだ、社会生活に問題が出ることをいいます。

問 23 依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 依存症専門医療機関・専門クリニック	60.8	
2 かかりつけ医 (内科医など)	30.7	
3 行政機関 (精神保健福祉センター、保健所など)	31.6	
4 回復支援施設 (依存症回復のための通所・入所施設)	38.3	
5 当事者や家族などの自助グループ	23.0	
6 弁護士・司法書士	1.9	
7 その他	0.3	
8 分からない	11.2	
9 知っているものはない	7.3	(無回答 3.6)

【問 23 で 1～7 を選んだ方へ】

問 23-1 相談できる場所を知ったきっかけを選んでください。(○はいくつでも) (n=922) (%)

1 ポスター・チラシ	19.6	6 家族・知人から	13.4
2 県・市町村の広報誌 (県のたよりなど)	23.9	7 職場・学校	11.6
3 医療機関・行政機関などのホームページ	21.1	8 その他	14.0
4 ソーシャルメディア (※1)	25.3	9 分からない、覚えていない	11.9
5 電車内・街中のデジタル広告 (※2)	8.9	(無回答 4.4)	

※1 ソーシャルメディアとは、例えばX (旧 Twitter)、Facebook、Instagram などがあります。

※2 デジタル広告とは、電車のドア上や網棚上の液晶ディスプレイ、街中のデジタルサイネージなどを使った広告のことをいいます。

9 肝炎対策

問 24 「ウイルス性肝炎」※という病気を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	53.5	3 知らなかった	7.3
2 言葉は聞いたことがある	38.4		(無回答 0.8)

※ **ウイルス性肝炎**とは、肝炎ウイルスにより肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気をいいます。日本では特にB型、C型肝炎にかかる人が多くなっており、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。

問 25 これまでに「肝炎ウイルス検査」※を受けたことがありますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 ある	16.6	3 ない	62.2
2 受けた可能性がある	8.9	4 分からない	11.6
			(無回答 0.6)

※ **肝炎ウイルス検査**は、本人が自覚的に受ける場合のほか、大きな外科手術（全身麻酔での手術で1993年以降に経験）、妊娠・出産（1993年以降に経験）及び献血（1990年以降に経験）をしたときに無自覚に受けた可能性があります。

→【問 25 で 1、2 を選んだ方へ】

問 25-1 検査の結果を知っていますか。 (○は1つ) (n=303) (%)

1 知っている	76.9	3 分からない、覚えていない	17.8
2 知らない（結果待ちを含む）	5.0		(無回答 0.3)

10 循環器病対策

問 26 脳卒中の主な初期症状について、知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 顔の片側がゆがむ	51.4	3 ろれつが回らない	87.4
2 左右いずれかの腕に力が入らない	50.3	4 どれも知らなかった	9.9
			(無回答 1.1)

問 27 脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っていますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	86.4	2 知らなかった	12.7
			(無回答 0.9)

問 28 心臓病は、ひとたび発症すると再発率が高いという特徴があります。再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っていますか。

(○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	51.9	2 知らなかった	47.3
			(無回答 0.8)

11 脱炭素・環境

問 29 今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいですか。

(〇はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 脱炭素化※など地球温暖化を防ぐための取組み	56.6	6 環境教育に関する取組み	37.0
2 自然環境や生物多様性の保全のための取組み	49.0	7 その他	1.5
3 廃棄物対策など資源循環のための取組み	59.2	8 特にない、分からない	5.6
4 大気環境保全のための取組み	34.6		
5 水質や水辺の環境保全のための取組み	53.5		(無回答 0.6)

※ 脱炭素化とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすることをいいます。

問 30 省エネや再エネ※の導入など、脱炭素を意識した取組みを行っていますか。

(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 すでに行っている	27.6	4 あまり関心がなく行う予定もない	7.3
2 今後行う予定である	4.0	5 全く関心がない	4.0
3 関心はあるが行ってはいない	55.9		(無回答 1.2)

※ 再エネとは、「再生可能エネルギー」の略称で、太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなどから作られ、資源を枯渇させずに繰り返し使うことができ、発電や熱利用をするときに地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど出さないエネルギーのことをいいます。

問 31 家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用※したいと思いませんか。

(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 すでに使用している	9.9	4 使用したいと思わない	8.3
2 電気代が今よりもかかっても使用したい	3.4	5 分からない	14.2
3 電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい	63.4		(無回答 0.9)

※ 再エネ由来の電力の使用とは、自宅やマンションの屋根などに太陽光発電設備を設置し、その電力を使っている、または電力会社が用意している再生可能エネルギープランを契約していることをいいます。

問 32 「気候変動への適応」※に関心がありますか。

(〇は1つ) (n=1,185) (%)

1 関心がある	54.5	4 関心がない	2.8
2 どちらかといえば関心がある	33.8	5 分からない	4.0
3 どちらかといえば関心がない	4.1		(無回答 0.8)

※ 気候変動への適応とは、地球温暖化を主要因とした気温上昇や大雨の増加などによる健康被害や自然災害などの影響を防いだり減らしたりすること(例：災害への備え、熱中症予防など)をいいます。地球温暖化が進むと、これらの影響は更に大きくなる恐れがあります。

12 かながわの水源地域

問 33 水源地域※の観光地でお土産などを購入する際に、重視するポイントは何ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 価格の手ごろさ	49.5	5 商品サイズの持ち帰りやすさ	25.1
2 デザインや見た目の良さ	22.7	6 天然素材を使用するなど環境への配慮がある	20.5
3 地元の特産品や限定品	69.6	7 その他	0.6
4 品質の良さや保存期間の長さ	31.7	8 特にない、分からない	11.6
(無回答 1.6)			

※ **水源地域**とは、水道水源としてのダム湖（相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖及び宮ヶ瀬湖）が位置する地域である相模原市（城山地区、津久井地区、相模湖地区及び藤野地区）、山北町、愛川町、清川村のことをいいます。

問 34 水源地域で行ってみたいイベントや体験してみたいことは何ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 桜祭りなどの四季折々のイベント	45.4	7 ダムの観光放流などのイベント	35.5
2 カヌーなどの湖でのスポーツ体験	23.5	8 収穫などの農業・林業体験	22.4
3 キャンプなどのダム周辺での野外体験	24.7	9 陶芸などの伝統工芸の創作体験	20.8
4 地元ガイドによる歴史・文化ツアー	19.3	10 その他	0.8
5 地元ガイドによる自然散策ツアー	28.4	11 特にない、分からない	16.9
6 移住・ワーケーションなどのお試し体験	6.6	(無回答 1.4)	

問 35 「神奈川やまなみ五湖 navi」※などの観光情報サイトにおいて、どのようなことを知りたいですか。

(〇はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 お得なクーポン・割引情報	37.2	6 観光モデルコース	29.5
2 美味しい飲食店の情報	44.7	7 その他	1.1
3 ダムの観光放流などのイベント情報	33.2	8 特にない、分からない	20.6
4 名所や絶景スポットの情報	53.2	(無回答 1.7)	
5 桜の開花や紅葉状況などのリアルタイム情報	39.7		

※ **神奈川やまなみ五湖 navi** (<https://www.suigen.jp>)とは、県内の5つのダム湖周辺の四季折々の情報やイベント、グルメ・温泉などのレジャー情報といった観光に役立つ情報を発信しているポータルサイトのことをいいます。

13 水源環境保全・再生の取組み

問 36 水源地域の環境の保全・再生のために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 森林の保全・再生	32.6
2 河川の保全・再生	10.1
3 地下水の保全・再生	2.8
4 生活排水対策（公共下水道や浄化槽※の整備促進）	18.3
5 県域を超えた上流域対策 （相模川上流域（山梨県）や酒匂川上流域（静岡県）における森林整備、生活排水対策）	13.1
6 県民が主体的に水源環境を保全する活動に取り組むためのしくみづくり （市民団体などが行う活動への財政的支援）	4.1
7 その他	0.4
8 特になし、分からない	8.7
	（無回答 9.9）

※ 浄化槽とは、台所や風呂場、洗濯などからの排水を浄化する設備のことです。

県では、県民の皆さんに個人県民税の超過課税（水源環境保全税）という特別なご負担をお願いし、水源環境の保全・再生を進めています。納税者一人当たりの平均負担額は、年額約 880 円です。

これまでの取組みにより、森林の緑のダムとしての機能の回復や河川環境の改善などの成果が出ています。一方、森林保全に影響があるシカの対策などの課題も残されています。

問 37 水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組みについて、今後どのようにしたらよいと思うか、考えに近いものを選んでください。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 さらに取組みを進め、そのために税額が増えることもやむを得ない	22.3
2 現在の取組みを継続し、税額は変更しない	55.7
3 取組みを縮小し、税額は減らした方がよい	3.8
4 取組みも課税も廃止する	1.1
5 その他	2.1
6 分からない	12.9
	（無回答 2.1）

14 生物多様性

問 38 「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	45.5	3 知らなかった	21.6
2 言葉は聞いたことがある	30.9		(無回答 2.0)

※ **生物多様性**とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。

問 39 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 生態系に配慮した農畜水産物(※1)を買う	20.4		
2 生物多様性保全に取り組む企業(※2)の製品を買う	14.7		
3 身近な自然を生物多様性の視点で考える	28.4		
4 生物多様性に関する記事や広告に目を留める	19.5		
5 生物多様性を保全する活動に参加する	3.0		
6 家族や友人と生物多様性保全の話をする	7.8		
7 その他	1.0		
8 特になし	45.0		(無回答 2.2)

※1 **生態系に配慮した農畜水産物**とは、環境保全型農業や有機畜産により生産された農畜産物、持続可能な漁業による水産物のことをいいます。例えば、有機JAS認証やエコファーマーマーク、海のエコラベルがついた製品が挙げられます。

※2 **生物多様性保全に取り組む企業**とは、製品製造時に環境負荷軽減に配慮したり、清掃や植林などの保全活動を継続して実施したりしている企業のことをいいます。

問 40 お住いの周辺地域の自然環境は、おおよそ3年前と比べてどのような変化があったと感じますか。

(○は1つ) (n=1,185) (%)

1 豊かになった	1.0	4 どちらかといえば劣化した	21.5
2 どちらかといえば豊かになった	5.3	5 劣化した	10.4
3 変化はない	50.6	6 分からない	9.4
			(無回答 1.8)

15 消防団

問 41 消防団※を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 知っている	84.7	3 知らなかった	1.7
2 言葉は聞いたことがある	12.2		(無回答 1.4)

※ 消防団とは、普段は別の仕事などをしながら、消火・救助活動、防火啓発活動などを行う、その市町村に居住（または勤務・通学）している人で構成される市町村の消防機関のことをいいます。

問 42 消防団に入団したいと思いますか。 (○は1つ) (n=1,185) (%)

1 すでに入団している	0.3	4 どちらともいえない	18.7
2 入団したい	0.6	5 入団したくない	58.8
3 条件が合えば入団してもよい	7.6	6 分からない	11.4
			(無回答 2.6)

問 43 消防団員の減少が全国的に問題となっています。消防団に入団する人が少ない理由は何だと思
いますか。 (○はいくつでも) (n=1,185) (%)

1 消防団活動の意義を感じないから	12.5	7 人づきあいが大変そうだから	33.0
2 申込方法が分からないから	12.9	8 家族の同意が得られないから	6.4
3 活動する時間がないから	49.7	9 職場の理解が得られないから	17.0
4 活動が大変そうだから	48.4	10 消防団活動に対する報酬や手当が少ないから	27.9
5 活動内容をよく知らないから	36.8	11 その他	2.4
6 体力に自信がないから	30.5	12 分からない	5.6
			(無回答 2.1)

次ページへ続きます

…**

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,185) (%)

1	横浜 (横浜市)	40.3
2	川崎 (川崎市)	13.5
3	相模原 (相模原市)	6.5
4	横須賀三浦 (横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	8.8
5	県央 (厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	9.7
6	湘南 (平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	15.8
7	県西 (小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.6
		(無回答 0.8)

F 2 差し支えなければ、あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,185) (%)

1	男性	45.2	2	女性	50.9	(無回答 3.9)
---	----	------	---	----	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2024年11月1日現在) (n=1,185) (%)

1	18~19歳	—	5	35~39歳	4.6	9	55~59歳	10.4	13	75~79歳	10.0
2	20~24歳	1.3	6	40~44歳	8.6	10	60~64歳	11.4	14	80歳以上	3.3
3	25~29歳	3.2	7	45~49歳	11.7	11	65~69歳	7.7			
4	30~34歳	4.6	8	50~54歳	13.0	12	70~74歳	9.2	(無回答 1.1)		

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,185) (%)

1	小学校入学前	7.3	5	短大、専門学校等在学中	1.3	9	その他	2.6
2	小学校在学中	11.4	6	大学、大学院等在学中	8.3	10	子どもはいない	28.2
3	中学校在学中	8.4	7	学校教育終了 [未婚]	24.0			
4	高校在学中	7.9	8	学校教育終了 [既婚]	27.6	(無回答 1.6)		

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1,185) (%)

1	一人暮らし (単身世帯)	12.1	4	祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.5
2	夫婦のみ (1世代世帯)	31.1	5	その他の世帯	4.1
3	親と子の世帯 (2世代世帯)	47.8			(無回答 1.4)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,185) (%)

(n=755) (%)

1 自営業主 6.4	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業 0.5
2 家族従業者 (家業手伝い) 0.9		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営) 4.4
3 勤め (フルタイム) 40.3	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など) 5.4
4 勤め (パートタイム) 16.0		エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上) 8.3
5 内職 —		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など) 18.5
6 主婦・主夫(勤めていない) 15.0		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など) 24.4
7 学生 0.8		キ 教育職(教諭、保育士など) 7.5
8 無職 15.6		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など) 7.8
9 その他 0.5		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員) 18.3
(無回答 4.3)		(無回答 4.8)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月19日(火)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 かながわの文化芸術 | 9 肝炎対策 |
| 2 かながわの道路 | 10 循環器病対策 |
| 3 かながわの人権 | 11 脱炭素・環境 |
| 4 配偶者等からの暴力 | 12 かながわの水源地域 |
| 5 生活に不安や課題がある人への支援 | 13 水源環境保全・再生の取組み |
| 6 インクルーシブ教育 | 14 生物多様性 |
| 7 「未病改善」の取組み | 15 消防団 |
| 8 依存症に対する意識 | |

下記にその内容をご記載ください。

217人(18.3%)から自由意見が寄せられました。

